令和６年度

児童教育学科 幼児教育学専攻

授　業　要　覧

SYLLABUS

YJC 山口短期大学

Yamaguchi Junior College

授業要覧

目　次

基礎教育科目

宗教学	1
生活と芸術	3
余暇生活論	6
比較文化概説（一般学生対象）	8
比較文化概説（留学生対象）	10
日本国憲法	12
現代社会問題	14
行動科学	16
物理学	18
生物学	22
データサイエンス入門	24
学問と人間の探求	26
国際交流	28
言葉とコミュニケーション（一般学生対象）	30
言葉とコミュニケーション（留学生対象）	32
英語会話	35
ハングル	37
日本語（留学生対象）	40
健康科学	43
スポーツ教育	45

児童教育学科 幼児教育学専攻

専門教育科目

幼児と言葉 47
幼児と音楽表現 50
音楽基礎と理論 52
ピアノⅠ 54
ピアノⅡ 57
幼児と造形表現 60
幼児図画工作 64
幼児と健康 68
幼児体育 72
幼児と人間関係 74
幼児と環境 77
社会福祉 80
子ども家庭福祉 83
児童福祉法と子どもの権利 85
保育原理 87
現代社会と保育行政 90
社会的養護Ⅰ 92
社会的養護Ⅱ 94
社会的養護演習 97
子ども家庭支援論 99
子育て支援 102
保育実習指導Ⅰ 105
保育実習Ⅰ 109
保育実習指導Ⅱ 112
保育実習Ⅱ 115
保育実習指導Ⅲ 117
保育実習Ⅲ 120
子どもの保健 122
子どもの健康と安全 125
子どもの疾病と保健 128
子どもの食と栄養 131
乳児保育Ⅰ 135
乳児保育Ⅱ 138
障害児保育 141
障害児・者の支援 144
特別講義 146
保育総合研究 148
児童文化財と子どもの遊び 150
現代教師論 153
学校教育の制度と経営 156
教育原論 158
教育心理学 162
発達心理学 164
子ども家庭支援の心理学 166
子どもの理解と援助 169
発達心理学Ⅱ（行動観察法） 171
臨床心理学 173
特別支援教育 175
教育方法学 179
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 182
情報処理実習Ⅰ 185
情報処理実習Ⅱ 188
幼児教育課程論 191
幼児指導法 195
保育内容総論 199
保育内容の指導法（健康） 202
保育内容の指導法（人間関係） 206
保育内容の指導法（環境） 209
保育内容の指導法（言葉） 213
保育内容の指導法（表現Ⅰ（音楽・造形）） 219
幼児理解と教育相談 227
教育実習指導 229
教育実習 232
学校体験活動 234
保育・教職実践演習（幼稚園） 236

基礎教育科目

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
宗教学 Religion	全学科	24BAHU1001	１年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	島田 一道	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	この講義の目標は宗教を知るということである。世界には数多くの宗教が存在し、その形態もさまざまである。日本においてもこれまでいくつもの宗教が誕生して、他国からも伝わってきている。まずはそれらを概観していく。そして、日本人はこれまで宗教とどのように関係してきたのか、それを歴史や文化の中からうかがっていく。 そして、現代に生きる我々がこれからどう宗教と向き合っていくのかを探っていきたい。	
到達目標	(1) 世界三大宗教（特に仏教）を知り、その内容を説明することができる。 (2) 日本における宗教の歴史を説明することができる。 (3) 浄土真宗や親鸞のことを説明することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	宗教とは何か	宗教全般について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
2	キリスト教	配布資料を読み込み、キリスト教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
3	イスラム教	配布資料を読み込み、イスラム教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
4	釈尊の生涯と仏教の誕生	教科書（講義時に指示）を読み込み、釈尊について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
5	仏教　その１	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
6	仏教　その２	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
7	仏教の伝播（インド→中国→日本）	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
8	日本宗教史 その１（古代～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（古代～）について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
9	日本宗教史 その２（中世～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（中世～）について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
10	日本宗教史 その３（近世～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（近世～）について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
11	親鸞の生涯と浄土真宗の誕生その１	教科書（講義時に指示）を読み込み、親鸞の生涯（前半）について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間

	12	親鸞の生涯と浄土真宗の誕生その２	教科書（講義時に指示）を読み込み、親鸞の生涯（後半）について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	13	浄土真宗　その１	教科書（講義時に指示）を読み込み、浄土真宗について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	14	浄土真宗　その２	教科書（講義時に指示）を読み込み、浄土真宗について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	15	まとめ	過去１４回の講義内容を振り返ってくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（100%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	試験において、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	『高校生からの仏教入門－釈尊から親鸞聖人へ－』小池秀章 著 本願寺出版社　2009年
メッセージなど	皆さんにとって「宗教」とはどんなイメージですか。そして、生きていく中で「宗教」を必要だと感じますか。 様々な宗教を知ることを通してこれらの問いを共に考えていきましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 世界三大宗教（特に仏教）を知り、その内容を説明することができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、基本を説明することができる。	多少間違えるが、最低限の基本は説明できる。	説明できない。	定期試験（知識･理解）	35%
(2) 日本における宗教の歴史を説明することができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、基本を説明することができる。	多少間違えるが、最低限の基本は説明できる。	説明できない。	定期試験（知識･理解）	35%
(3) 浄土真宗や親鸞のことを説明することができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、基本を説明することができる。	多少間違えるが、最低限の基本は説明できる。	説明できない。	定期試験（知識･理解）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
生活と芸術 Life and Art	全学科	24BAHU1002	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	木橋 奏子・椿 千栄子	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	芸術は生活分野から切り離すことが出来ない。芸術とは特定の芸術家だけの特権ではないし、高尚な芸術作品を美術館で鑑賞することや、クラシカルな演奏会へ行くことだけでもない。「生活と芸術」とは、“生活に密着した芸術”であり、“生活に役立つ芸術”、“生活を豊かにする為の芸術”であるとも言える。ここでは、日本の伝統文化の一つである華道、様々なジャンルの音楽、五感に触れる造形作品、絵手紙、カード制作をする中で、生活の中に芸術を取り入れるセンスと方法、技術を身につける。世界でたった一つの自分の作品を制作する喜びと達成感を味わう。	

到達目標

(1) 身近に「芸術」を取り入れて生活を豊かにするための感性を養うことができる。

(2) 自分や周囲の人の生活に彩りを与え豊かにするための「感性を磨く意欲」を高める事ができる。

(3) 生活の中で「使う、飾る、プレゼントする」目的で作品を描き、制作する事ができる。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション －生活と芸術とは－ 授業について			「生活と芸術」の関係について、自分の考えをまとめる	2時間
2	花に触れる①	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	ワークシートに基づき振り返る	2時間
3	花に触れる② －いけばなの基礎－	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	ワークシートに基づき振り返る	2時間
4	花に触れる③ －伝統から自由花へ－	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	ワークシートに基づき振り返る	2時間
5	芸術鑑賞① －クラシック音楽(1) バロック・古典派	前時に配布したプリントを読んでおく	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
6	芸術鑑賞② －クラシック音楽(2) ロマン派・近現代	クラシック音楽の指定された時代の中から1曲リストアップしてくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
7	芸術鑑賞③ －世界の音楽(1) 様々なジャンルに触れる－	クラシック音楽の指定された時代の中から1曲リストアップしてくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
8	芸術鑑賞④ －世界の音楽(2)映画音楽とクラシック音楽の関係－	映画音楽の指定された時代の中から1曲リストアップしてくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間

	9	プレゼンテーション －「私」と音楽－	好きな1曲についてプレゼンテーションの準備をしてくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	10	調理実習	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	11	折り紙	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	12	調理実習	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	13	折り紙	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	14	折り紙	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	15	調理実習	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間

成　績　評　価	作品（40%）、授業への取り組み（60%）
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法	
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：なし （プリントを随時配布）
メッセージ な　　ど	木橋担当授業回：花材費として、1000円程度必要です。それ以上かかることはありません。詳しくは初回授業日に説明します。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 身近に「芸術」を取り入れて生活を豊かにするための感性を養うことができる。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力が十分にある。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を概ね理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を理解できず、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がない。	作品（知識・理解・技能・判断力・作品の完成度）	10%
	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力が十分にある。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を概ね理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を理解できず、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がない。	授業への取り組み（関心･意欲･態度）	10%
(2) 自分や周囲の人の生活に彩りを与え豊かにするための「感性を磨く意欲」を高める事ができる。	生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲が十分にある。	生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲がある。	不十分ではあるが生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲がある。	生活の中に「芸術」を取り入れることができる感性を磨く意欲がない。	授業への取り組み（関心･意欲･態度）	50%
(3) 生活の中で「使う、飾る、プレゼントする」目的で作品を描き、制作する事ができる。	実際に使用したり、飾ったり、誰にでもプレゼントできるような作品を制作することができる。	実際に使用したり、飾ったり、知人であればプレゼントできるような作品を制作することができる。	人にプレゼントはできないかもしれないが、飾ったり、使用できる作品を制作することはできる。	実際に使用したり、飾ったり、人にプレゼントできるような作品を制作することができない。	作品（知識・技能・創造性・表現力・作品の完成度）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
余暇生活論 Study on Leisure Life	全学科	24BAHU1003	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	正長 清志	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○

概　　要	人間と社会のあり方を余暇生活というプラットホームから見つめ、学習者一人ひとりが、これからの豊かなライフスタイルを創造していくことをねらいとして、余暇生活の概要、余暇生活のデザインを創造していく。
到達目標	(1) 余暇生活、余暇活動についての基本を説明することができる。 (2) 各自が余暇生活を振り返り、自らの余暇生活を他者に説明できる。 (3) 余暇生活に関わる身近な問題について、自分の考えや意見を述べることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	授業ガイダンス自らのライフスタイルを振り返る			配付資料1	2時間
2	少子高齢社会における余暇生活について	配付資料1	2時間	配付資料2	2時間
3	余暇生活とレクリエーション①	配付資料2	2時間	配付資料3	2時間
4	余暇生活とレクリエーション②	配付資料3	2時間	配付資料4	2時間
5	余暇生活とレクリエーション③	配付資料4	2時間	配付資料5	2時間
6	余暇生活能力の向上に必要なこと①	配付資料5	2時間	配付資料6	2時間
7	余暇生活能力の向上に必要なこと②	配付資料6	2時間	配付資料7	2時間
8	余暇生活能力の向上に必要なこと③	配付資料7	2時間	配付資料8	2時間
9	自らのライフスタイルを振り返る報告会	配付資料8	2時間	配付資料9	2時間
10	余暇生活を創造する①個人・グループ作業 テーマ「豊かな学生生活を送るために」	配付資料9	2時間	配付資料10	2時間
11	余暇生活を創造する②個人・グループ作業 参考文献・先行研究の調査	配付資料10	2時間	配付資料11	2時間
12	余暇生活を創造する③個人・グループ作業 これまでの情報・調査収集のまとめ	配付資料11	2時間	配付資料12	2時間
13	今後の創造的な余暇生活をめざして	配付資料12	2時間	配付資料13	2時間
14	授業の感想・振り返りプレゼンテーション①	配付資料13	2時間	配付資料14	2時間
15	授業の感想・振り返りプレゼンテーション②　総括	配付資料14	2時間	配付資料	2時間

成　績　評　価	課題・レポート（80%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（20%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	毎時間の、授業振り返りシートにコメントを記載し、次の授業時に返却します。定期レポート結果は、ルーブリック評価にあわせて結果を返却します。課題についての振り返りと、フィードバックについては課題レポート提出後に解説します。
テキストおよび参　考　文　献	参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付していく。配付した資料を各自のファイルに整理し課題を振り返り、提出に備えてください。 【持 参 物】 記録用ファイル ※オープン教材を使用することがあります。
メッセージなど	入学してきた学生のみなさんと、豊かな余暇生活（学生生活）を送っていくためさらに、充実した人生のプログラムを開発しながら、自らの創造的な余暇生活を創造していきましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 余暇生活、余暇活動についての基本を説明することができる。	ほぼ完璧に説明できている。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが最低限の基本を説明できている。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	40%
(2) 各自が余暇生活を振り返り、自らの余暇生活を他者に説明できる。	ほぼ完璧に説明できている。	大きな間違いがなく、説明できている。	間違いはいくつかあるが最低限の説明ができている。	説明できていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	40%
(3) 余暇生活に関わる身近な問題について、自分の考えや意見をプレゼンテーションすることができる。	ほぼ完璧に自分の考えや意見を述べている。	大きな間違いがなく、自分の考えを述べている。	間違いはいくつかあるが最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力・プレゼンテーション）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
比較文化概説 Introduction to Comparative Culture	全学科 （一般学生対象）	24BAHU1004	１年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	林 伸一	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	日本の文化や風習を知り、自分の出身国（日本人の場合は外国）との違いを認識するとともに、異なる文化の存在への関心と理解を深める。	
到達目標	(1)文化、異文化ついて説明することができる。 (2)周りにいる人の異なるバックグラウンドを理解し、自身の価値観を探求することができる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	Introduction 、「異文化を理解する」	Day 2 の資料を読む。	2 時間		
2	「文化とは」（その１）	Day 3 の資料を読む。	2 時間	Day 1 の振り返り。	2 時間
3	「文化とは」（その２）	Day 4 の資料を読む。	2 時間	Day 1-3 の振り返り、レポート１に備える。	2 時間
4	「異文化適応」	Day 5 の資料を読む。	2 時間	Day 4 の振り返り。	2 時間
5	「シミュレーション」	Day 6 の資料を読む。	2 時間	Day 5 の振り返り。	2 時間
6	「違いに気づく」	Day 7 の資料を読む。	2 時間	Day 6 の振り返り、レポート２に備える。	2 時間
7	「異文化の認識」	Day 8 の資料を読む。	2 時間	Day 7 の振り返り。	2 時間
8	「差別を考える」	Day 9 の資料を読む。	2 時間	Day 8 の振り返り。	2 時間
9	「世界の価値観」	Day 10 の資料を読む。	2 時間	Day 9 の振り返り、レポート３に備える。	2 時間
10	「異文化トレーニング」	Day 11 の資料を読む。	2 時間	Day 10 の振り返り。	2 時間
11	「異文化受容」	Day 12 の資料を読む。	2 時間	Day 11 の振り返り。	2 時間
12	「自分を知る」	Day 13 の資料を読む。	2 時間	Day 12 の振り返り、レポート４に備える。	2 時間
13	「非言語コミュニケーション」	Day 14 の資料を読む。	2 時間	Day 13 の振り返り。	2 時間
14	「アサーティブコミュニケーション」	Day 15 の資料を読む。	2 時間	Day 14 の振り返り。	2 時間
15	「多文化共生社会の実現に向けて」	Day 1-15 の資料を読む。	2 時間	Day 1-15 の振り返り、最終レポートに備える。	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（50%）、グループワーク・グループ討議（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	ポートフォリオと感想文、レポートにはコメントを書いて返却する。
テキストおよび参考文献	資料は配布します。【参考文献】「異文化理解入門　原沢伊都夫　研究社」「グローバル社会における異文化コミュニケーション　池田理知子･塙幸枝　三修社」「よくわかる異文化コミュニケーション　池田理知子　ミネルヴァ書房」
メッセージなど	クラスメートとの協同学習に積極的に取り組む態度を求めます。内容・予定は変更する場合があります。楽しい授業を心がけたいと思いますので、学生の皆さんのご協力をお願いします。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 文化、異文化ついて説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく､説明できる。	間違いはいくつかあるが､説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	50%
(2) 周りにいる人の異なるバックグラウンドを理解し、自身の価値観を探求することができる。	周りにいる人を理解し、自身の価値観を探求できる。	ある程度､周りにいる人を理解し､自身の価値観を探求できる。	ある程度周りにいる人を理解し､ある程度自身の価値観を探求できる。	周りにいる人を理解しようとせず、自身の価値観も探求できない。	グループワーク･グループ討議（関心･意欲･態度･技能･表現力）	50%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
比較文化概説 Introduction to Comparative Culture	全学科 （留学生対象）	24BAHU2005	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	林 伸一	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	日本の文化や風習を知り、自分の出身国（日本人の場合は外国）との違いを認識するとともに、異なる文化の存在への関心と理解を深める。	
到達目標	(1) 日本の文化について理解することができる。 (2) 日本文化と異文化について説明することができる。 (3) 母国の文化と日本の文化の違いについて、テーマを選び、発表することができる。 (4) 日本事情を理解し、日本式のマナーを実践できる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和３年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	おもてなしの心・日本式のマナーと日本事情	オリエンテーション		該当箇所の復習。	2 時間
2	山口事情と山口の伝統文化・歴史	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
3	日本の若者のファッション：ダメージジーンズ	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
4	高齢化社会の日本事情	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
5	健康にいい日本食：栄養バランス	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
6	日本の映像芸術：フォトコンテスト	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
7	日本の色形容詞と実際の色彩	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
8	日本の四季：春夏秋冬（雪景色）	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
9	日本のソフトパワーとなったアニメ	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
10	山口の温泉と足湯	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
11	ヒューマンライブラリー（人間図書館）	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
12	朗読に挑戦してみよう！（金子みすゞ・中原中也）	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
13	世界に広がる日本文化	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
14	紙芝居で知る日本の昔話（桃太郎、一寸法師、かぐや姫など）	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
15	紙芝居で知る世界の昔話（裸の王様、ジャックと豆の木など）	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（80%）、小テスト（10%）発表・プレゼンテーション(10%)
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	小テストを採点し、返却時に間違った箇所を解説する。 課題の作文などを添削し、返却時に誤用例や模範例を示して解説する。
テキストおよび参考文献	PPT(パワーポイント）教材、大人が読んで考える絵本・紙芝居教材
メッセージなど	日本文化や異文化を絵本や紙芝居やパワーポイント教材で学びます。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 日本の文化について理解することができる。	日本文化についてほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いなく、ほぼ日本文化を理解できる。	間違いはいくつかあるが、基本的な日本文化理解ができる。	日本の文化について理解することができない。	定期試験（知識･理解）	上段20% 下段5% 小計25%
	日本文化についてほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いなく、ほぼ日本文化を理解できる。	間違いはいくつかあるが、基本的な日本文化理解ができる。	日本の文化について理解することができない。	小テスト（知識･理解）	
(2) 日本の文化について説明することができる。	日本文化についてほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく、ほぼ日本文化を説明できる。	間違いはいくつかあるが、基本的な日本文化の説明ができる。	日本の文化について説明することができない。	定期試験（知識･理解）	上段20% 下段5% 小計25%
	日本文化についてほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく、ほぼ日本文化を説明できる。	間違いはいくつかあるが、基本的な日本文化の説明ができる。	日本の文化について説明することができない。	小テスト（知識･理解）	
(3) 母国の文化と日本の文化の違いについて、テーマを選び、発表することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、発表することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、説明することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、理解することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、理解することができない。	定期試験（態度･表現力･判断力）	上段20% 下段5% 小計25%
	母国の文化と日本の文化の違いについて、発表することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、説明することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、理解することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、理解することができない。	発表･プレゼンテーション（態度･表現力･判断力）	
(4) 日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できる。	日本式のマナーを実践し、日本事情をよく理解できる。	日本式のマナーを適切に実践し、日本事情をほぼ理解できる。	ある程度、日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できる。	日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できない。	定期試験（態度･表現力･判断力）	上段20% 下段5% 小計25%
	日本式のマナーを実践し、日本事情をよく理解できる。	日本式のマナーを適切に実践し、日本事情をほぼ理解できる。	ある程度、日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できる。	日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できない。	発表･プレゼンテーション（態度･表現力･判断力）	

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年次	期別
日本国憲法 The Constitution of Japan	全学科	24BASO1001	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員
講義	2	選択	古澤　裕二

ディプロマ・ポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	日本国憲法の基本原理や具体的な条文の解釈だけではなく、憲法に関連するような法規や国内外の様々な社会問題等を取り上げ、現在の我が国における憲法はどうあるべきか、その望ましいあり方について考えを深めていきます。憲法に対する自分なりの見解をもつことによって、これまで以上に社会参画する力を身に付けることを目指します。	
到達目標	(1) 日本国憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について説明できる。 (2) 日本国憲法はどうあるべきか、望ましいあり方について提案できる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和３年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	日本国憲法の概要	概要確認	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
2	第一章「天皇」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
3	第二章「戦争の放棄」①	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
4	第二章「戦争の放棄」②	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
5	第三章「国民の権利と義務」①	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
6	第三章「国民の権利と義務」②	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
7	第三章「国民の権利と義務」③	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
8	第四章「国会」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
9	第五章「内閣」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
10	第六章「司法」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
11	第七章「財政」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
12	第八章「地方自治」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間

	13	第九章「改正」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
	14	「前文」、第十章「最高法規」、第十一章「補足」	内容確認・疑問点の明確化	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間
	15	まとめ	要点・疑問点の整理	0.5 時間	本時の学習内容を確認	0.5 時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、授業の取り組み（50%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対する模範解答や考え方を提示する。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：授業で参考資料を提示・配付 参考文献：第１回授業にて紹介 『百田尚樹の日本国憲法』百田尚樹著（祥伝社新書） 『超訳　日本国憲法』池上彰著（新潮新書）
メッセージなど	日本国憲法の公布以来、これまで何度も憲法改正の議論があったものの、実際には一度も改正されないまま今日を迎えています。そこで、憲法に関連するような法規や国内外の様々な問題等を学ぶことを通じて、現在の我が国における憲法はどうあるべきか、自分なりの「憲法改正私案」を考えてみましょう。きっと、憲法解釈だけではわからない憲法の問題点や自分たちがおかれている社会情勢についても認識が深まることと思います。当然、「これが正解だ！」と言えるものはありません。正解ではなく自分なりの納得解を追究していきましょう。 幼稚園教諭二種、小学校教諭二種：「必修」

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 日本国憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について説明できる。	授業で理解した内容を十分記述できる。	授業で理解した内容を概ね記述できる。	授業で理解した内容を最低限記述できる。	授業で理解した内容を記述できない。	授業の取り組み （知識・理解）	25%
	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について、十分説明できる。	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について、概ね説明できる。	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について、最低限説明できる。	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について説明できない。	定期試験 （知識・理解）	25%
(2)　日本国憲法はどうあるべきか、望ましいあり方について提案できる。	授業で考えが深まったことを十分記述できる。	授業で考えが深まったことを概ね記述できる。	授業で考えが深まったことを最低限記述できる。	授業で考えが深まったことを記述できない。	授業の取り組み （思考・判断）	25%
	憲法の望ましいあり方について、根拠に基づき十分提案できる。	憲法の望ましいあり方について、根拠に基づき概ね提案できる。	憲法の望ましいあり方について、根拠に基づき最低限提案できる。	憲法の望ましいあり方について、提案できない。	定期試験 （思考・判断）	25%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
現代社会問題 Issues in Modern Society		全学科	24BASO1002	1年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
講義	2	選択	今川 晋平		

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	子どもや保護者はみな、それぞれの「時代性」を背負って生きている。現代の子どもたちは、どのような問題を抱えているのでしょうか？そして、それぞれの課題の子どもの姿を捉えながら、現代の子どもの問題について考える。	
到達目標	(1) 時代背景に合わせた子どもの問題の変化について説明できる。 (2) 子どもに関わる問題について具体的に述べることができる。 (3) マスコミ（新聞、テレビ等）のニュース報道に興味が湧き自分の意見を持って協議する。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	配布資料を読んでおく	2 時間	課題を探す	2 時間
2	子どもを育む現代社会文化	配布資料を読んでおく	2 時間	課題を探す	2 時間
3	子どもの脳の発達とスマホの影響	配布資料を読んでおく	2 時間	課題を探す	2 時間
4	人と人をつなぐｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ課題①	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
5	人と人をつなぐｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ課題②	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
6	他者との価値観の違い	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
7	子どもの依存症（スマホ）	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
8	子どもの依存症（人間関係）	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
9	児童虐待	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
10	学校に行けない子ども、行かない子ども	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
11	特別な支援の必要な子どもと保護者たち	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
12	特別養子縁組と赤ちゃんポスト	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
13	未成年の出産	配布資料を読んでおく	2 時間	発表準備	2 時間
14	女性の社会進出と保育ニーズ	配布資料を読んでおく	2 時間	振り返りシートの記入	2 時間
15	自己理解とは	配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間

※授業内容を一部変更する場合があります。

成　績　評　価	定期試験（40%）、課題・レポート（15%）、授業への取り組み（30%）、発表・グループワーク（15%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	試験やレポートは、ルーブリック評価での結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	授業時にプリント配布
メッセージなど	社会人に求められる教養、技能、品格を授業の中で身につける人生で最後の時間です。自覚して頑張りましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 時代背景に合わせた子どもの問題の変化について説明できる。	子どもの問題の変化を的確に説明できる。	子どもの問題の変化について大体のことを説明できる。	時代背景に合わせた子どもの問題の変化を間違いはあるが説明できる。	時代背景に合わせた子どもの問題の変化を説明できていない。	定期試験（知識・思考力・表現力）	40%
(2) 子どもに関わる問題について具体的に述べることができる	子どもに関わる問題について的確に認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について大体のことを認識し、自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について認識の間違いはあるが、最低限の自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について認識できておらず、自分の考えを述べていない。	課題・レポート（知識・思考力・判断力・表現力）	30%
(3) マスコミ（新聞、テレビ等）のニュース報道に興味が湧き自分の意見を持って協議する	的確な問題意識を持って協議している。	問題意識を持ち、協議している。	間違いはいくつかあるが、協議に参加している。	身近な問題に触れようとせず、協議していない。	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・表現力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
行動科学 Behavioral Science	全学科	24BASO1004	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	馬場　弓歌	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○

概　　要	心理学がどのような学問であるかを紹介し、認知心理学、学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学といった各領域の基礎的な内容を概説する。授業は、スライド資料や動画などを通して解説する。また、各授業中に講義内容について考えたことについて記入する授業課題を課す。
到達目標	(1) 行動科学・心理学がどのような学問であるかを理解し、基礎的な知識を有している。 (2) 心理学の知識に基づいて、自分や他者の行動を説明することができる。 (3) 心理学の知識を糸口として自己や社会等から課題を見いだし、取り組むことができる。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション行動科学・心理学とは	―		本時の内容をまとめる。	2時間
2	感覚･知覚	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
3	記憶	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
4	学習	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
5	感情	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
6	動機づけ	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
7	知能	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
8	パーソナリティ	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
9	発達	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
10	発達障害	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
11	ストレス	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
12	社会	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
13	心理療法	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
14	心理カウンセリング	キーワードの印象を書く。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間
15	まとめ	テキストや配布資料を読む。	2時間	配布資料を読み、まとめる。	2時間

成　績　評　価	毎回の授業課題（関心・意欲・態度）45%、 定期試験（知識・理解）35%、 定期試験：記述問題（思考力・判断力・表現力）20%
課題(試験･レポート等) に対する フィードバックの方法	授業課題への回答は必要に応じてフィードバックを行う。 定期試験と授業課題はルーブリック評価に基づき結果を示す。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：プリントを配布する 参考書：金沢 創（2015）ゼロからはじめる心理学・入門：人の心を知る科学 有斐閣
メッセージ な　　ど	各授業の授業課題は成績に反映されるため、積極的に記入してください。また、定期試験では授業課題に関連した記述問題を出題するため授業課題の提出後も、該当のテーマについて日頃から考えておくことをおすすめします。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 行動科学・心理学がどのような学問であるかを理解し、基礎的な知識を有している。	心理学の各領域の基礎用語を十分に説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語を概ね説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語について最低限の内容を説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語を説明することができない。	定期試験 （知識・理解）	35%
(2) 心理学の知識に基づいて、自分や他者の行動を説明することができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連の見出し、説明した上で自分の考えを述べることができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連を見出し、説明することができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連の見出しが不十分である。	毎時の内容を通して、自分や他者の行動を説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・態度）	45%
(3)心理学の知識を糸口として自己や社会等から課題を見いだし、取り組むことができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができ、表現したうえで実際に取る組むことができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができ、表現することができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができるが、表現が不十分である。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができない。	定期試験 （思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
物理学 Physics	全学科	24BANA2002	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択		

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	物理学の基礎的・基本的事項を理解し、科学的なものの見方・考え方を養う。	

到達目標

(1) 力の表し方 合力、分力の求め方２力のつり合いの関係と作用反作用の関係との違いが理解できる。

(2) 重さ（N）と質量（kg）の定義付けが正しく理解でき、重さは測定する場所によって異なり、質量は絶対不変の量であることが理解できる。

(3) 静止摩擦力について、最大静止摩擦力は垂直抗力に比例することが理解できる。圧力、浮力が正しく理解できる。

(4) 剛体のつり合いについて正しく理解できる。

(5) 速度、加速度の概念を理解し、相対速度、等加速度直線運動について理解できる。落体の運動を等加速度直線運動と結び付けてグラフを活用して、分析する。慣性力、遠心力について理解する。

(6) 仕事と仕事率、仕事量と力学的エネルギーについて理解する。

(7) 熱とエネルギー 熱の本性、セルシウス□と絶対温度について理解する。仕事による熱の発生と熱の仕事当量について理解する。

(8) 比熱と熱容量について理解し、熱量計算ができるようにする。

(9) 気体の熱的性質について　気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解し、熱と仕事、断熱変化について理解する。

(10) 波の伝わり方、波の速さ、波長、振動数、周期について理解する。横波、縦波の伝わり方について理解する。ドップラー効果について理解する。

(11) 電流と電気抵抗について、電気回路、オームの法則、電気抵抗、電圧降下、電流と仕事ジュールの法則、電力と電力量について理解する。

(12) 物理学の基礎・基本的事項について、問題形式の課題を提出し、知識・理解、思考力、判断力の再確認をする。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	力の合成と分解	力の表し方、合力、分力の求め方。	2 時間	２力のつりあいと作用反作用の違いが説明できる。	2 時間
2	重さと質量	重さは測定する場所によって異なり質量は不変の量であるがわかる。	2 時間	重さと質量の関係が正しく理解できる。	2 時間
3	いろいろな力	静止摩擦力、圧力、浮力が正しく図示できる。	2 時間	静止摩擦力、圧力、浮力が正しく理解できる。	2 時間
4	剛体のつりあい	大きさのある物体について、力のモーメントが理解できる。	2 時間	力のモーメントのつりあいを使って大きさのある物体のつりあいを求めることができる。	2 時間
5	速度と加速度	速度と加速度の概念が正しく理解できる。	2 時間	等速度運動、等加速度運動についてグラフに表し、グラフから速度、加速度、移動距離を求めることができる。	2 時間

	6	落体の運動	真上に投げた物体、水平に投げた物体の運動が正しく解説できる。	2 時間	等加速度直線運動の４つの公式を使って落体の運動を解説できる。	2 時間
	7	慣性力	電車内で天井からつるした物体にはたらく力を正しく図示でき、みかけの力慣性力を正しく説明できる。	2 時間	慣性力＝－質量×加速度を電車の運動、等速円運動において説明できる。	2 時間
	8	仕事と仕事率	仕事と仕事率を正しく理解できる。仕事の原理がわかる。	2 時間	ジュール、ワット単位次元についても理解する。	2 時間
	9	仕事量と力学的エネルギー	運動エネルギー、位置エネルギー。力学的エネルギーについて理解する。	2 時間	保存力だけがはたらく場合力学的エネルギーは保存されることを使って、真上に投げた物体の運動、水平に投げた物体の運動を解説できる。	2 時間
	10	熱とエネルギー	熱の本性について正しく理解し、様々な熱現象を原子、分子の概念を用いて説明できる。	2 時間	セルシウス度、絶対温度、熱の仕事当量について理解を深める。また熱量計算ができる。	2 時間
	11	気体の熱的性質	気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイルシャルルの法則を正しく理解する。	2 時間	気体の内部エネルギー、熱力学の第一法則断熱変化について理解する。	2 時間
	12	波の伝わり方	波の伝わり方を媒質の概念から説明できる。	2 時間	横波、縦波、ドップラー効果について理解を深める。	2 時間
	13	電気と電圧、電流と電子	電流回路、抵抗、電圧降下、抵抗率、オームの法則を理解する。	2 時間	抵抗を直列、並列接続した回路で抵抗を流れる電流を求める。	2 時間
	14	電気エネルギー	ジュールの法則、電力、電力量、電力の単位を理解する。	2 時間	電気器具を消費した時間から消費電力を求めることができる。	2 時間
	15	問題演習	問題演習課題プリント	2 時間	プリントの問題が確実に解けるようにする。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（80%）、課題・レポート（20%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	ルーブリック評価をフィードバックする。
テキストおよび参　考　文　献	作成プリントを使用
メッセージなど	日常生活でよく出会う物理事象を取り上げ、おもしろく興味ある授業にする。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 力の表し方 合力、分力の求め方２力のつり合いの関係と作用反作用の関係との違いが理解できる。	ベクトル作図を使ってほぼ完璧に　説明できる	大きな間違いがなく基礎・基本的事項は理解できている	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(2) 重さ（N）と質量（kg）の定義付けが正しく理解でき、重さは測定する場所によって異なり、質量は絶対不変の量であることが理解できる。	ほぼ完璧に理解できている。	大きな間違いはなく基礎・基本的事項は理解できている	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	5%
(3) 静止摩擦力について、最大静止摩擦力は垂直抗力に比例することが理解できる。圧力、浮力が正しく理解できる。	力のベクトル作図を使って説明でき、ほぼ完璧に理解できている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(4) 剛体のつり合いについて正しく理解できる。	ほぼ完璧に理解できている。応用力もみにつけている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%
(5) 速度、加速度の概念を理解し、相対速度、等加速度直線運動について理解できる。落体の運動を等加速度直線運動と結び付けてグラフを活用して、分析する。慣性力、遠心力について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(6) 仕事と仕事率、仕事量と力学的エネルギーについて理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身についている。	基礎・基本的事項が大きな間違いがなく、ほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	8%
(7) 熱とエネルギー 熱の本性、セルシウス□と絶対温度について理解する。仕事による熱の発生と熱の仕事当量について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、応用力も身についている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	5%
(8) 比熱と熱容量について理解し、熱量計算ができるようにする。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、応用力も身についている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	7%
(9) 気体の熱的性質について　気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解し、熱と仕事、断熱変化について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%

(10) 波の伝わり方、波の速さ、波長、振動数、周期について理解する。横波、縦波の伝わり方について理解する。ドップラー効果について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%
(11) 電流と電気抵抗について、電気回路、オームの法則、電気抵抗、電圧降下、電流と仕事ジュールの法則、電力と電力量について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	10%
(12) 物理学の基礎・基本的事項について、問題形式の課題を提出し、知識・理解、思考力、判断力の再確認をする。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できており、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	課題・レポート	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
生物学 Biology	全学科	24BANA2004	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	安藤 稔朗	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	生物学への興味と関心が遠ざかった学生や、高校で生物を履修してこなかった学生も考慮に入れながら、生物学の基礎的・基本的事項について学習し、生物学的思考力を養う。 生物学の基礎となる理論、現象について学習する。	
到達目標	(1) 生物分野において、科学的なものの見方、考え方を培うための内容について、具体的な資料を活用しながら説明できる。 (2) 生物学で取り扱う教材の特性や着眼点などについて、レポートにまとめ説明できる。 (3) テキストの生物教材をとおして、自然現象の解明の仕方を説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	テキスト 1～5 ページを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
2	生物学のあゆみ	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
3	生命とは何か －生命とその特徴－	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
4	生命の基本単位 －細胞－	テキスト6～11ページを調べておく	2 時間	単細胞生物と多細胞生物をまとめる	2 時間
5	植物の構成と機能	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
6	植物の成長	テキスト 12～13P を調べておく	2 時間	植物の成長について特色を整理する	2 時間
7	環境と植物	用意したプリントを読んでおく	2 時間	環境と植物のかかわりをまとめる	2 時間
8	動物の働き －生理作用－	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
9	動物の行動	テキスト 20～25P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容を復習する	2 時間
10	生殖と発生	テキスト 14～16P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
11	遺伝	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
12	生物の多様性と進化	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
13	生物の生活と生産	テキスト 26～30P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
14	生物界のつりあいと自然環境保全	テキスト 31～32P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
15	地球環境と生命	テキスト 33～34P を調べておく	2 時間	授業を振り返り、要点をまとめる	2 時間

成　績　評　価	定期試験（30%）、課題・レポート（30%）、教材作成（40%）

課題(試験･レポート等) に対する フィードバックの方法	授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：安藤稔朗「生物学」山口短期大学 資料・プリント：その都度配布
メッセージ な　　ど	講義で学び取る学習から、講義を契機に自分の頭で思考する学習への転換をはかることが肝要である。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 生物分野において、科学的なものの見方、考え方を培うための内容について、具体的な資料を活用しながら説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、内容を説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験 （知識・理解）	30%
(2) 生物学で取り扱う教材の特性や着眼点などについて、レポートにまとめ説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート （関心・意欲）	30%
(3) テキストの生物教材をとおして、自然現象の解明の仕方を説明できる。	ほぼ完璧に授業を工夫できる。	大きな間違いがなく、授業を工夫できる。	間違いはいくつかあるが、授業を工夫できる。	工夫できていない。	教材作成 （思考力・判断力・表現力）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
データサイエンス入門 Introduction to Data Science	全学科	24BANA1001	1 年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	横山 修	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	数理・データサイエンス・AI は、私たちの日常生活や社会の諸問題を解決する有力なツールである。この講義では、数理・データサイエンス・AI がどのような領域でどのように利活用されているのかを現場での事例を挙げて説明する。また、数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり、留意すべき事項についても解説する。さらに、データを適切に処理・分析する力を養うため、実データを用いた演習を行う。	
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化およびデータ・AI の利活用の最新動向について説明できる。 (2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ・AI の活用領域について説明することができる。 (3) データ・AI の利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。 (4) 数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり留意すべき事項（ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等）を説明できる。 (5) データを適切に処理・分析し、データが持つ意味を説明できる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション —数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化—	シラバスを読み、科目の内容を把握する	1 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
2	社会で利活用されているデータとその活用法および活用領域	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
3	データ・AI の利活用のための技術	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
4	現場におけるデータ・AI 利活用の事例紹介	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
5	データ・AI 利活用の最新動向	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
6	情報セキュリティ、データ・AI 利活用における法と倫理	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
7	データを読む① —量的データと質的データ、データの分布と代表値—	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
8	データを読む② —データのばらつき—	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
9	データを読む③ —誤差、打ち切り、脱落を含むデータの取り扱い—	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
10	データを読む④ —データの相関—	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
11	データを読む⑤ —クロス集計—	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間

	12	データを読む⑥ ―母集団と標本―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	13	データを説明する ―データのグラフ・チャート化―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	14	データを扱う① ―データ解析ツールの使用方法―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	15	データを扱う② ―データの集計・並べ替え・ランキング―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間

成績評価	定期試験（50%）、課題（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	ルーブリック評価に基づき結果を示す。
テキストおよび参考文献	テキスト：なし
メッセージなど	小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状：必修、情報メディア学科：卒業必修

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化およびデータ・AI の利活用の最新動向について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	20%
(2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ･AI の活用領域について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(3) データ・AI の利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(4) 数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり留意すべき事項（ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等）を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(5) データを適切に処理･分析し、データが持つ意味を説明できる。	ほぼ完璧に、データ処理・分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	大きな間違いがなく、データ処理･分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限のデータ処理・分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	データの処理･分析ができない。	授業への取り組み（知識・理解・技能・思考力・判断力）	20%
					課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
学問と人間の探求 Study on Academics and Human Beings	全学科	24BAGE1001	１年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	柴田 道信・佐藤 嘉倫	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	新入生が大学生活に円滑に適応し、学友とともに有意義な学生生活を送れることを目的とする。本学の理念と方針、学生生活の心得、大学での学びへの理解を深めるとともに、これからの人生を見据えた学生生活のあり方を学生自ら考える時間とする。	
到達目標	(1) 大学での学びの意義を理解し、自らの将来と関連付けながら、主体的に学ぶことができる。 (2) 大学生としての基本的なアカデミック・スキルが身に付いている。 (3) 異なる考え方や知識を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を広げることができる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	シラバスを読み、科目の内容を把握する	1 時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2 時間
2	本学を知る　～建学の精神と３つのポリシー～	学生便覧の該当箇所を読む	2 時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2 時間
3	学生生活について①学生生活の心得	学生便覧の該当箇所を読む	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
4	学生生活について②安全・安心な生活	消費者問題について調査する	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
5	大学での学びとキャリアデザイン	大学での学びの意義を考え、まとめる	2 時間	授業内容を振り返り、自己分析を行う	2 時間
6	Google Classroom の利用①基本的な使用方法	Google Classroom について調べておく	2 時間	授業内容を振り返り、課題に取り組む	2 時間
7	Google Classroom の利用②課題等の提出方法	どのような提出方法があるか調べておく	2 時間	授業内容を振り返り、課題に取り組む	2 時間
8	レポートの書き方①レポートとは？	レポートとは何かを調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
9	レポートの書き方②原稿用紙の使い方	原稿用紙の使い方を調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
10	レポートの書き方③論理的な書き方	論理的な書き方とは何か考える	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
11	レポートの書き方④引用のルール	引用のルールについて調べる	2 時間	課題レポートを作成する	2 時間
12	グループ討議について	グループ討議の発散・収束手法を調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
13	グループ討議①選択型	選択型グループ討議について調べる	2 時間	授業内容を振り返り、グループ討議の意義を考える	2 時間

	14	グループ討議②課題解決型	課題解決型グループ討議について調べる	2 時間	授業内容を振り返り、グループ討議の意義を考える	2 時間
	15	まとめ	授業全体を振り返る	2 時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（30%）、授業への取り組み（40%）、グループワーク・グループ討議（30%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業において提示した課題については、授業内で個人あるいは全体に対してフィードバックする。
テキストおよび参　考　文　献	必要に応じてプリント配布
メッセージなど	

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 大学での学びの意義を理解し、自らの将来と関連付けながら、主体的に学ぶことができる。	大学での学びと自らの将来を十分に関連付け、主体的に学ぶことができる。	大学での学びと自らの将来をある程度関連付け、主体的に学ぶことができる。	最低限ではあるが、主体的な学びの姿勢が見られる。	主体的な学びの姿勢が見られない。	授業への取り組み（関心･意欲･態度）	40%
(2) 大学生としての基本的なアカデミック・スキルが身に付いている。	ほぼ完璧にアカデミック・スキルが身に付いている。	大きな間違いもなく、アカデミック・スキルが身に付いている。	最低限のアカデミック・スキルは身に付いている。	アカデミック・スキルが身に付いていない。	課題・レポート（思考力・判断力･表現力）	30%
(3) 異なる考え方や知識を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を広げることができる。	積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考えを大きく発展させることができる。	コミュニケーションを図り、自らの知識や考え方をある程度広げることができる。	最低限のコミュニケーションは図ることができる。	コミュニケーションを図ることができない。	グループワーク・グループ討議（態度・思考力･表現力･協働性）	30%

授業科目		対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
国際交流 International Activities		全学科	24BAGE2002	２年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家教員
講義	2	必修	中津 愛子・柴田 道信・木橋 奏子		
ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。				○
概　　要	文化的背景の異なる人々との交流を通じて、様々な文化・風習・考え方に触れ、異文化への理解を深める。また、実際の体験に基づき異文化理解を深めることを目的とする。				

到達目標

(1) 外国事情や異文化に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。

(2) 異なる文化を持つ人々とコミュニケーションを図るための態度と能力を身に付けている。

(3) 複眼的な視点で異文化を捉え、異文化に理解を示すことができる。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 私と国際交流 1（まとめる）	シラバスを読む	1 時間	自分の人生における国際交流をまとめる	1 時間
2	私と国際交流 2（共有する）	自分の人生における国際交流をまとめる	1 時間	グループ活動の結果をまとめる	1 時間
3	私の国際交流体験記 1 （日常生活）	日常生活における常識と非常識を考える	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
4	私の国際交流体験記 2 （食文化）	自国の食文化の特徴をまとめる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
5	私の国際交流体験記 3 （コミュニケーション）	日常使うジェスチャーを考える	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
6	私の国際交流体験記 4 （価値観）	自身の価値観を考える	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
7	海外の生活文化や習慣を知る 1	指示された国について調べる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
8	海外の生活文化や習慣を知る 2	指示された国について調べる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
9	海外の生活文化や習慣を知る 3	指示された国について調べる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
10	海外の生活文化や習慣を知る 4	指示された国について調べる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
11	海外の生活文化や習慣を知る 5	指示された国について調べる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
12	国際交流活動について調べよう 1	資料を自分で見つける	1 時間	資料を読み。まとめる	1 時間
13	国際交流活動について調べよう 2	資料を読んでおく	1 時間	資料を読み。まとめる	1 時間
14	海外で活躍する人々	資料を読んでおく	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
15	まとめ	全授業内容を振り返りまとめる	1 時間		1 時間

成　績　評　価	課題・レポート（30%）、授業への取り組み（70%）

課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業において提示した課題については、授業内で全体に対してフィードバックする。
テキストおよび参考文献	適宜プリントを配布
メッセージなど	海外を訪れ、異文化を体験するということは、何事にも代え難い経験であり、その後の人生の大きな糧となります。これをきっかけに皆さんが海外の文化に関心をもち、海外を視野に活躍する人材となることを期待しています。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 外国事情や異文化に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。	外国文化へ高い興味・関心を示し、意欲的に学ぶ姿勢が見られる。	外国文化へ興味・関心を持ち、学ぶ姿勢も十分見られる。	外国文化への興味・関心は低いが、最低限の学ぶ姿勢は見られる。	外国文化への興味・関心が低く、学ぶ姿勢が見られない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	50%
(2) 異なる文化を持つ人々とコミュニケーションを図るための態度と能力を身に付けている。	完璧に身に付いている。	十分に身に付いている。	最低限であるが身に付いている。	身に付いていない。	授業への取り組み（態度・表現力・協働性）	20%
(3) 複眼的な視点で異文化を捉え、異文化に理解を示すことができる。	自身の世界観およびこれと異なる世界観の見方から異文化を観察し、異文化経験を解釈できる。	自身の世界観およびこれと異なる世界観の見方から異文化を観察することができる。	自分の世界観を中心に異文化を見ているが、異文化を理解しようとする姿勢は見受けられる。	自分の世界観のみを通して異文化を見ており、異文化への理解・も低い。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
言葉とコミュニケーション Language and Communication	全学科 （一般学生対象）	24BAGE1004	1 年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	小河原 香代子	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　要	英語でコミュニケーションを図る際に大切なことは何だろうか？英語と日本語の言語文化の違いから日本人が陥りやすい問題点に焦点を当て、会話を円滑に続けられる能力を身につけるためのストラテジー（方略）について学ぶ。	

到達目標

(1) 英語と日本語の言語表現のストラテジーの違いについて説明できる。

(2) 英語コミュニケーション方略について主体的に考え、場面や状況に応じて実践することができる。

(3) 言語文化の違いについての気付き、考え方を述べることができる。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション Unit 1 初めての人に話しかけてみよう			Unit 1: テキストの内容、英語表現を復習する。	2時間
2	Unit2 初対面の人と会話を続ける	Unit 2: テキストを読んで内容を理解する。わからない単語は調べておく。Exercises をする。	2時間	Unit 2: テキストの内容、英語表現を復習する。音声が聞けるところは音声を聞いて練習する。	2時間
3	Unit 3 わからないことは聞き直そう	Unit 3: 同上	2時間	Unit 3: 同上	2時間
4	Unit 4 もう一言加えてみよう	Unit 4: 同上	2時間	Unit 4: 同上	2時間
5	Unit 5 あいづちを打とう	Unit 5: 同上	2時間	Unit 5: 同上	2時間
6	Unit 6 相手に興味を示そう	Unit 6: 同上	2時間	Unit 6: 同上	2時間
7	Unit 7 お礼の言い方を覚えよう	Unit 7: 同上	2時間	Unit 7: 同上	2時間
8	Unit 8上手に苦情を言ってい見よう	Unit 8: 同上	2時間	Unit 8: 同上	2時間
9	Unit 9 上手に謝ろう	Unit 9: 同上	2時間	Unit 9: 同上	2時間
10	Unit 10 答えたくない質問へ上手に対処しよう	Unit 10: 同上	2時間	Unit 10: 同上	2時間
11	Unit 11 丁寧に頼んでみよう	Unit 11: 同上	2時間	Unit 11: 同上	2時間
12	Unit 12 誘ってみよう	Unit 12: 同上	2時間	Unit 12: 同上	2時間
13	Unit 13 うまく断ろう	Unit 13: 同上	2時間	Unit 13: 同上	2時間
14	Unit 14 口調を和らげる表現を覚えよう	Unit 14: 同上	2時間	Unit 14: 同上	2時間
15	Unit 15 会話を切り上げる表現を覚えよう 復習	Unit 15: 同上	2時間	Unit 15: 同上	2時間

成　績　評　価	定期試験（70%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（30%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートを評価し、次の授業時に返却する。
テキストおよび参　考　文　献	*keep Talking Strategies for Interpersonal Communication*
メッセージなど	実際にペアワークやグループワークでコミュニケーションを取りながら行うアクティブラーニング型の授業です。互いに学び合う、積極的な授業参加を望みます。予習、復習が必要です。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 英語と日本語の言語表現のストラテジーの違いについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく、基本的概念を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本的概念を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力･判断力･表現力）	30%
(2) 英語コミュニケーション方略について主体的に考え、場面や状況に応じて実践することができる。	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に場面や状況に応じた表現を実践することができる。	課題に対する認識に誤りや大きな論理的問題もなく、場面や状況に応じた表現を実践することができる。	課題に対する認識に間違いがいくつかあるが、場面や状況に応じた表現を最低限実践することができる。	課題に対する認識に間違いがあり、場面や状況に応じた表現ができていない。	定期試験（知識・理解・思考力･判断力･表現力）	40%
(3) 言語文化の違いについての気付き、考え方を述べることができる。	言語文化の違いについて理解し、自分の気付き、考え方を明確に述べている。	言語文化の違いについて、認識に誤りや大きな論理的問題もなく、最低限の自分の気付き、考え方を述べている。	言語文化の違いについて、認識に間違いがいくつかあるが、最低限の自分の気付き、考え方を述べている。	言語文化の違いについて、認識に間違いがあり、自分の考えを述べていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力･判断力･表現力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
言葉とコミュニケーション Language and Communication	全学科 （留学生対象）	24BAGE2005	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	林 伸一	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	日本語でコミュニケーションを図る際に大切なことは何だろうか？母語と日本語の言語文化の違いから日本語学習者が陥りやすい問題点に焦点を当て、読解力と会話を円滑に続けられる能力を身につけるためのストラテジー（方略）について学ぶ。	
到達目標	(1) わからない言葉の意味を聞いて、どうすればいいのか確認することができる。 (2) 頼みにくいことを丁寧に頼むことができる・感謝の気持ちを表すことができる。 (3) 事情を説明して丁寧に謝ることができる・変更をお願いすることができる。 (4) 人や物の様子を詳しく説明することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	お願いがあるんですが（頼みにくいことを丁寧に頼む・感謝の気持ちを表す）／畳	オリエンテーション		該当箇所の復習。	2 時間
2	何のことですか（わからない言葉の意味を聞いて、どうすればいいのか確認する）／外来語	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
3	遅れそうなんです（事情を説明して丁寧に謝る・変更をお願いする）／時間よ、止まれ！	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
4	伝言お願いできますか(伝言を頼む・受ける・留守番電話に伝言を残す）／電話嫌い	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
5	どう行ったらいいでしょうか（行き方を尋ねる・教える・道順を尋ねる・教える）／地図	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
6	行かせていただきたいんですが（許可を得たいと申し出る）／メンタルトレーニング	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
7	楽しみにしています・遠慮させてください（誘いを受ける・断る）／まんじゅう、怖い	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
8	迷子になっちゃったんです（人や物の様子を詳しく説明する）／科学者ってどう見える？	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
9	どこが違うんですか（希望や条件を伝える・比較し選択する）／カラオケ	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間

	10	そんなはずはありません（誤解されたことに冷静に反応する）／記憶型と注意型	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	11	お勧めのところ、ありませんか（提案する・提案を受け入れる）／白川郷の黄金伝説	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	12	ご迷惑をかけてすみませんでした（謝る・事情を説明する）／日本で暮らす（座談会）	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	13	まとめと復習（弱点補強）１	既習事項まとめ。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	14	まとめと復習（弱点補強）２	既習事項まとめ。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	15	まとめと復習（弱点補強）３	既習事項まとめ。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間

＊１レッスン１課を目安としていますので予習、復習をしっかりとして授業に臨むこと。

成　績　評　価	定期試験（80%）、小テスト（20%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	小テストを採点し、返却時に間違った箇所を解説する。 課題の作文などを添削し、返却時に誤用例や模範例を示して解説する。
テキストおよび参　考　文　献	小テストとして、日本語能力試験問題集などを用いる
メッセージなど	日本語と日本文化に興味を持って、会話練習などの活動に積極に授業参加されることを望みます。予習、復習が必要です。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) わからない言葉の意味を聞いて、どうすればいいのか確認することができる。	ほぼ完璧に確認できる。	大きな間違いなく、確認できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の確認はできる。	確認することができない。	定期試験（知識・理解）	20%
	ほぼ完璧に確認できる。	大きな間違いなく、確認できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の確認はできる。	確認することができない。	小テスト（知識・理解）	5%
(2) 頼みにくいことを丁寧に頼むことができる・感謝の気持ちを表すことができる。	ほぼ完璧に依頼し、感謝することができる。	大きく礼を失することなく依頼し、感謝できる。	表現上の間違いはいつくかあるが、おおよそ依頼し、感謝できる。	依頼し、感謝することができない。	定期試験（知識・理解）	20%
	ほぼ完璧に依頼し、感謝することができる。	大きく礼を失することなく依頼し、感謝できる。	表現上の間違いはいつくかあるが、おおよそ依頼し、感謝できる。	依頼し、感謝することができない。	小テスト（知識・理解）	5%
(3) 事情を説明して丁寧に謝ることができる・変更をお願いすることができる。	ほぼ完璧に事情説明し謝れる。変更依頼ができる。	大きな間違いなく事情説明し謝れる。変更依頼ができる。	表現上の間違いはいつくかあるが、おおよそ事情を説明し、変更できる。	事情を説明して丁寧に謝ることができない。変更を願い出ることができない。	定期試験（態度・表現力・判断力）	20%
	ほぼ完璧に事情説明し謝れる。変更依頼ができる。	大きな間違いなく事情説明し謝れる。変更依頼ができる。	表現上の間違いはいつくかあるが、おおよそ事情を説明し、変更できる。	事情を説明して丁寧に謝ることができない。変更を願い出ることができない。	小テスト（態度・表現力・判断力）	5%
(4) 人や物の様子を詳しく説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	表現上の間違いはいくつかあるが、ほぼ説明できる。	人や物の様子を詳しく説明することができない。	定期試験（態度・表現力・判断力）	20%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	表現上の間違いはいくつかあるが、ほぼ説明できる。	人や物の様子を詳しく説明することができない。	小テスト（態度・表現力・判断力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
英語会話 English Conversation	全学科	24BAFL1001	1年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	必修	Inkster Ryan	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○

概　　要	(概要)様々な状況における実用的な英語会話能力を養成する。正確な発音や文法よりも、コミュニケーション能力の養成を重視する。読む・書く作業も若干含む。 (目標) 自己紹介、人物や服装の描写ができる、事物の比較ができる、好みについて表現できる、能力について述べられる、自由時間の使い方・好き嫌いについて表現できる、道順を教えたり理解したりできる、過去の出来事について話せる、指示を与えたり、規則について話したり、助言を与えたりできる。
到達目標	(1) 英会話に役に立つ語彙や文法を学ぶ (2) 英語を聞く力を養う。 (3) さまざまなトピックで英会話を練習する

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	(Assessment & Placement) 英会話レベル判定	中高英語内容の復習	2時間	中高英語内容の復習	2時間
2	Japanese Sports and clubs （スポーツ）	Pg. 5　読む	2時間	Pg.6　読む	2時間
3	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 7　読む	2時間	Pg8-9　読む	2時間
4	Japanese Music (音楽)	Pg 11　読む	2時間	Pg12　読む	2時間
5	Japanese Music (音楽)	Pg. 13　読む	2時間	Pg. 14-15 読む	2時間
6	Japanese Food (食べ物)	Pg. 17　読む	2時間	Pg. 18 読む	2時間
7	Japanese Food (食べ物)	Pg. 19　読む	2時間	Pg 20-21 読む	2時間
8	Japanese Holidays (祝日)	Pg 29　読む	2時間	Pg. 30 読む	2時間
9	Japanese Holidays (祝日)	Pg 31　読む	2時間	Pg. 32-33 読む	2時間
10	Japanese Games	Pg. 35　読む	2時間	Pg. 36 読む	2時間
11	Japanese Games	Pg. 37　読む	2時間	Pg. 38-39 読む	2時間
12	Famous Cities (観光)	Pg. 41　読む	2時間	Pg. 42 読む	2時間
13	Famous Places (観光)	Pg. 43　読む	2時間	Pg. 44-45 読む	2時間
14	REVIEW (復習)	コミュニケーションサマリー　学習	2時間	コミュニケーションサマリー　学習	2時間
15	REVIEW (復習)	コミュニケーションサマリー　学習	2時間	コミュニケーションサマリー　学習	2時間
TEST(復習)					
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	(Assessment & Placement) 英会話レベル判定	中高英語内容の復習	2時間	中高英語内容の復習	2時間

	17	Japanese Sports and clubs（スポーツ）	Pg. 5　読む	2 時間	Pg.6　読む	2 時間
	18	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 7　読む	2 時間	Pg8-9　読む	2 時間
	19	Japanese Music (音楽)	Pg 11　読む	2 時間	Pg12　読む	2 時間
	20	Japanese Music (音楽)	Pg. 13　読む	2 時間	Pg. 14-15 読む	2 時間
	21	Japanese Food (食べ物)	Pg. 17　読む	2 時間	Pg. 18 読む	2 時間
	22	Japanese Food (食べ物)	Pg. 19　読む	2 時間	Pg 20-21 読む	2 時間
	23	Japanese Holidays (祝日)	Pg 29　読む	2 時間	Pg. 30 読む	2 時間
	24	Japanese Holidays (祝日)	Pg 31　読む	2 時間	Pg. 32-33 読む	2 時間
	25	Japanese Games	Pg. 35　読む	2 時間	Pg. 36 読む	2 時間
	26	Japanese Games	Pg. 37　読む	2 時間	Pg. 38-39 読む	2 時間
	27	Famous Cities (観光)	Pg. 41　読む	2 時間	Pg. 42 読む	2 時間
	28	Famous Places (観光)	Pg. 43　読む	2 時間	Pg. 44-45 読む	2 時間
	29	REVIEW (復習)	コミュニケーションサマリー　学習	2 時間	コミュニケーションサマリー　学習	2 時間
	30	REVIEW (復習)	コミュニケーションサマリー　学習	2 時間	コミュニケーションサマリー　学習	2 時間
	TEST(復習)					

成　績　評　価	その他（100%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	マンツーマンインタビュー
テキストおよび参　考　文　献	Explain It: Talking about Japanese Culture in English. Robert Long. Perceptia Press, Nagoya. ISBN: 9784939130793
メッセージなど	ネイティブ講師による基礎的な日常会話（コミュニケーション）授業

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 英会話に役に立つ語彙や文法を学ぶ	ほぼ完璧に学ぶことができる。	あまり問題なくできる。	少しは問題があるが､最低限はできる。	語彙や文法を学ぶことができない。	その他	34%
(2) 英語を聞く力を養う	ほぼ完璧に学ぶことができる	あまり問題なくできる。	少しは問題があるが､最低限はできる。	聞く力を養うことができない。	その他	33%
(3) さまざまなトピックで英会話を練習する	ほぼ完璧に学ぶことができる	あまり問題なくできる。	少しは問題があるが､最低限はできる。	英会話ができない。	その他	33%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
ハングル Korean Language	全学科	24BAFL1002	1 年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	選択	朴 賢珠	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○

概　　要	ハングルの文字や基礎文法を学びながら日韓の文化について考えるようになる。韓国人留学生と一緒に勉強することで異文化コミュニケーションを図る授業になる。
到達目標	(1) ハングル文字の書き方や読み方を学び、単語や表現の読み書きができる。 (2) 韓国人留学生との交流を通して日韓の文化理解を深める。 (3) ハングルの基本的な文法を学び、応用できる。 (4) 学習した単語や表現を使って簡単な韓国語会話ができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ハングルの仕組み① 文字の組み合わせパターン	テキスト 2〜3 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 2〜3 ページを復習する。	2 時間
2	ハングルの仕組み② 基本母音	テキスト 4〜5 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 4〜5 ページを復習する。	2 時間
3	ハングルの仕組み③ 基本子音	テキスト 6〜7 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 6〜7 ページを復習する。	2 時間
4	ハングルの仕組み④ 濃音	テキスト 8〜10 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 8〜10 ページを復習する。	2 時間
5	ハングルの仕組み⑤ 複合母音	テキスト 13〜14 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 13〜14 ページを復習する。	2 時間
6	ハングルの仕組み⑥ パッチム（1）	テキスト 15〜17 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 15〜17 ページを復習する。	2 時間
7	ハングルの仕組み⑦ パッチム（2）	テキスト 15〜17 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 15〜17 ページを復習する。	2 時間
8	日本語のハングル表記	テキスト 18〜20 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 18〜20 ページを復習する。	2 時間
9	ハングルの仕組みのまとめ	テキスト 19〜20 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 19〜20 ページを復習する。	2 時間
10	中間テスト	テスト範囲を勉強しておく。	2 時間	テスト範囲をまとめる。	2 時間

	11	視聴覚教育・映画観賞① －前半－	テーマに沿って事前調査をしておく	2 時間	テーマに沿って事前調査をする。	2 時間
	12	視聴覚教育・映画観賞② －後半－	テーマに沿って事前調査をしておく	2 時間	テーマに沿って事前調査をする。	2 時間
	13	「名詞＋です」文の作り方	テキスト 36～37 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 36～37 ページを復習する。	2 時間
	14	「名詞＋ですか」文の作り方	テキスト 38～39 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 38～39 ページを復習する。	2 時間
	15	まとめ	テキスト 23～42 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 23～42 ページを復習する。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	前期の復習① １回目	テキスト 4～21 ページを読んでおく。	2 時間	前期の復習① －１回目－	2 時間
	17	前期の復習② ２回目	テキスト 23～42 ページを読んでおく。	2 時間	前期の復習② －２回目－	2 時間
	18	動詞・形容詞の丁寧形① 「です/ます形」	テキスト 46～47 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の丁寧形① －です/ます形－	2 時間
	19	動詞・形容詞の丁寧形② 「ですか/ますか形」	テキスト 54～57 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の丁寧形② －ですか/ますか形－	2 時間
	20	視聴覚教育	テーマに沿って事前調査をしておく。	2 時間	視聴覚教育	2 時間
	21	助詞のまとめ	テキスト 48～49 ページを読んでおく。	2 時間	助詞のまとめ	2 時間
	22	中間テスト	テスト範囲を勉強しておく	2 時間	中間テスト	2 時間
	23	指示代名詞を使った表現	テキスト 58～59 ページを読んでおく。	2 時間	指示代名詞を使った表現	2 時間
	24	人称代名詞を使った表現	テキスト 60～61 ページを読んでおく。	2 時間	人称代名詞を使った表現	2 時間
	25	「イダ」否定形	テキスト 62～63 ページを読んでおく。	2 時間	「イダ」否定形	2 時間
	26	動詞・形容詞の前置否定形	テキスト 66～69 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の前置否定形	2 時間
	27	動詞・形容詞の後置否定形	テキスト 66～69 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の後置否定形	2 時間
	28	否定形のまとめ	テキスト 70～71 ページを読んでおく。	2 時間	否定形のまとめ	2 時間
	29	尊敬形	テキスト 72～77 ページを読んでおく。	2 時間	尊敬形	2 時間
	30	まとめ	テキスト 46～77 ページを読んでおく。2 時間	2 時間	まとめ	2 時間

成　績　評　価	定期試験（25%）、課題・レポート（35%）、授業への取り組み（25%）、発表・プレゼンテーション（15%）
課題(試験･レポート等) に対する フィードバックの方法	試験や課題及びレポートは、チェックして次の授業時に渡す。
テキストおよび 参　考　文　献	朴　賢珠　他「サランヘヨ！ハングル－初級から中級へ－」白帝社、2015 年
メ　ッ　セ　ー　ジ な　　ど	山口は韓国と深いつながりがある場所です。 韓国の留学生と一緒にハングルを勉強しましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) ハングル文字の書き方や読み方を学び、単語や表現の読み書きができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、読み書きができる	最低限の読み書きができる	読み書きができない。	定期試験（関心・意欲・知識）	10%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、読み書きができる	最低限の読み書きができる	読み書きができない。	課題・レポート（関心・意欲・知識）	10%
(2) 韓国人留学生との交流を通して日韓の文化理解を深める。	発表や発言など積極的に参加する	発表や発言などに積極的ではないが参加する	発表や発言など部分的に参加する	発表や発言などに参加しない	課題・レポート（意欲・理解・表現力）	10%
	発表や発言など積極的に参加する	発表や発言などに積極的ではないが参加する	発表や発言など部分的に参加する	発表や発言などに参加しない	授業への取り組み（意欲・理解・思考力）	10%
(3) ハングルの基本的な文法を学び､応用できる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、応用できる	最低限の文法の応用ができる	文法の応用ができない。	定期試験（知識・理解・表現力）	15%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、応用できる	最低限の文法の応用ができる	文法の応用ができない。	課題・レポート課題・レポート（意欲・理解・表現力）	15%
(4) 学習した単語や表現を使って簡単な韓国語会話ができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、韓国語会話ができる	最低限の会話ができる	簡単な韓国語会話ができない。	授業への取り組み（意欲・理解・思考力）	15%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、韓国語会話ができる	最低限の会話ができる	簡単な韓国語会話ができない。	発表･プレゼンテーション（知識・理解・表現力）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
日本語（留学生対象） Japanese Language	全学科	24BAFL1003	１年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	選択	林 伸一	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○

概　　要	基本的な日常会話力、コミュニケーション能力を身につける。 日本語の特色を理解する。 日本語能力試験等の資格を取得する。 日本の生活習慣・ものの考え方・風習・文化の違いを知ることによって、自国と日本の関係への理解を深め、国際社会を生きる力を培う。
到達目標	(1) 基本文型を理解し、留学生活を支える基礎的な日常会話ができる。 (2) カタカナ・ひらがな・教育漢字をマスターし、平易な文章の読み書きができる。 (3) 敬語・オノマトペ・慣用句など、日本語の特色を知り、会話の中で使うことができる。 (4) １級または２級の日本語能力試験の資格取得を目標とする。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、学習のすすめ方			「テキスト日常会話１課の和訳暗誦」「自己紹介文」	2 時間
2	日常会話の基礎①－自己紹介、挨拶、基本会話	「日常会話 1 課和訳」「自己紹介」「目的別の自己紹介文下書」	2 時間	「会話１課暗誦」「自己紹介文清書」「日常生活基本語①を覚える」	2 時間
3	日常会話の基礎②－日常生活の基本語彙	「会話２課」「基本語①のテスト」	2 時間	「会話２課」「基本語①誤答再学習」	2 時間
4	日本語の文字－ひらかな、カタカナ、漢字、	「50 音図」「会話３課」「基本語②」	2 時間	「50 音図再学習プリント「会話３課」「基本語②」	2 時間
5	日本語の発音・イントネーション	「会話４課」「基本語③」「漢字 1026 字への挑戦テスト①」	2 時間	「会話４課」「基本語③」「漢字再問題①」	2 時間
6	日常会話の基本単語①－発音練習―	「会話５課」「基本語④」「漢字②」	2 時間	「会話５課」「基本語④」「漢字②」	2 時間
7	日本語能力試験への対応の仕方①	「会話６課」「基本語⑤」「漢字③」「日本語能力試験２級練習問題」	2 時間	「会話６課」「基本語⑤」「漢字③」「日本語能力試験２級復習①」	2 時間
8	日常会話の基本文形①－５Ｗ１Ｈ	「会話７課」「基本語⑥」「漢字④」「日本語能力試験②」	2 時間	「会話７課」「基本語⑥」「漢字④」「日本語能力試験②」	2 時間
9	日常会話の基本文形②－動詞の活用－	「会話８課」「基本語⑦「漢字⑤」「日本語能力試験③」	2 時間	「会話８課」「基本語⑦「漢字⑤」「日本語能力試験③」	2 時間
10	日常会話の基本文形③－過去、現在、未来－	「会話９課」「基本語⑧」「漢字⑥」「日本語能力試験④」	2 時間	「会話９課」「基本語⑧」「漢字⑥」「日本語能力試験④」	2 時間

	11	日常会話の基本文形④－希望、意思・推量の言い方－	「会話 10 課」「基本語⑨」「漢字⑦」「日本語能力試験⑤」	2 時間	「会話 10 課」「基本語⑨」「漢字⑦」「日本語能力試験⑤」	2 時間
	12	日常会話の基本文形⑤－否定、疑問	「会話 11 課」「基本語⑩」「漢字⑧」「日本語能力試験⑥」	2 時間	「会話 11 課」「基本語⑩」「漢字⑧」「日本語能力試験⑥」	2 時間
	13	日常会話の基本文形⑥－使役・可能・受身・自発、経験	「会話 12 課」「基本語⑪」「漢字⑨」「日本語能力試験⑦」	2 時間	「会話 12 課」「基本語⑪」「漢字⑨」「日本語能力試験⑦」	2 時間
	14	日本語の特色①－補助用語・複合語－	「会話 13 課」「基本語⑫」「漢字⑩」「日本語能力試験⑧」	2 時間	「会話 13 課」「基本語⑫」「漢字⑩」「日本語能力試験⑧」	2 時間
	15	日本語の特色②－敬語－	「会話 14 課」「基本語⑬」「漢字⑪」「日本語能力試験⑨」	2 時間	「会話 14 課」「基本語⑬」「漢字⑪」「日本語能力試験⑨」	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	学習のすすめ方、前期の学習の復習	「会話 15 課」「基本語⑭」「漢字⑫」「日本語能力試験⑩」		「会話 15 課」「基本語⑭」「漢字⑫」「日本語能力試験⑩」	2 時間
	17	日本語能力試験への対応②－語彙・文字－	「会話 16 課」「基本語⑮」「漢字⑬」「日本語能力試験⑪」	2 時間	「会話 16 課」「基本語⑮」「漢字⑬」「日本語能力試験⑪」	2 時間
	18	日本語能力試験への対応③－聴解－	「会話 17 課」「基本語⑯」「漢字⑭」「日本語能力試験⑫」	2 時間	「会話 17 課」「基本語⑯」「漢字⑭」「日本語能力試験⑫」	2 時間
	19	日本語能力試験への対応④－文法－	「会話 18 課」「基本語⑰」「漢字⑮」「日本語能力試験⑬」	2 時間	「会話 18 課」「基本語⑰」「漢字⑮」「日本語能力試験⑬」	2 時間
	20	日本語能力試験への対応⑤－読解－	「会話 19 課」「基本語⑱」「漢字⑯」「日本語能力試験⑭」	2 時間	「会話 19 課」「基本語⑱」「漢字⑯」「日本語能力試験⑭」	2 時間
	21	日本語の特色③－慣用語、ことわざ－	「会話 20 課」「基本語⑲」「漢字⑰」「日本語能力試験⑮」	2 時間	「会話 20 課」「基本語⑲」「漢字⑰」「日本語能力試験⑮」	2 時間
	22	日本語の特色④－部首・同音異義語－	「会話 21 課」「基本語⑳」「漢字⑱」「日本語能力試験⑯」	2 時間	「会話 21 課」「基本語⑳」「漢字⑱」「日本語能力試験⑯」	2 時間
	23	日本語の特色⑤－オノマトペ・ことわざ・慣用句－	「会話 22 課」「漢字⑲」「日本語能力試験⑰」	2 時間	「会話 22 課」「漢字⑲」「日本語能力試験⑰」	2 時間
	24	日本語の特色⑥－方言と共通語－	「会話 23 課」「漢字⑳」「日本語能力試験⑱」	2 時間	「会話 23 課」「漢字⑳」「日本語能力試験⑱」	2 時間
	25	日本の国語教科書①－教科書概観・音読－	「会話 24 課」「漢字㉑」「日本語能力試験⑲」	2 時間	「会話 24 課」「漢字㉑」「日本語能力試験⑲」	2 時間
	26	日本の国語教科書②－教科書輪読－	「会話 25 課」「漢字㉒」「日本語能力試験⑳」	2 時間	「会話 25 課」「漢字㉒」「日本語能力試験⑳」	2 時間
	27	日本の国語教科書③－教科書発表－	「漢字㉓」「教科書音読」「日本語能力試験㉑」	2 時間	「漢字㉓」「教科書音読」「日本語能力試験㉑」	2 時間
	28	日本語によるスピーチ①－スピーチ原稿作成－	「漢字㉔」「教科書音読・練習」「日本語能力試験㉒」	2 時間	「漢字㉔」「教科書視写」「日本語能力試験㉒」	2 時間
	29	日本語によるスピーチ②－発表－	「漢字㉕」「スピーチ原稿下書」「日本語能力試験㉓」	2 時間	「漢字㉕」「スピーチ原稿暗誦」「日本語能力試験㉓」	2 時間

	30	日本語によるスピーチ③－発表－	「スピーチ練習」（「日本語能力試験㉔」	2時間	「スピーチ原稿清書」「日本語能力試験㉔」	2時間
成績評価	定期試験、発表・プレゼンテーション（70%）、小テスト（30%）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業の小テストを自己採点し、結果を記録表に記録。誤答を再試験する。ルーブリック評価に基づいて、再指導・再テストを行う。					
テキストおよび参考文献	テキスト：テキスト・プリントをその都度配布					
メッセージなど	日本での生活を充実したものにするためには、日本語の習得がなにより大事です。日常会話力を身につける中で、日本の文化や風習、日本人の国民性などへの理解を深め、国際交流を楽しんでほしいと願っています。					

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 基本文型を理解し、留学生活を支える基礎的な日常会話ができる。	ほぼ完璧にできる。	聞き取ることが完璧にでき、話すこともほぼできる。	間違いはあるが、最低限の会話はできる。	日常会話ができない。	定期試験（態度・創造性・判断力）	30%
	ほぼ完璧にできる。	聞き取ることが完璧にでき、話すこともほぼできる。	間違いはあるが、最低限の会話はできる。	日常会話ができない。	発表・プレゼンテーション（態度・創造性・判断力）	
(2) カタカナ・ひらがな・教育漢字をマスターし、平易な文章の読み書きができる。	ほぼ完璧にできる。	間違いはあるがほぼできる。	間違いは多いが、最低限の基本的なことはできる。	平易な文章の取の読み書きも難しい。	小テスト（知識・理解）	30%
(3) 敬語・オノマトペ・慣用句など、日本語の特色を知り、会話の中で使うことができる。	意味を理解し、積極的に会話の中で使うことができる。	基本的なことは理解しているが、使いこなすことはできない。	聞き取ることはできるが使うことはできない。	会話の中で使うことはできない。	定期試験（知識・理解）	20%
(4) 最低2級の日本語能力試験の資格を取得する。	能力試験2級に合格している。	校内2級試験に合格している。	3級レベルには到達している。	3級レベルにも到達していない。	定期試験（知識・理解）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
健康科学 Health Science	全学科	24BAHP1001	1 年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	1	必修	佐伯 里英子	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○

概　　要	運動、睡眠、および食行動などの健康行動が生活習慣病に及ぼす影響を説明し、健康行動変容に関する理論・モデルを紹介する。また、健康増進のためのプログラム作りなども行い理解を深める。
到達目標	(1) わが国における健康行動（運動、睡眠、食行動）の実施状況についての説明 (2) 健康行動（運動、睡眠、食行動）の重要性とそのメカニズムについての説明 (3) 健康行動変容の理論と実際についての説明

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション（健康に関する用語の整理）	健康に関する身近な情報の収集	1 時間	授業内容のまとめノート整理	1 時間
2	運動と疾病予防	運動実施状況についてのセルフモニタリング	1 時間	授業内容のまとめノート整理	1 時間
3	運動とメンタルヘルス	ストレス解消のための運動についてレポート	1 時間	授業内容のまとめノート整理	1 時間
4	食行動と疾病予防	日常の食事についてのセルフモニタリング	1 時間	授業内容のまとめノート整理	1 時間
5	睡眠と疾病予防	睡眠習慣についてのセルフモニタリング	1 時間	授業内容のまとめノート整理	1 時間
6	ダイエット行動と健康	自分のダイエット経験についてレポート	1 時間	授業内容のまとめノート整理	1 時間
7	行動変容に関する理論	行動変容理論についての事前調べ	1 時間	授業内容のまとめノート整理	1 時間
8	まとめ	試験準備	1 時間	試験の問題の振り返り	1 時間

成　績　評　価	定期試験（100%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	事前学習で行わせる課題については，授業中に実施状況を確認し，授業の中で活用する．また，試験については，合格基準に達していない場合，再度，同様の範囲から試験を行う．
テキストおよび参　考　文　献	テキストの購入は必要ない
メッセージなど	生涯を通して健康管理を行うための知識を身につけてもらいたい．

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) わが国における健康行動（運動、睡眠、食行動）の実施状況についての説明	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	30%
(2) 健康行動（運動、睡眠、食行動）の重要性とそのメカニズムについての説明	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	30%
(3) 健康行動変容の理論と実際についての説明	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
スポーツ教育 Sport Education	全学科	24BAHP1002	１年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
実技	1	必修	紀村　修一	

ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識をもち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力をもち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。	○
概　　要	現代社会は生涯を通じてスポーツに参加することが国民の教養の一つになっている。そのような状況を踏まえて、本授業では、仲間と協力してスポーツに取り組むことを通して、生涯に渡ってスポーツに参加する意識を高めスポーツに関する基本的な知識や技能を修得する。	
到達目標	(1) 自らの技量に応じて積極的にスポーツを楽しむことができる。 (2) 生涯を通じてスポーツを楽しむことのできる知識を修得する。 (3) スポーツを楽しむための基礎的な知識や見方・考え方を修得する。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	シラバスを読む。	1 時間	ポートボールについて調べる。	2 時間
2	ポートボール①（ポートボールの行い方を知り、仲間と共にゲームを楽しむ）	ポートボールのルールを調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
3	ポートボール②（ポートボールの行い方を工夫し、仲間と協力してゲームを楽しむ）	ポートボールの攻め方を調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
4	新体力テスト①（握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、上体起こしを行う）	新体力テストの行い方を調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
5	新体力テスト②（20m シャトルランを行う）	新体力テストの行い方を調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
6	ポートボール③（得点するための作戦をチームで話し合い、ゲームを楽しむ）	得点するための作戦を考える。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
7	バレーボール①（バレーボールの行い方を知り、仲間と共にゲームを楽しむ）	バレーボールのルールを調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
8	バレーボール②（バレーボールの行い方を工夫し、仲間と協力してゲームを楽しむ）	バレーボールの攻め方を調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
9	バレーボール③（得点するための作戦をチームで話し合い、ゲームを楽しむ）	得点するための作戦を考える。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
10	サッカー①（サッカーの行い方を知り、仲間と共にゲームを楽しむ）	サッカーのルールを調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
11	サッカー②（サッカーの行い方を工夫し、仲間と協力してゲームを楽しむ）	サッカーの攻め方を調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
12	サッカー③（得点するための作戦をチームで話し合い、ゲームを楽しむ）	得点するための作戦を考える。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間

	13	ニュースポーツ①	ニュースポーツの具体例を調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	14	ニュースポーツ②	ニュースポーツのルールを調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	15	まとめ（これまでの学習の成果をレポートにまとめる）	前期の学習内容を整理する。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間

成　績　評　価	授業への取り組み（30%）、毎回の授業の振り返り（20%）、期末レポート（50%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	基本的には実技であるため、活動中に振り返りの時間を設け、フィードバックする。
テキストおよび参　考　文　献	必要があれば、適宜プリントを配布する。
メッセージなど	自分に合ったスポーツとの多様な関わり方を見付け、豊かなスポーツライフを楽しんでほしい。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 自らの技量に応じて積極的にスポーツを楽しむことができる。	自らの技量に応じてスポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じてある程度スポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じて最低限スポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じてスポーツを楽しむことができない	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・創造性）	30%
(2) 生涯を通じてスポーツを楽しむことのできる知識を修得する。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	毎回の授業の振り返り（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%
(3) スポーツを楽しむための基礎的な知識や見方・考え方を修得する。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	期末レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	50%

専門教育科目

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と言葉 Infant and Language	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC1001	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	中津 愛子	

実務家教員の詳細		
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	
概　　要	領域「言葉」の指導の基礎となる専門的知識を身に付けるため、次の３つをテーマとした授業を行う。 ①乳幼児期の言葉の発達と言葉の意義や機能を学ぶ。 ②言葉に対する感覚を豊かにするための実践の基礎を学ぶ。 ③言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財の意義を学ぶ。	
到達目標	(1)話し言葉や書き言葉などの言葉の意義や機能を説明できる。	
	(2)乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきを含めて説明できる。	
	(3)言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。	
	(4)言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。	
	(5)言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。	
	(6)児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける	
	(7)幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	領域「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて学ぶ。			復習プリント	2時間
2	領域「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
3	言葉による伝え合いや言葉遊び、文字への関心について学び、映像資料をもとに具体的な子どもの姿を理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間
4	前言語期のコミュニケーションの発達について、映像資料を通して具体的な子どもの姿を理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間

	5	幼児期の言葉の発達過程について、映像資料をもとに具体的に子どもの姿を通して学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	6	映像資料をもとに、保育者の適切な言葉がけについてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	7	保育場面の映像から、言葉を生み出す環境と豊かな体験についてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	8	子どもの言語障害について学び、映像を通して実際の子どもの姿を理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	9	言葉の遅れがみられる子どもへの援助、保育場面での配慮についてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	10	児童文化財としての絵本・紙芝居の実践を行い、言葉の豊かさや楽しさを子どもたちがどのように経験するかをグループ討議する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	11	ストーリーテリングの実践と、しりとりやなぞなぞなどの言葉遊びの実践を行い、言葉に関する感覚を高めることについてグループ討議を行う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	指導計画の課題レポート	2 時間
	12	ペープサートの作成とパネルシアターの実演を学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の教材作成	2 時間
	13	言葉に対する感覚を豊かにするための ICT を用いた保育教材の作成を行う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の練習	2 時間
	14	幼児の児童文化財の意義を学ぶ。領域「言葉」と他領域との関わりについて理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の実践後の感想レポート	2 時間
	15	領域「言葉」と小学校「国語科」との関係を理解したうえで、言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにするための幼児期の教育の重要性について、発表しあう。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の指導計画の修正	2 時間

成　績　評　価	授業への取り組み（15%）、グループワーク・グループ討議（15%）、プレゼンテーション（30%）、定期試験（40%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	復習プリントは添削して返却します。成績はルーブリック評価を行い、配布します。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：事前配布資料、幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内 閣府・厚生労働省）、 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省） 参考文献：文部科学省『幼稚園教育指導資料第５集』チャイルド本社
メッセージなど	グループ討議や模擬保育を取りいれたアクティブラーニング型の授業です。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目　　保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)話し言葉や書き言葉などの言葉の意義や機能を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきを含めて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(3)言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(4)言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。	ほぼ完璧に身に付けている。	基礎的な知識をおおよそ身に付けている	最低限の知識を身に付けている。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心、意欲、態度）	15%
(5)言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(6)児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける	ほぼ完璧に身に付けている。	基礎的な知識をおおよそ身に付けている	最低限の知識を身に付けている。	身に付けていない。	プレゼンテーション（思考力・判断力、表現力）	30%
(7)幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いはなく、おおよそ理解している。	最低限、理解している。	理解していない。	グループワーク・グループ討議（関心、意欲、態度）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と音楽表現 Infant and musical expression	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC1002	1 年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	必修	木橋 奏子	

実務家教員の詳細		
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	表現領域とは何か、幼児の音楽的な表現方法を、発達を理解しながら手あそび、わらべうた、リトミック等の知識を習得する。また具体的な例を例をあげながら、状況に適した表現方法を学ぶ。	
到達目標	(1) 幼児の音楽表現に関する知識・技能を習得する。	
	(2) 子どもの能力を引き出す表現の工夫や展開を考えることができる。	
	(3) 豊かな表現力、コミュニケーション能力を高め、自身の創造力や表現力を磨くことができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	表現領域のねらい	領域「表現」について簡単に調べてくる	2 時間	課題レポート	2 時間
2	イメージから表現へのプロセス	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
3	幼児期における表現活動の芽生え	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
4	手あそびの必要性（1）	手あそびを２つ調べてくる	2 時間	発表できるように練習しておく	2 時間
5	手あそびの必要性（2）	手あそびを練習してくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
6	幼児とわらべうた	わらべうたを１つ調べてくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
7	リズムあそびと表現活動の関わり（1）	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
8	リズムあそびと表現活動の関わり（2）	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
9	歌うことと聴き合うこと	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間

	10	絵本と音楽	絵本を１つ持参する	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
	11	音楽の基礎知識	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
	12	リズムアンサンブル	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
	13	テーマから表現する	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
	14	表現活動のグループ発表	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
	15	なぜ「表現」をするのか考える	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間

成　績　評　価	授業への取り組み（関心・意欲・態度）50%、 グループワーク・グループ討議（思考力・表現力・判断力）35% 課題・レポート（知識・理解）15%
課題(試験･レポート等)に対する フィードバックの方法	授業計画表内のフィードバック欄に毎回記入をする。 レポートや配布資料を適切に管理し、予習復習に使用する。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：表現指導法　上野奈初美　編著　萌文書林 参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省） 保育内容　領域「表現」　堂本真実子　編　わかば社 子どものための音楽表現技術　今泉明美他編著 望月たけ美他　萌文書林
メッセージなど	幼稚園教諭二種免許：必修科目、保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児の音楽表現に関する知識・技能を習得する。	ほぼ完璧に知識・技能を習得できる	大きな間違いなく、知識・技能を習得できる	最低限の知識・技能を習得できる	知識・技能を習得できない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	50%
(2) 子どもの能力を引き出す表現の工夫や展開を考えることが出来る。	ほぼ完璧に工夫や展開を考えることができる	大きな間違いなく、工夫や展開を考えることができる	最低限の工夫や展開を考えることができる	工夫や展開を考えることができない	グループワーク・グループ討議（思考力・表現力・判断力）	30%
(3) 豊かな表現力、コミュニケーション能力を高め、自身の創造力や表現力を磨くことができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いなくできる	最低限できる	磨くことができない	課題・レポート（知識・理解）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
音楽基礎と理論 Basic and Theory of Music	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC1003	1 年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	必修	安部 浩信･宮本 奈奈	

実務家教員の詳細		
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	音楽基礎・音楽理論を学習し、音楽的能力を磨く。 幼児音楽教育に必要な音楽演奏（歌･器楽合奏）を学習し、音楽的感性を磨く。	
到達目標	(1) 音楽基礎を理解し、楽譜を正しく読むことができる。	
	(2) 音楽理論の基礎（スケール･コードネーム）を理解できる。	
	(3) 簡易伴奏の基礎を演奏できる。	
	(4) 楽譜を正しく理解し、幼児教育に必要な音楽演奏（歌･器楽合奏）ができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	音楽基礎演習①			授業の復習	1 時間
2	音楽基礎演習②	テキスト 182･185 を読む	1 時間	授業の復習	1 時間
3	音楽基礎演習③	テキスト 182･185 を読む	1 時間	授業の復習	1 時間
4	音楽理論①	テキスト 183 を読む	1 時間	授業の復習	1 時間
5	音楽理論②	テキスト 183 を読む	1 時間	授業の復習	1 時間
6	音楽理論③	テキスト 184 を読む	1 時間	授業の復習	1 時間
7	音楽理論④	テキスト 184 を読む	1 時間	授業の復習	1 時間
8	器楽合奏・手遊び	指定された楽譜を読む	1 時間	授業の復習	1 時間

	9	器楽合奏・手遊び	指定された楽譜を読む	1 時間	授業の復習	1 時間
	10	器楽合奏・手遊び	指定された楽譜を読む	1 時間	授業の復習	1 時間
	11	器楽合奏・コード奏法	指定された楽譜を読む	1 時間	授業の復習	1 時間
	12	器楽合奏・コード奏法	指定された楽譜を読む	1 時間	授業の復習	1 時間
	13	器楽合奏・コード奏法	指定された楽譜を読む	1 時間	授業の復習	1 時間
	14	器楽合奏・歌唱	指定された楽譜を読む	1 時間	授業の復習	1 時間
	15	器楽合奏・歌唱	指定された楽譜を読む	1 時間	授業の復習	1 時間

成　績　評　価	定期試験（60%）　小テスト（30%）　授業への取り組み（10%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	毎回の授業の予習･復習をする
テキストおよび参　考　文　献	神原雅之　他「幼児のための音楽教育」教育芸術社 うたっておどっておもちゃ箱②巻 教育芸術社
メッセージなど	保育士証：必修科目 幼稚園教諭二種免許状：必修科目 ※ 基礎理論と器楽演奏指導を同時に指導するにあたり、複数の教員が必要となるため、器楽指導（45 分）と基礎理論（45 分）を交互に入れ替えて行います。

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 音楽基礎を理解し、楽譜を正しく読むことができる。	ほぼ完璧に楽譜の読み取りができる。	大きな間違いなく楽譜の読み取りができる。	最低限で読み取りができる。	基礎が理解できず読み取りができない。	小テスト（知識・理解）	20%
(2) 音楽理論の基礎を理解できる。	ほぼ完璧に理論を理解できる。	大きな間違いなく理論できる。	最低限で理論を理解できる。	理論が理解できず習得できない。	小テスト（知識・理解）	10%
(3) 簡易伴奏の基礎を演奏できる。	ほぼ完璧に簡易伴奏の基礎を演奏できる。	大きな間違いなく簡易伴奏の基礎を演奏できる。	最低限で簡易伴奏の基礎を演奏できる。	簡易伴奏を理解できず演奏ができない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
(4) 楽譜を正しく理解し、幼児教育に必要な音楽演奏（歌･器楽合奏）ができる。	ほぼ完璧に楽譜を理解し音楽演奏ができる。	大きな間違いなく楽譜を理解し音楽演奏ができる。	最低限で楽譜を理解し音楽演奏ができる。	楽譜が理解できず音楽演奏ができない。	定期試験（技能・表現力･作品の完成度）	60%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
ピアノⅠ Piano　Ⅰ	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC1004	1年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	選択	木橋 奏子・宮本 奈奈・宮本 千穂・中島 則子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	それぞれのピアノ演奏技術の向上を目指す。また、保育現場で活用できる幼児の歌唱教材の伴奏法を学ぶ。個人レッスンの形態で演習する。	
到達目標	(1) 楽譜の読み方を詳しく学ぶことができる。	
	(2) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。	
	(3) 保育現場で必要な歌唱教材の伴奏法を習得できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ピアノ曲演奏① ピアノの扱い方 楽譜の読みとり方	ピアノに触れておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
2	ピアノ曲演奏② ピアノ曲目説明	指定曲を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
3	ピアノ曲演奏③ バイエル15番	バイエル15番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
4	ピアノ曲演奏④ バイエル28番	バイエル28番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
5	ピアノ曲演奏⑤ バイエル48番	バイエル48番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
6	ピアノ曲演奏⑥ バイエル51番	バイエル51番を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
7	ピアノ曲演奏発表 伴奏曲演奏について	指定された曲を練習しておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
8	伴奏曲演奏① ハ長調音階 おおきなクリの木の下で	指定曲を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間

	9	伴奏曲演奏② ハ長調音階 おおきなクリの木の下で むすんでひらいて	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	10	伴奏曲演奏③ ト長調音階 うみ	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	11	伴奏曲演奏④ ニ長調音階 チューリップ	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	12	伴奏曲演奏⑤ ニ長調音階 チューリップ　ちょうちょう あくしゅでこんにちは	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	13	伴奏曲演奏⑥ ニ長調音階 チューリップ　ちょうちょう あくしゅでこんにちは	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	14	伴奏曲演奏⑦ ヘ長調音階 きらきら星　たなばたさま	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	15	伴奏曲演奏⑧ ヘ長調音階 きらきら星　たなばたさま	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	伴奏曲演奏① 2拍子	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	17	伴奏曲演奏② 2拍子 シャボン玉 かたつむり	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	18	伴奏曲演奏③ 2拍子 とんぼのめがね どんぐりころころ	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	19	伴奏曲演奏④ 2拍子 とんぼのめがね どんぐりころころ	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	20	伴奏曲演奏⑤ 2拍子 うれしいひな祭り	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	21	伴奏曲演奏⑥ 3拍子 こいのぼり ありさんのおはなし	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	22	伴奏曲演奏⑦ 3拍子 こいのぼり ありさんのおはなし	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	23	伴奏曲演奏⑧ 4拍子 お正月	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	24	伴奏曲演奏発表 ピアノ曲演奏について	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	25	ピアノ曲演奏① ―1週目― 試験曲を練習	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	26	ピアノ曲演奏② ―2週目― 試験曲を練習	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	27	ピアノ曲演奏③ ―3週目― 試験曲を練習	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間

	28	ピアノ曲演奏④ ―4週目― 試験曲を練習	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	29	ピアノ曲演奏⑤ ―5週目― 試験曲を練習	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	30	ピアノ曲演奏⑥ ―6週目― 試験曲を練習	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間

成　績　評　価	定期試験（70%）、授業への取り組み（30%）
課題(試験･レポート等)に対する フィードバックの方法	日々の練習を復習練習によりフィードバックし、実技試験の場で発表できるようにする。
テキストおよび 参　考　文　献	森田百合子　他「幼児の音楽教育」教育芸術社
メッセージ な　　ど	保育士証：必修科目 予習復習を欠かさず行いましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 楽譜の読み方を詳しく学ぶことができる。	ほぼ完璧に学んでいる。	大きな間違いがなく、基本を学んでいる。	間違いはあるが、最低限の基本を学んでいる。	学んでいない。	定期試験 （関心・意欲・態度）	20%
	ほぼ完璧に学んでいる。	大きな間違いがなく、基本を学んでいる。	間違いはあるが、最低限の基本を学んでいる。	学んでいない。	授業への取り組み （技能・作品の完成度）	15%
(2) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基本を習得している。	間違いはあるが、最低限の基本を習得している。	習得できていない。	定期試験 （作品の完成度・技能）	20%
(3) 保育現場で必要な歌唱教材の伴奏法を習得できる。	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基本を習得している。	間違いはあるが、最低限の基本を習得している。	習得できていない。	定期試験 （作品の完成度）	30%
	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基本を習得している。	間違いはあるが、最低限の基本を習得している。	習得できていない。	授業への取り組み （理解・技能）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
ピアノⅡ Piano Ⅱ	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC2004	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	木橋 奏子・宮本 奈奈・宮本 千穂・中島 則子	

ディプロマポリシーとの関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、保育現場で必要な伴奏法・弾き歌いの方法を学ぶ。また、簡易伴奏法はハ長調・ト長調・ニ長調・ヘ長調のⅠⅣⅤ（Ⅴ７）の和音を修得し伴奏に活用できる方法を学ぶ。各自のピアノ演奏技術にあわせ個人レッスンの形態で学ぶ。	
到達目標	(1) より高度なピアノ演奏技術を習得できる。	
	(2) ハ長調・ト長調・ニ長調・ヘ長調のⅠⅣⅤ（Ⅴ７）の和音を修得し、伴奏に活用できる。	
	(3) 保育現場で必要なレパートリーが増え、弾き歌いできる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	弾き歌い① ハ長調伴奏 大きなくりの木の下で かたつむり 手をたたきましょう	テキスト5Pから10P までを譜読みしておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
2	弾き歌い② ハ長調伴奏 大きなくりの木の下で かたつむり 手をたたきましょう	テキスト5Pから10P までを譜読みしておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
3	弾き歌い③ ハ長調伴奏 とんぼのめがね やきいもグーチーパー	テキスト 11P から 14P を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
4	弾き歌い④ト長調伴奏 うみ 幸せなら手をたたこう ふしぎなポケット	テキスト 15P から 20P を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
5	弾き歌い⑤ト長調伴奏 うみ 幸せなら手をたたこう ふしぎなポケット	テキスト 15P から 20P を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間
6	弾き歌い⑥ニ長調伴奏 チューリップ あくしゅでこんにちは とけいのうた	テキスト 21P から 26P を譜読みしておく	2時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2時間

	7	弾き歌い⑦ ニ長調伴奏 チューリップ あくしゅでこんにちは とけいのうた	テキスト 21P から 26P を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	8	弾き歌い⑧ニ長調伴奏 チューリップ あくしゅでこんにちは とけいのうた	テキスト 21P から 26P を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	9	弾き歌い⑨へ長調伴奏 たなばたさま きらきら星 ブン ブン ブン やぎさんゆうびん	テキスト 27P から 34P を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	10	弾き歌い⑩ へ長調伴奏 たなばたさま きらきら星 ブン ブン ブン やぎさんゆうびん	テキスト 27P から 34P を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	11	弾き歌い⑪へ長調伴奏 たなばたさま きらきら星 ブン ブン ブン やぎさんゆうびん	テキスト 27P から 34P を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	12	弾き歌い⑫ 自由曲（保育実習で必要と考える曲）	指定された曲を練習しておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	13	弾き歌い⑬ 自由曲（幼稚園実習で必要と考える曲）	指定された曲を練習しておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	14	弾き歌い⑭ 自由曲	指定された曲を練習しておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	15	弾き歌い⑮ 自由曲	指定された曲を練習しておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間

成績評価	定期試験（50%）、授業への取り組み（50%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	日々の練習を復習練習によりフィードバックし、実技試験の場で発表できるようにする。
テキストおよび参考文献	森田 百合子 他「幼児の音楽教育」教育芸芸術社
メッセージなど	保育現場で音楽指導ができるようになりましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) より高度なピアノ演奏技術を習得できる。	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基本を習得している。	間違いはあるが、最低限の基本を習得している。	習得できていない。	定期試験（理解・技能・表現力・作品の完成度）	20%
(1) より高度なピアノ演奏技術を習得できる。	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基本を習得している。	間違いはあるが、最低限の基本を習得している。	習得できていない。	授業への取り組み（意欲）	20%
(2) ハ長調･ト長調･ニ長調・へ長調の□□□（□7）の和音を修得し、伴奏に活用できる。	ほぼ完璧に活用できる。	大きな間違いがなく、基本を活用できる。	間違いはあるが、最低限の基本を活用できる。	活用できていない。	定期試験（理解）	10%
(2) ハ長調･ト長調･ニ長調・へ長調の□□□（□7）の和音を修得し、伴奏に活用できる。	ほぼ完璧に活用できる。	大きな間違いがなく、基本を活用できる。	間違いはあるが、最低限の基本を活用できる。	活用できていない。	授業への取り組み（意欲・技能）	10%
(3) 保育現場で必要なレパートリーが増え、弾き歌いできる。	ほぼ完璧に弾き歌いができる。	大きな間違いがなく、基本を弾き歌いができる。	間違いはあるが、最低限の基本を弾き歌いができる。	弾き歌いができていない。	定期試験（理解・技能・表現力・作品の完成度）	20%
(3) 保育現場で必要なレパートリーが増え、弾き歌いできる。	ほぼ完璧に弾き歌いができる。	大きな間違いがなく、基本を弾き歌いができる。	間違いはあるが、最低限の基本を弾き歌いができる。	弾き歌いができていない。	授業への取り組み（意欲）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と造形表現 Young Children and Plastic Arts Expressing	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC1006	１年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	必修	吉本　宏之	○

実務家教員の詳細	幼稚園教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	幼児の発達段階と造形表現の変化を関連づけながら、幼児期にふさわしい造形表現を援助するための方法を考える。また、幼児の造形表現の基本となる知識・技能、造形活動に関する基本的な素材の扱い方や環境構成等について、自ら作る喜びを味わう中で習得する。	
到達目標	(1) 領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の生活や遊びの中にみられる表現の姿とその発達を理解する。	
	(2) 造形表現の基礎知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。	
	(3) 身近な素材を用いた表現活動に取り組み、その面白さや可能性、重要性を説明する。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児の造形についての概要。当授業のねらい。	授業前に配付したプリントを読む	2 時間	授業の概要理解について考察し感想を書く	2 時間
2	実際の絵を見ながら、幼児の発達と造形表現の特徴を理解する。	前時に配付した鑑賞資料を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
3	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること①	教科書（接着剤資料①）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
4	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること②	教科書（接着剤資料②）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
5	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること③	教科書（接着剤資料③）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
6	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること④	教科書（接着剤資料④）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

	7	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。はさみ①	教科書（はさみ資料①）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	8	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。はさみ②	教科書（はさみ資料②）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	9	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料①	教科書（パス・ペン資料）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	10	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料②	教科書（絵の具資料）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	11	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料③	教科書（コンテ資料）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	12	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料④	教科書（墨汁資料）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	13	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。紙の技法①	教科書（折り紙資料）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	14	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。紙の技法②	教科書（紙を揉む資料）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	15	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。紙の技法③	教科書（紙を破る資料）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	16	これまで学んだ環境づくりと製作の基本や、幼児の造形活動を支えるものについて考察し、発表する。	前時まで学んだ教科書や振り返りシートを読んでおく。	2 時間	今までの作品の自己評価を振り返りシートに書く。	2 時間
	17	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。①スタンピング、バチック	教科書（スタンピング、バチック）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	18	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。②染め紙、にじみ絵	教科書（染め紙、にじみ絵）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	19	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。③デカルコマニー、スクラッチ	教科書（デカルコマニー、スクラッチ）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	20	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。④ステンシル	教科書（ステンシル）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	21	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。⑤紙版画	教科書（紙版画）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	22	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。⑥フロッタージュ	教科書（フロッタージュ）を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

	23	粘土の特徴を理解し、その特徴を生かし遊びや製作について考え、実施する。	教科書(紙・小麦粉粘土)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	24	粘土の特徴を理解し、その特徴を生かし遊びや製作について考え、実施する。	教科書(土粘土)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	25	自然物を生かした造形遊びや製作について考え、実施する。	教科書(自然物)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	26	自然物を生かした造形遊びや製作について考え、実施する。	教科書(自然物)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	27	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、2・3歳児にふさわしい壁面装飾を制作する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	28	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、4歳児にふさわしい壁面装飾を制作する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	29	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、5歳児にふさわしい壁面装飾を制作する	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	30	自分たちの制作物を見ながら、子どもの造形活動の評価と援助の方法について考える。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（知識・理解・思考力）30%、作品（意欲・態度・作品の完成度）30%、教材作成（表現力・判断力・創造性）20%、毎回の授業の感想・振り返り（関心・意欲・理解）20%
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	・試験は実施しない（ただし、授業内で小テストを行う） ・授業の振り返りシート提出と、作品ファイルの提出
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：「２～５歳児　製作あそび　基本のき」 著者　内本久美　発行人　岡本功　発行所　ひかりのくに株式会社 参考文献：幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示　文部科学省)　、幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
メッセージなど	子どもの立場、または保育者としての立場を想定して演習します。実習にも役立つスキルを身につけます。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目　　保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の生活や遊びの中にみられる表現の姿とその発達を理解する。	幼児の造形表現の特徴をほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく、幼児の造形表現の特徴を理解し説明できる。	いくつかの間違いはあるが、幼児の造形表現の特徴を理解し説明できる。	幼児の造形表現の特質を全く理解できず説明もできない。	課題・レポート(知識・理解・思考力)	30%
	ほぼ完璧で意欲的な感想、振り返りができている。	大きな間違いがなく、意欲的な感想、振り返りができている。	いくつかの間違いはあるが、意欲的な感想、振り返りができている。	全く理解できず、意欲的な感想、振り返りができていない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	10%
(2)造形表現の基礎知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。	ほぼ完璧に描画材料を使いこなせる。	大きな間違いがなく描画材料を使いこなせる。	いくつかの間違いはあるが、描画材料を使いこなせる。	全く描画材料を使いこなせない。	作品(意欲・態度・作品の完成度)	30%
	描画材に関してほぼ完璧で意欲的な感想、振り返りができている。	描画材に関して大きな間違いがなく、意欲的な感想、振り返りができている。	いくつかの描画材に対しての間違いはあるが、感想、振り返りが出来ている。	描画材に対して間違いが多く、感想、振り返りができていない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	5%
(3)身近な素材を用いた表現活動に取り組み、その面白さや可能性、重要性を説明する。	身近な素材をほぼ完璧かつ的確に用いて想像性の高い教材作成ができている。	大きな間違いもなく、身近な素材をほぼ的確に用いて想像性の高い教材作成ができている。	いくつかの間違いはあるが、身近な素材を用いて教材作成ができている。	全く身近な素材を用いた教材ができていない。	教材作成(表現力・判断力・想像性)	20%
	ほぼ完璧に、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	大きな間違いもなく、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	いくつかの間違いはあるが、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	全く身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解できず、自他ともに評価できない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児図画工作 Arts and Handicrafts for Infant	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC2007	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	椿 千栄子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	紙芝居の製作を通して幼児図画工作の基本的技術の習得を目的とする。各自一つオリジナルの紙芝居を製作する事により、描画材料の扱い、場面の構成力、文章力、読み聞かせの技術など保育士として必要な総合的な力をつけていく。また実習や就職試験にも役立てるようにする。
到達目標	(1) 紙芝居の歴史や特徴を知り、その他の児童文化も理解し説明することができる
	(2) 表現したい内容についての積極的な調査をし、子どもに紙芝居を通して「何を伝えたいか」という問題意識を高め、発達や年齢に合った「内容」を決定できる。
	(3) 絵の具やその他の描画材の扱いに熟達し、それぞれの場面の絵を描く事ができる。
	(4) それぞれの絵の内容に合った場面の文章を考えて書くことができる。
	(5) 演技者として子どもに分かりやすく紙芝居を演ずる事ができる。
	(6) お互いの紙芝居を鑑賞して、良いところや改善するところを積極的に話し合い、自分の考えを述べることができる

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	授業演習の概要について。児童文化の中にある紙芝居の位置付け	授業前に配ったプリントを読んでおく	2 時間	児童文化への理解ができているか復習し、感想を書く	2 時間
2	紙芝居の歴史、特質。制作についての説明、参考作品の鑑賞	前時に配った紙芝居の歴史についてプリントを読んでおく	2 時間	紙芝居の歴史、特質を理解できたかを復習し感想を書く	2 時間
3	お話の設定 ストーリーを考える① ５領域やファンタジーの世界から構想を練る	前時に配ったプリントを読んでおく	2 時間	紙芝居の様々な種類を知り、構想を練る事ができたかを振り返り感想を書く	2 時間
4	お話の設定 ストーリーを考える② アイデアスケッチ（４分の１サイズ上質紙で作成）	前時に配ったプリントを読んでおく	2 時間	ストーリー設定ができたかどうかを振り返り感想を書く	2 時間
5	お話の設定 ストーリーを考える③ アイデアスケッチ、文章を考える	前時に配ったプリントを読んでおく	2 時間	内容に合った文章の考案ができているかを振り返り感想を書く	2 時間

	6	場面の絵を描く①　８つ切り画用紙に下描きをする	前時に配ったプリントを読んでおく	2 時間	計画通り下描きができているかを振り返り感想を書く	2 時間
	7	場面の絵を描く② －彩色１週目－	構図通り彩色計画を行い色鉛筆で縮小サイズの試作を作る	2 時間	絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかを振り返り感想を書く	2 時間
	8	場面の絵を描く③ －彩色２週目－	計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察する	2 時間	絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかを振り返り感想を書く	2 時間
	9	場面の絵を描く④ －彩色３週目－	計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察する	2 時間	絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかを振り返り感想を書く	2 時間
	10	場面の絵を描く⑤ －彩色４週目－	計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察してみる	2 時間	絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかどうか振り返り感想を書く	2 時間
	11	場面の絵を描く⑥ －彩色５週目－	計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察してみる	2 時間	絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかどうか振り返り感想を書く	2 時間
	12	場面の絵を描く⑦ －彩色６週目－	計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察してみる	2 時間	絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかどうか振り返り感想を書く	2 時間
	13	場面に合った文章を考え入力する	内容に合う文章を考えてみる	2 時間	場面に合った文章になっているか振り返り感想を書く	2 時間
	14	文章をもう一度校正し、プリントアウトして画用紙に貼り付ける	考えた文章を校正してみる	2 時間	場面に合った文章の最終校正を振り返り感想を書く	2 時間
	15	実技発表・講評	発表できるように練習する	2 時間	人前で紙芝居の演技ができたかどうか振り返り、考察感想を書く	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（5%）、作品（25%）、授業への取り組み（5%）、発表・プレゼンテーション（10%）、グループワーク・グループ討議（5%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（50%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	・児童文化に関する文献、文章を読み、その内容に関するプリントに回答を記入して提出。お互いに完成した紙芝居を読みあい、評価しあい、感想を述べる。 ・15 コマ分の感想、考察を提出。・作品を返却する。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：子どもと言葉　岡田　明編　萌文書林
メッセージなど	１５コマで１つの紙芝居を完成させるためには相当の集中力を必要とします。描画材（ポスターカラー等）の扱いを知り、構成力、文章力、演技力を身に付けたい人。 保育士証：選択科目、幼稚園教諭二種免許状：選択科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 紙芝居の歴史や特徴を知り、その他の児童文化も理解し説明することができる	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない	課題・レポート（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない	毎回の授業の感想･振り返り、毎回の授業課題（知識・理解）	5%
(2) 表現したい内容についての積極的な調査をし、子どもに紙芝居を通して「何を伝えたいか」いう問題意識を高め、発達や年齢に合った「内容」を決定できる。	ほぼ完璧に調査していて子どもの発達や年齢に合った内容を決定できる。	よく調査していて子どもの発達や年齢に合った内容を決定できる。	間違いはいくつかあるが、発達や年齢に合った内容を決定できる	発達や年齢に合った内容を決定できない	授業への取り組み（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に調査していて子どもの発達や年齢に合った内容を決定できる。	よく調査していて子どもの発達や年齢に合った内容を決定できる。	間違いはいくつかあるが、発達や年齢に合った内容を決定できる	発達や年齢に合った内容を決定できない	毎回の授業の感想･振り返り、毎回の授業課題（知識・理解）	5%
(3) 絵の具やその他の描画材の扱いに熟達し、それぞれの場面の絵を描く事ができる。	ほぼ完璧に描画材を使いこなし丁寧な仕上げで場面の絵を描くことができる	描画材をある程度使いこなし丁寧な仕上げで場面の絵を描くことができる	描画材は使いこなせていないが、自分なりの技法で場面の絵を描くことができる	描画材を全く使いこなせていない。制作する意欲がない	作品（技能･表現力･創造性・作品の完成度）	15%
	ほぼ完璧に描画材を使いこなし丁寧な仕上げで場面の絵を描くことができる	描画材をある程度使いこなし丁寧な仕上げで場面の絵を描くことができる	描画材は使いこなせていないが、自分なりの技法で場面の絵を描くことができる	描画材を全く使いこなせていない。制作する意欲がない	毎回の授業の感想･振り返り、毎回の授業課題（技能･表現力･創造性・作品の完成度）	15%
(4) それぞれの絵の内容に合った場面の文章を考えて書くことができる。	ほぼ完璧に絵の内容に合った文章を書けている。	ほぼ絵の内容に合った文章を書けている。	絵の内容に合った文章が書けていない場面もあるが自分なりに表現している	全く絵の内容に合った文章を書く意欲がない	作品（思考力・表現力）	10%
	ほぼ完璧に絵の内容に合った文章を書けている。	ほぼ絵の内容に合った文章を書けている。	絵の内容に合った文章が書けていない場面もあるが自分なりに表現している	全く絵の内容に合った文章を書く意欲がない	毎回の授業の感想･振り返り、毎回の授業課題（思考力・表現力）	10%
(5) 演技者として子どもに分かりやすく紙芝居を演ずる事ができる。	ほぼ完璧に演技ができている	大きな間違いがなく演技ができている	やや演技の技能に不足はあるが演ずることができている	全くできていない。また意欲もない	発表・プレゼンテーション（技能・表現力）	10%
	ほぼ完璧に演技ができている	大きな間違いがなく演技ができている	やや演技の技能に不足はあるが演ずることができている	全くできていない。また意欲もない	毎回の授業の感想･振り返り、毎回の授業課題（技能・表現力）	10%

(6) お互いの紙芝居を鑑賞して、良いところや改善するところを積極的に話し合い、自分の考えを述べることができる	ほぼ完璧に作品について意見を述べる事ができる	大きな間違いがなく、作品について意見を述べることができる	言葉の選択に間違いはいくつかあるが作品について意見を述べることができる	全く意見がいえない。意欲がない。	グループワーク・グループ討議 （判断力・協働性）	5%
	ほぼ完璧に作品について意見を述べる事ができる	大きな間違いがなく、作品について意見を述べることができる	言葉の選択に間違いはいくつかあるが作品について意見を述べることができる	全く意見がいえない。意欲がない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 （判断力・協働性）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と健康 Young Children and Health	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC1008	１年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	必修	紀村　修一	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	幼児期における健康や幼児の運動発達について学び、仲間と協力して実践方法や健康促進の工夫について話し合うことを通して、健康への理解を深める。また、児童期における健康にも触れ、小学校との接続についても検討する。	
到達目標	(1) 幼児期における健康について理解を深めることができる。	
	(2) 幼児期における健康について実践力を養うことができる。	
	(3) 幼児の健康意識を高める取組を提案することができる。	

授業内容と進め方（前期）

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	前期オリエンテーション	シラバスを読む。	1 時間	学習内容の復習。	2 時間
2	領域「健康」のねらい	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
3	領域「健康」の内容①	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
4	領域「健康」の内容②	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
5	領域「健康」の内容③	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
6	領域「健康」の内容の取扱い①	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
7	領域「健康」の内容の取扱い②	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
8	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と健康①	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間

	9	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と健康②	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	10	幼児期の運動発達の特性①	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	11	幼児期の運動発達の特性②	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	12	幼児期の運動遊び（実技）	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	13	「健康だより」の作成	資料を読む。	2 時間	発表の準備をする。	2 時間
	14	「健康だより」の紹介	発表の準備をする。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	15	前期まとめ（前期の学習の成果をレポートにまとめる）	前期の学習内容を整理する。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
授業内容と進め方（後期）	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	後期オリエンテーション	前期の学習内容を復習する。		学習内容の復習。	2 時間
	17	幼児期の運動遊び①	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	18	幼児期の運動遊び②	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	19	幼児期の運動遊び③	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	20	運動遊びの場づくり①	環境設定について調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	21	運動遊びの場づくり②	環境設定について調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	22	運動遊びの場づくり③	環境設定について調べる。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	23	模擬保育（運動遊び）①	模擬授業の準備をする。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	24	模擬保育（運動遊び）②	模擬授業の準備をする。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	25	模擬保育（運動遊び）③	模擬授業の準備をする。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間

	26	模擬保育（運動遊び）④	模擬授業の準備をする。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	27	模擬保育（運動遊び）⑤	模擬授業の準備をする。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	28	児童期の健康①	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	29	児童期の健康②	資料を読む。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	30	後期まとめ（後期の学習の成果をレポートにまとめる）	後期の学習内容を整理する。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間

成　績　評　価	授業への取り組み（30%）、毎回の授業の振り返り（20%）、期末レポート（50%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	コメント（口頭、記述）によるフィードバックを行う。
テキストおよび参　考　文　献	必要があれば、適宜プリントを配布する。 幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月）　文部科学省　フレーベル館　2018 保育所保育指針（平成 29 年告示）　厚生労働省　フレーベル館　2017
メッセージなど	保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目 領域「健康」のねらいや内容等を理解し、具体的な保育の方法を考えたり実践力を養ったりしてほしい。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児期における健康について理解を深めることができる。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	毎回の授業の振り返り（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%
(2) 幼児期における健康について実践力を養うことができる。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・創造性）	30%
(3) 幼児の健康意識を高める取組を提案することができる。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	期末レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	50%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児体育 Young Children Physical Education	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC2009	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	大本 学司	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	「子どもの生活はあそびである」と言われるが、幼児期の子どものあそびは身体活動を伴うことが多い。そして、これらの身体活動を伴うあそびは、子どもの心身の発育・発達に大きく関与している。本授業では、幼児期の子どもにとっての運動あそびとは何か、また、運動あそびの指導はどのように進めていけばよいかなど、単に動きの指導やあそびを考える指導に留まらず、心身の発達を視野において保育活動の一環としての運動あそびの指導ができるように、必要な能力や知識を身につけることを目標とする。
到達目標	(1) 子どもたちが楽しく運動できる雰囲気をつくることができる。
	(2) 運動あそびにおける基礎的な知識を理解し考えを述べることができる。
	(3) 子どもの発達段階に応じた基本的な運動あそびを実践できる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児期の運動あそびの意義ーオリエンテーションー	テキストを読んでおく	2時間	授業の振返り	2時間
2	なわあそびの考え方と指導の留意点	テキストを読んでおく	2時間	課題レポート	2時間
3	短なわ技術の系統的指導	事前配布資料を読んでおく	2時間	課題レポート	2時間
4	なわあそびにおける表現活動	事前配布資料を読んでおく	2時間	課題レポート	2時間
5	リズムなわとびについて	事前配布資料を読んでおく	2時間	課題レポート	2時間
6	リズムなわとびのグループづくりと練習	なわとびの練習	2時間	リズムなわとびの立案と練習	2時間
7	リズムなわとびのグループ練習①	なわとびの練習	2時間	リズムなわとびの立案と練習	2時間
8	リズムなわとびのグループ練習②	なわとびの練習	2時間	リズムなわとびの立案と練習	2時間
9	リズムなわとびの発表	グループ練習	2時間	発表の振返りレポート	2時間
10	「おにごっこ」の考え方と指導の留意点	テキストを読んでおく	2時間	課題レポート	2時間

	11	「おにごっこ」の初期段階と指導の要点	テキストを読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	12	「おにごっこ」の意味と課題（グループ活動）	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	13	「おにごっこ」におけるルールの意味	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	14	現実の発達課題に応じた「おにごっこ」の内容の検討（発表）	グループでの発表内容の確認と練習	2 時間	課題レポート	2 時間
	15	まとめ	授業資料のまとめ	2 時間	授業資料の確認とまとめ	2 時間

成績評価	課題・レポート（40%）、授業への取り組み（30%）、発表・プレゼンテーション（30%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	レポートはファイルにとじて提出してもらい、次の時間に返却し復習に使用します。
テキストおよび参考文献	資料は随時配布
メッセージなど	保育士証：選択科目　　幼稚園教諭二種免許状：選択科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもたちが楽しく運動できる雰囲気をつくることができる。	ほぼ完璧に雰囲気をつくることができる	ある程度の雰囲気をつくることができる	最低限の雰囲気をつくることはできる	雰囲気をつくることができない	授業への取り組み（関心・意欲・態度・理解）	10%
	ほぼ完璧に雰囲気をつくることができる	ある程度の雰囲気をつくることができる	最低限の雰囲気をつくることはできる	雰囲気をつくることができない	発表・プレゼンテーション（関心・意欲・態度・理解）	10%
(2) 運動あそびにおける基礎的な知識を理解し考えを述べることができる。	ほぼ完璧に考えを述べることができる	大きな間違いがなく考えを述べることができる	最低限の考えを述べることができる	考えを述べることができない	授業への取り組み（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%
	ほぼ完璧に考えを述べることができる	大きな間違いがなく考えを述べることができる	最低限の考えを述べることができる	考えを述べることができない	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%
(3) 子どもの発達段階に応じた基本的な運動あそびを実践できる。	ほぼ完璧に実践できる	大きな間違いがなく実践できる	最低限のことは実践できる	実践できない	課題・レポート（理解・技能・判断力・創造性・問題解決力）	20%
	ほぼ完璧に実践できる	大きな間違いがなく実践できる	最低限のことは実践できる	実践できない	発表・プレゼンテーション（理解・技能・判断力・創造性・問題解決力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と人間関係 Relationships with infants	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC1010	1 年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	必修	平田　睦美	○

実務家教員の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	幼児を取り巻く様々な社会的問題や実際の姿を考察することを通じて、人間関係の発達のために必要な事柄について理解を深める。領域「人間関係」の基本的事項を学習し、人とかかわる筋道を理解し、子どもの姿を捉える視点について学ぶ。	
到達目標	(1) 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。	
	(2) 乳幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。	
	(3) 乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。	
	(4) 自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて説明できる。	
	(5) 家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼稚園教育要領,保育所保育指針,幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容・内容の取扱いについて学ぶ。	幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読む。	2 時間	領域「人間関係」のねらいや内容についてまとめる。	2 時間
2	幼児を取り巻く人間関係と現代的特徴とその社会的背景について理解する。	幼児の人間関係について考えをまとめる。	2 時間	授業で学んだことをまとめる。	2 時間
3	自分や周りの人などとの関係性の中から、印象的な場面を取り上げ、グループで紹介し合い、様々な場面の人間関係について考えを深める。	自分の生活の中で印象的な人とのかかわりについて考える。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
4	０～２歳児における人とのかかわりの姿の映像を通して、人間関係の発達の姿を考察する。	保育所保育指針解説 P101～109、P135～144 を読む。	2 時間	映像記録をまとめる。	2 時間
5	幼児期の遊びや生活の映像を通し、その中にみられる人とかかわる力の育ちについてグループで話し合い、理解する。	幼稚園教育要領解説第２章「人間関係」を読む。	2 時間	映像記録をまとめる。	2 時間

	6	自我の芽生えから自立へ向かう過程について映像や事例を通して理解し、保育者の援助について学ぶ。	幼稚園教育要領解説第２章「人間関係」を読む。	2 時間	映像や事例についてまとめる。	2 時間
	7	子ども同士のトラブルやいざこざの実際の場面を映像や事例から考え、幼児の発達とどのように関係しているかをグループで話し合い探る。	幼稚園教育要領解説第２章「人間関係」を読む。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	8	幼児の仲間意識の形成と協同する存在へと変容する過程をグループで話し合い理解し、保育者の役割について考える。	幼稚園教育要領解説第２章「人間関係」を読む。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	9	個の育ちと集団の育ちについての関係性を映像や事例を通して考察し、保育者の役割について考える。	幼稚園教育要領解説第２章「人間関係」を読む。	2 時間	映像や事例についてまとめる。	2 時間
	10	人とのかかわりが難しい子どもに対して、様々な事例を通しその要因について理解し対応について考察する。	幼稚園教育要領解説第２章「人間関係」を読む。	2 時間	事例から考えたことをまとめる。	2 時間
	11	幼児が葛藤体験を通し、きまりの重要性を理解したり、気持ちを調整し折り合いをつけたりする過程について理解し道徳性・規範意識の芽生えの関係性について考える。	幼稚園教育要領解説第２章「人間関係」を読む。	2 時間	授業を振り返り、自分の考えをまとめる。	2 時間
	12	小学校との連携や地域の様々な人々との交流の意義について考え、実際の事例を通してそのあり方や保育者の役割を学ぶ。	地域との交流はどのようなものがあるか調べる。	2 時間	授業を振り返り、要点をまとめる。	2 時間
	13	保護者との連携について事例を通してグループで話し合い子どもの育ちを支える上で大切であることを理解し、保護者との関係づくりについて学ぶ。	保護者との連携について自分の考えをまとめる。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	14	保育者同士が連携しながら保育にあたることや情報を共有することが子どもの生活に極めて重要であることを理解する。	保育者同士の連携について自分の考えをまとめる。	2 時間	授業を振り返り、要点をまとめる。	2 時間
	15	授業内容を振り返り学びを整理しながら、人とかかわる力を育てる保育者の役割や現代的課題について自分の考えをまとめる	15 回の資料を読み直す。	2 時間	振り返りシートによりまとめる。	2 時間

成績評価	定期試験(50%)、レポート（30%)、授業への取組 (20%)
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	振り返りシートやレポートはコメントをつけて返却します。ルーブリックによる成績評価を配布します。
テキストおよび参考文献	テキスト　：『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月　告示　文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月　告示　厚生労働省）、『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月　文部科学省）フレーベル館、『保育所保育指針解説』（平成 30 年 3 月　厚生労働省）フレーベル館 参考文献　：『事例で学ぶ保育内容　領域　「人間関係」』無糖隆　監修 岩立京子　編集代表　萌文書林
メッセージなど	人が成長し生きていくためには、人間関係が極めて重要な要因です。人間関係の発達のために必要な事柄を映像や事例の幼児の姿から考え、学んでいきましょう。 保育士証・幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	20%
(2)乳幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	定期試験（知識・理解）	15%
(3) 乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	定期試験（知識・理解）	15%
(4)自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート（思考力・判断力・表現力）	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組（関心・意欲・態度）	10%
(5)家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート（思考力・判断力・表現力）	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児と環境 Toddlers and the environment	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC1011	１年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1	必修	平田　睦美	○

実務家教員の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	幼児を取り巻く様々な環境の教育的意義を理解し、幼児期の環境と関わる力の発達について、事例や映像を通して、幼児の実際の姿から学ぶ。	
到達目標	(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。	
	(2) 乳幼児の物理的、数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	
	(3) 乳幼児の生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	
	(4) 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。	
	(5) 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとのかかわり方について説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	日々の生活を基に環境の関係性についてグループで考え、環境の意味を理解する。	幼児を取り巻く環境について自分のイメージしたことをまとめる。	2 時間	生活と環境の関係性についてまとめる。	2 時間
2	幼稚園教育要領,保育所保育指針,幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」のねらいや内容について具体的に学ぶ。	幼稚園教育要領解説第２章「環境」を読む。	2 時間	領域「環境」のねらいや内容を復習する。	2 時間
3	現代社会の幼児を取り巻く環境と現代課題についてグループで話し合い理解する。	幼児を取り巻く環境の課題について考えをまとめる。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
4	乳幼児期の発達における環境との関わりについて映像を通して理解する。	幼稚園教育要領解説第２章「環境」を読む。	2 時間	映像記録をまとめる。	2 時間
5	実際の保育現場での保育室の環境構成の映像を見て、グループで話し合い、環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する。	幼稚園教育要領解説第２章「環境」を読む。	2 時間	映像記録をまとめる。	2 時間
6	大学の近辺を散策し、見たり、感じたり、触れたりすることを通し、幼児の生活と関係する環境について考えたことをグループでまとめる。	今時期の自然の様子（草花・虫など）について調べておく。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間

	7	季節の自然物を使った遊びを体験する。	身近な自然物を使った遊びについて考えておく。	2 時間	体験した遊びについてまとめる。	2 時間
	8	身近に育つ植物の種類を調べ、これらと幼児の生活や遊びについて考える。	身近に育っている植物について調べておく。	2 時間	授業を振り返り、考えたことをまとめる。	2 時間
	9	実際に花や野菜の栽培をし、どのように成長していくのか、そのためにはどのようなことが必要かについて学ぶ。	自分が育てたい花や野菜の育て方について調べ、まとめておく。	2 時間	授業を振り返り、考えたことをまとめる。	2 時間
	10	身近な生き物の種類、特性について映像を通して学ぶ。また、幼児の生き物への興味・関心について学び、生き物の不思議さや命の大切さを認識する。	自分が育ててみたい生き物の育て方について調べておく。	2 時間	幼児と生き物の関係についてまとめる。	2 時間
	11	幼児の自然（自然現象・土・水など）との関わりについて映像や事例を通して学び、自然体験活動の大切さを理解する。	自然と関わる遊びについて考えておく。	2 時間	幼児と自然との関わりについてまとめる。	2 時間
	12	「数・量・図形」について、幼児が遊びや生活を通して学んでいく方法を理解する。	「数・量・図形」に関わる遊びについて考えておく。	2 時間	幼児の「数・量・図形」について学んでいく方法をまとめる。	2 時間
	13	乳幼児を取り巻く標識・文字と幼児の生活について考え、どのようなものがあるかグループで話し合い、具体的な場面や活動を学ぶ。	乳幼児を取り巻く標識にはどのようなものがあるか調べておく。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	14	乳幼児期の生活に関係の深い情報や施設などについて調べ、それらにかかわる具体的な活動について考える。	乳幼児期の生活に関係する施設について調べておく。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	15	幼児と環境の関わりについて振り返り、環境の重要性と課題についてまとめる。	１５回の資料を読み直す。	2 時間	振り返りシートによりまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験(50%)、レポート(30%)、授業への取組・グループワーク (20%)
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法	振り返りシートやレポートはコメントをつけて返却します。ルーブリックによる成績評価を配布します。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト ： 『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『保育所保育指針』(平成 29 年 3 月告示　厚生労働省)、 『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月　文部科学省）フレーベル館 参考文献 ：『無藤隆　監修　福元真由美　編集代表　事例で学ぶ保育内容　領域「環境」』　萌文書林
メッセージなど	子どもたちは周囲の様々な環境に主体的にかかわる中で、発達に必要な経験をします。周囲の様々な環境とはどのようなものなのでしょうか。環境に関わる幼児の姿や、実際の環境を見たり、触れたり、考えたりすることを通して幼児にとっての環境の重要性について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許：必修科目　　保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	50%
(2)乳幼児の物理的、数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート（思考力・判断力・表現力）	15%
(3)乳幼児の生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組・グループワーク（関心・意欲・態度、思考力・表現力）	10%
(4)乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート（思考力・判断力・表現力）	15%
(5)乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとのかかわり方について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組グループワーク（関心・意欲・態度、思考力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
社会福祉 Social Welfare	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECBE1001	１年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	正長 清志	

ディプロマポリシーとの関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	これまでの社会福祉のパターナリズムに基づくサービスの提供のあり方を検討し、利用者本位のサービスが自己責任と社会連帯による福祉社会の創造と、自助努力において自己責任にともなうリスクへのセーフティネットを、どのように構築していくことができるのか考えていきましょう。現在の社会において多様化している社会福祉ニーズとその課題を学びましょう。	
到達目標	(1) 社会福祉の概念と理念について説明することができる。	
	(2) 社会福祉の歴史的変遷について説明することができる。	
	(3) 社会福祉の法律、制度や機関・施設の役割について、自分の意見を述べることができる。	
	(4) 支援を必要とする対象者に行なうサービスについて理解することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	社会福祉の概念と意義－慈善事業から今日へ受け継がれているものに気づく－	テキスト第１章を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
2	生活基盤と社会福祉－ライフサイクルの変化と多様化－	第１回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
3	日本の社会保障制度－所得保障・医療保障について公的扶助制度を中心に考察する－	第２回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
4	高齢者の医療・保健・福祉を介護保険制度を中心に理解する	第３回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
5	児童福祉と父子・母子及び寡婦福祉の関連について、社会的養護を中心に考察する	第４回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
6	身体障害者福祉と知的障害者福祉－新たな施策の現状について理解する－	第５回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
7	欧米の社会福祉の歴史的展開①イギリス・ドイツ・アメリカ合衆国を中心に	第６回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間

	8	欧米の社会福祉の歴史的展開②スウェーデン・デンマーク・フィンランドを中心に	第７回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	9	日本の社会福祉の歴史的展開①古代から近世まで	第８回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	10	日本の社会福祉の歴史的展開②明治以降から現代まで	第９回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	11	社会福祉施設の運営管理とその組織および自治体との連携に注目する	第 10 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	12	日本の社会福祉の動向①現在の社会保障政策を中心に生活課題を焦点に考察する	第 11 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	13	日本の社会福祉の動向②子ども・子育て支援新制度を中心に幼児教育の無償化を考察する	第 12 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	14	アジア諸国の社会福祉の動向と日本の社会的役割	第 13 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	15	まとめ　課題レポートの作成と、プレゼンテーション実施後各自によるふり返り	第 14 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間

成　績　評　価	定期試験（80%）、課題・レポート（10%）、授業への取り組み（10%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	履修上の注意事項として、テキストを持参し、配付した資料を各自のファイルに整理し課題をふり返り、提出に備えてください。課題についてのフィードバックについては課題レポート提出後に解説を行います。質問は授業内で対応します。
テキストおよび参　考　文　献	【テキスト】 西村　昇・日開野 博・山下 正國編（2022）『七訂版 社会福祉概論－その基礎学習のために－』中央法規出版 2,200 円 その他参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付します。オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。 【持参物】　記録ファイル
メッセージなど	私たちの生活が豊かで幸せであるために，どんな社会であることが望ましいのでしょうか。積極的に授業に参加し，積極的に自分の意見を発表しましょう。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 社会福祉の概念と理念について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	10%
(2) 社会福祉の歴史的変遷について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(3) 社会福祉の法律、制度や機関・施設の役割について、自分の意見を述べることができる。	正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	大きな誤りがなく、自分の考えを述べている。	間違いはいくつかあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	定期試験（知識・理解）	40%
(4) 支援を必要とする対象者に行なうサービスについて理解できる。	ほぼ完璧に理解できている。	大きな間違いがなく、理解できている。	間違いはいくつかあるが、理解しようとしている。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
子ども家庭福祉 Child and Family Welfare	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECBE1002	1 年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	正長 清志	

実務家教員の詳細		
ディプロマポリシーとの関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	児童福祉に関係する、法令および、機関・施設などについて学習し、保護者を含めた社会の責任として実践される子どもの well-being に着目します。また、子どもの人権の尊重とともに自己実現への支援、専門職員として、子どもが生き生きと生活している状況を継続していくためには、支援者の継続した努力が必要であることを、家庭生活の変動から考察しましょう。	
到達目標	(1) 子ども家庭福祉の歴史、意義、理念について説明することができる。	
	(2) 子ども家庭福祉の法制度、行政組織、児童福祉施設とその従事者の役割について説明できる。	
	(3) 子ども家庭福祉の今日的課題に対して、自分の考えや意見を述べることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	子ども家庭福祉の理念と概念を俯瞰する	テキスト第 1 章を読んでおく	2 時間	配付プリント	2 時間
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向	1 回配付プリント	2 時間	配付プリント	2 時間
3	子どもの人権擁護の歴史と現代社会における課題	2 回配付プリント	2 時間	配付プリント	2 時間
4	児童福祉に関する法制度－行財政と実施機関の取り組み－	3 回配付プリント	2 時間	配付プリント	2 時間
5	児童福祉施設と専門職－保育士の役割を把握する－	4 回配付プリント	2 時間	配付プリント	2 時間
6	少子化対策の動向と子ども・子育て支援制度の概要	5 回配付プリント	2 時間	配付プリント	2 時間
7	母子保健サービスの動向と児童健全育成の課題	6 回配付プリント	2 時間	配付プリント	2 時間
8	多様な保育ニーズに対応するためのしくみ－障害児支援の現状と展望を試みる－	7 回配付プリント	2 時間	配付プリント	2 時間
9	障害のある子どもへの対応－障害児支援のチームアプローチを考察する－	8 回配付プリント	2 時間	配付プリント	2 時間

	10	DV が子どもに与える影響を考察する	9 回配付プリント	2 時間	配付プリント	2 時間
	11	貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対応	10 回配付プリント	2 時間	配付プリント	2 時間
	12	社会的養護を必要とする子どもへの施策	11 回配付プリント	2 時間	配付プリント	2 時間
	13	地域における連携・協働とネットワークを構築するために	12 回配付プリント	2 時間	配付プリント	2 時間
	14	仕事と子育ての両立支援－グループディスカッション	13 回配付プリント	2 時間	配付プリント	2 時間
	15	プレゼンテーション実施後、ふり返りを中心にした課題レポートの作成	14 回配付プリント	2 時間	配付プリント	2 時間

成　績　評　価	定期試験（80%）、課題・レポート（20%）
課題（試験･レポート等）に対するフィードバックの方法	定期試験の内容に関して、講義の内容に沿い、理解を深め、講義の内容を再確認できるものとなっています。履修上の注意事項として、テキストを持参し、配付した資料を各自のファイルに整理し課題をふり返り、提出に備えてください。課題についてのフィードバックについては、課題レポート提出後に解説を行います。
テキストおよび参　考　文　献	【テキスト】直島正樹・河野清志編著(2019)『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』萌文書林 2,310 円　その他参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付します。また、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。 【持参物】記録用ファイル
メッセージなど	基本的には講義形式で行いますが、視聴覚機材を活用します。ディスカッションの場を随時設けますので、積極的に自分の意見を発表しお互いの学びを深めていきましょう。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子ども家庭福祉の歴史、意義、理念について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	40%
(2) 子ども家庭福祉の法制度、行政組織、児童福祉施設とその従事者の役割について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	40%
(3) 子ども家庭福祉の今日的課題に対して、自分の考えや意見を述べることができる。	子ども家庭福祉の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	子ども家庭福祉の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	子ども家庭福祉の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字･脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
児童福祉法と子どもの権利 Child Welfare Act and Children's Right	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECBE2003	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	正長 清志	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	児童福祉法の法律と児童の権利に関する条約の内容を理解し、知識を深める。	
到達目標	(1) 児童福祉法の基本を具体的に説明できる。	
	(2) 児童の権利に関する条約の歴史的背景と内容を説明できる。	
	(3) 条文を解釈し、自分の言葉で説明できる。	
	(4) 法律を理解したうえで、子どもを取り巻く現状と課題について自分の意見を述べることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	児童福祉法と子どもの権利で学ぶこと			配付資料を読む	2 時間
2	児童福祉法の概要	配付資料を読む	2 時間	内容をまとめる	2 時間
3	児童福祉法制定の経緯	配付資料を読む	2 時間	内容をまとめる	2 時間
4	子どもを取り巻く社会の現状	配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
5	児童の権利に関する条約ができるまで	配付資料を読む	2 時間	内容をまとめる	2 時間
6	４つの権利　①生きる権利	配付資料を読む	2 時間	内容をまとめる	2 時間
7	４つの権利　②育つ権利	配付資料を読む	2 時間	内容をまとめる	2 時間
8	４つの権利　③守られる権利	配付資料を読む	2 時間	内容をまとめる	2 時間
9	４つの権利　④参加する権利	配付資料を読む	2 時間	内容をまとめる	2 時間
10	児童の権利に関する条約を表現する（分担）	条例を自分の言葉で表現する	2 時間	条例を自分の言葉で表現する	2 時間
11	児童の権利に関する条約を表現する（解釈）	条例を自分の言葉で表現する	2 時間	条例を自分の言葉で表現する	2 時間
12	児童の権利に関する条約を表現する（解釈）	条例を自分の言葉で表現する	2 時間	条例を自分の言葉で表現する	2 時間
13	児童の権利に関する条約を表現する（発表）	条例を自分の言葉で表現する	2 時間	条例を自分の言葉で表現する	2 時間

	14	子どもの最善の権利	配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	15	子どもの未来を守る社会	課題レポート	2 時間	課題レポート	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（40%）、授業への取り組み（20%）、発表・プレゼンテーション（10%）、グループワーク・グループ討議（30%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	レポート課題は、授業内で返却します。質問は授業内で対応します。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト 木附千晶・福田雅章(2016)『子どもの力を伸ばす 子ども権利条約ハンドブック』自由国民社 山崎総一郎(2019)『こども六法』弘文堂 参考文献　児童福祉六法 資料プリントはその都度配付します。
メッセージなど	子どもに関連する法律や制度についての知識を深めることで、本来子どもが持っている力や、権利について一緒に学びましょう。　保育士証：選択科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 児童福祉法の基本を具体的に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度）	10%
(2)児童の権利に関する条約の歴史的背景と内容を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度）	10%
(3)条文を解釈し、自分の言葉で説明できる。	ほぼ完璧に解釈し、自分の言葉で説明している。	大きな間違いがなく、自分の言葉で説明している。	間違いはいくつかあるが、自分の言葉で説明している。	説明できない。	グループワーク・グループ討議（意欲・態度・思考力・表現力）	10%
	ほぼ完璧に解釈し、自分の言葉で説明している。	大きな間違いがなく、自分の言葉で説明している。	間違いはいくつかあるが、自分の言葉で説明している。	説明できない。	発表・プレゼンテーション（意欲・態度・思考力・表現力）	10%
(4)法律を理解したうえで、子どもを取り巻く現状と課題について自分の意見を述べることができる。	正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	大きな誤りがなく、自分の考えを述べている。	間違いはいくつかあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート（知識・思考力・表現力）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育原理 Principle of Childcare and Education	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECBE1004	１年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	中津 愛子	

ディプロマポリシーとの関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	保育の意義と目的、保育所保育指針の基本、保育の歴史を学び、現代社会における保育の現状と課題について認識を深める。
到達目標	(1) 保育の意義と目的、保育所保育指針における保育の基本を説明できる。
	(2) 保育に関する法令と制度の基本を説明できる。
	(3) 保育の思想と歴史的変遷を説明できる。
	(4) 保育の現状と課題を認識したうえで、課題を解決に向けた自分の意見を述べることができる。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保育の理念と概念	テキスト第 1 講を読んでおく	2 時間	就学前の保育教育の概念と役割をまとめる	2 時間
2	子どもの最善の利益と保育、保育所の社会的責任	テキスト第２講を読んでおく	2 時間	保育所の役割と社会的責任をまとめる	2 時間
3	子ども家庭福祉と保育、保育に関する法令	テキスト第３講を読んでおく	2 時間	保育に関する法令の復習プリント	2 時間
4	保育の制度的位置づけ	テキスト第 3 講を読んでおく	2 時間	子ども子育て支援新制度をまとめる	2 時間
5	保育所保育指針における保育所保育の基本原則	テキスト第 4 講を読んでおく	2 時間	保育所保育指針第 1 章総則をまとめる	2 時間
6	0 歳児の保育、1 歳以上 3 歳未満児の保育	テキスト第５講を読んでおく	2 時間	0 歳児、1 歳以上 3 歳未満児の復習プリント	2 時間

	7	3 歳以上児の保育	テキスト第 6 講を読んでおく	2 時間	3 歳以上児の復習プリント	2 時間
	8	保育所保育の目標と方法	テキスト第 8 講を読んでおく	2 時間	保育の目標と方法復習プリント	2 時間
	9	保育の計画と実践	テキスト第 9 講を読んでおく	2 時間	お正月の遊びを練習してくる	2 時間
	10	保育の過程（計画・実践・記録・評価・改善）とその循環	テキスト第 9 講を読んでおく	2 時間	お正月の遊びの教材作成	2 時間
	11	諸外国の保育の思想と歴史 1 回目	テキスト第 10 講を読んでおく	2 時間	諸外国の保育の歴史復習プリント１	2 時間
	12	諸外国の保育の思想と歴史 2 回目	テキスト第 11 講を読んでおく	2 時間	諸外国の保育の歴史復習プリント２	2 時間
	13	日本の保育の思想と歴史 1 回目	テキスト第 12 講を読んでおく	2 時間	日本の保育の歴史復習プリント１	2 時間
	14	日本の保育の思想と歴史 2 回目	テキスト第 13 講を読んでおく	2 時間	日本の保育の歴史復習プリント２	2 時間
	15	保育の現状と課題	テキスト第 14・15 講を読んでお	2 時間	保育の現状と課題 レポート	2 時間

成績評価	定期試験（60%）、課題・レポート（40%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業の復習プリントはコメントを書いて返却する。ルーブリックによる成績評価を配布する。
テキストおよび参考文献	テキスト：天野珠路・北野幸子編「保育原理」新基本保育シリーズ⑩　中央法規 参考文献：大沼良子・榎沢良彦編「三訂　保育原理」建帛社、 ミネルヴァ書房編集部　監修「保育小六法」ミネルヴァ書房
メッセージなど	保育現場の観察、行事への参加など、子どもと直接関わる機会を得る努力をして保育所の役割と現状について理解を深めるようにしてください。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 保育の意義と目的、保育所保育指針における保育の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	30%
(2) 保育に関する法令と制度の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本的事項を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	15%
(3) 保育の思想と歴史的変遷を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	15%
(4) 保育の現状と課題を認識したうえで、課題を解決に向けた自分の意見を述べることができる。	保育の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	保育の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
現代社会と保育行政 Childcare　Administration in Modern Society	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECBE2005	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	平田 睦美	○

実務家教員の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマポリシーとの関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	子ども・子育て支援新制度を中心とした現代社会の保育制度について詳しく学ぶとともに、現代社会における子ども、子育て、保育の課題を認識し、その解決策について考えを深める。	
到達目標	(1) 子ども・子育て支援新制度の基本を説明できる。	
	(2) 現代社会における子ども、子育て、保育に関する様々な課題を見出し、説明できる。	
	(3) 保育の現状と課題を認識したうえで、課題解決に向けた自分の意見を述べることができる。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行う。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保育制度の現状			復習プリント	2 時間
2	少子化対策の変遷	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
3	子育て支援施策の変遷	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
4	子ども・子育て支援新制度とその課題	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
5	子育て支援における世界の取り組みの現状	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
6	世界の保育・幼児教育の現状	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
7	現代社会がもたらす子どもへの影響	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
8	子どもの育ちと生活・遊びの変化	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
9	子育て中の人が抱えている問題とは	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
10	保育現場の抱える問題 施設型保育	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間

	11	保育現場の抱える問題 地域型保育	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	12	保育者を支える体制の問題点	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	13	課題報告会① 現代の子どもの問題	課題レポート	2 時間	報告会で学んだことレポート	2 時間
	14	課題報告会② 現代の保育・子育ての問題	課題レポート	2 時間	報告会で学んだことレポート	2 時間
	15	まとめ	報告会の振り返りレポート	2 時間	報告会の振り返りレポート	2 時間
成績評価	課題・レポート（40%）、発表・プレゼンテーション（15%）、グループワーク・グループ討議（15%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（30%）					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の復習プリントはコメントを書いて返却する。ルーブリックによる成績評価を配布する。					
テキストおよび参考文献	テキスト：事前資料配布 参考文献：日本保育学会編著「保育学講座②保育を支えるしくみ　制度と行政」東京大学出版会、 天野珠路・北野幸子編「保育原理」第 2 版　中央法規					
メッセージなど	現在の保育事情を理解し、保育現場で働くことを考えている人の受講をお勧めする。 保育士証：選択科目					

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子ども・子育て支援新制度の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（知識・理解）	30%
(2) 現代社会における子ども、子育て、保育に関する様々な課題を見出し、説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本的事項を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる	説明できていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	40%
(3) 保育の現状と課題を認識したうえで、課題解決に向けた自分の意見を述べることができる。	保育の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	保育の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	発表・プレゼンテーション（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(3) 保育の現状と課題を認識したうえで、課題解決に向けた自分の意見を述べることができる。	保育の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	保育の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
社会的養護Ⅰ Social Care　Ⅰ	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECBE1006	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	岩城 淳	○

実務家教員の詳細	児童養護施設の施設長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	養護問題の史的展開や今日的特徴を踏まえ、社会的養護の基本原理や原則についての理解を深め、保育士として求められる資質や専門性について考察を深めることをねらいとして解説する。また、実習に向けた事前学習として「ペアレントトレーニング」「子どもの権利」「日本型社会的養育」を中心に構成していきたい。	
到達目標	(1) 社会的養護の歴史、枠組み、法体系について説明することができる。	
	(2) 社会的養護の基本原理や原則について説明することができる。	
	(3) 社会的養護の今日的課題について、自分の考えや意見を述べることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション：この講義の進め方				
2	ペアとれ：①わかりやすく伝えよう	1 回概要プリント	0.5 時間	配布プリント	0.5 時間
3	ペアとれ：②ABC 行動分析から見える行動の結果	2 回配布プリント	0.5 時間	配布プリント	0.5 時間
4	ペアとれ：③誉め方のコツ～グッドサイクル～	3 回配布プリント	0.5 時間	配布プリント	0.5 時間
5	ペアとれ：④望ましい行動の習慣づけ	4 回配布プリント	0.5 時間	配布プリント	0.5 時間
6	ペアとれ：⑤代替行動の強化	5 回配布プリント	0.5 時間	配布プリント	0.5 時間
7	ペアとれ：⑥場面切り替えとふり返り	6 回配布プリント	0.5 時間	配布プリント	0.5 時間
8	児童養護施設を知ろう「ETV 特集：つかさ 18 歳、人生を取り戻したい」	7 回配布プリント	0.5 時間	配布プリント	0.5 時間
9	保育士の専門性とは	8 回配布プリント	0.5 時間	配布プリント	0.5 時間
10	児童福祉施設とは	9 回配布プリント	0.5 時間	配布プリント	0.5 時間

	11	児童福祉法と児童の権利	10 回配布プリント	0.5 時間	配布プリント	0.5 時間
	12	虐待の理解	11 回配布プリント	0.5 時間	配布プリント	0.5 時間
	13	障がいの理解	12 回配布プリント	0.5 時間	配布プリント	0.5 時間
	14	社会的養護の歴史	13 回配布プリント	0.5 時間	配布プリント	0.5 時間
	15	まとめと視聴覚資料	14 回配布プリント	0.5 時間	配布プリント	0.5 時間

成　績　評　価	定期試験（80%）、課題・レポート（20%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	定期試験の内容に関して、講義の内容に沿い、理解を深め、講義の内容を再確認できるものとなっています。
テキストおよび参　考　文　献	配布資料
メッセージなど	毎回、A4 サイズの資料を配布予定であるので、資料を保管するためのクリアファイル等を用意することが望ましいです。基本的には講義形式で行いますが、施設見学、視聴覚資料の活用、ディスカッションの場を随時設け、学びを深めていきたいと思います。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 社会的養護の歴史、枠組み、法体系について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	30%
(2) 社会的養護の基本原理や原則について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	30%
(3) 社会的養護の今日的課題について、自分の考えや意見を述べることができる。	社会的養護の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	社会的養護の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	社会的養護の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字･脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	定期試験（知識・理解）	20%
	社会的養護の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	社会的養護の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	社会的養護の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字･脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート（関心・意欲・態度）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
社会的養護Ⅱ Social Care Ⅱ	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCM1001	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1	選択	正長 清志	

実務家教員の詳細		
ディプロマポリシーとの関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	社会的養護の実施体系の一つである施設養護の児童養護施設のしくみそして家庭養護について具体的に学ぶ。また、事例を紹介することで具体的な支援について学び、子どもの理解をする。専門職としての倫理、知識、技術について学ぶ。また、これからの社会的養護について考察する。	
到達目標	(1) 社会的養護とは何か。特に児童養護施設のしくみや家庭養護について説明することができる。	
	(2) 子どもたちの支援について保育士の専門性を踏まえた説明を具体的にすることができる。	
	(3) 子どもの最善の利益を考えたうえで、実際に計画を作成し期限内に提出する。	
	(4) 各回の講義や演習に関心をもって参加する。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	社会的養護における子どもの理解 －子どもの家庭環境の背景と、実態の把握－	テキスト第１章を読んでおく	1時間	課題レポート	1時間
2	社会的養護の内容①日常生活支援 －子どもの課題をアセスメントして、支援方法を検討していく－	第１回の配付資料を読む	1時間	課題レポート	1時間
3	社会的養護の内容②心理的支援 －多面的な情報収集によるケース理解の大切さ－	第２回の配付資料を読む	1時間	課題レポート	1時間
4	社会的養護の内容③自立支援 －さまざまな「居場所」と切れ目のない支援－	第３回の配付資料を読む	1時間	課題レポート	1時間
5	家庭養護の生活特性および実際 －養育里親家庭などで育つ子どもとかかわる保育者－	第４回の配付資料を読む	1時間	課題レポート	1時間
6	社会的養護における保育の専門性 －虐待を受けた子どもに対しての保育士の理解と行動について－	第５回の配付資料を読む	1時間	課題レポート	1時間

	7	施設養護の生活特性および実際 ①乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設について	第６回の配付資料を読む	1 時間	課題レポート	1 時間
	8	施設養護の生活特性および実際 ②児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児施設について	第７回の配付資料を読む	1 時間	課題レポート	1 時間
	9	家庭養護の生活特性および実際 ③養育里親家庭などで育つ子どもとかかわる保育者	第８回の配付資料を読む	1 時間	課題レポート	1 時間
	10	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践 －ソーシャルワークの視点を学ぶ－	第 9 回の配付資料を読む	1 時間	課題レポート	1 時間
	11	社会的養護におけるソーシャルワーク －ジュノグラムの描き方、読み方・エコマップの作成方法－	第 10 回の配付資料を読む	1 時間	課題レポート	1 時間
	12	アセスメントと個別支援計画の作成 －自立支援計画の策定から自立について理解を深める－	第 11 回の配付資料を読む	1 時間	課題レポート	1 時間
	13	社会的養護における家庭支援 －多機関協働で子どもと家庭の幸せの支援を担うチームをつくる－	第 12 回の配付資料を読む	1 時間	課題レポート	1 時間
	14	今後の社会的養護の課題と展望 －「社会的養護の課題と将来像」のプレゼンテーション準備－	第 13 回の配付資料を読む	1 時間	課題レポート	1 時間
	15	プレゼンテーション実施後、ふり返りを中心にした課題レポートの作成	第 14 回の配付資料を読む	1 時間	課題レポート	1 時間

成　績　評　価	課題・レポート（80%）、毎回の授業の感想・振り返り（20%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	履修上の注意事項として、テキストを持参し、配付した資料を各自のファイルに整理し課題をふり返り、提出に備えてください。課題についてのフィードバックについては課題レポート提出後に解説を行います。質問は授業内で対応します。
テキストおよび参　考　文　献	【テキスト】杉山宗尚・原田旬哉編著(2021)『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ』萌文書林 2,200 円その他参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付します。また、オープン教材等を活用し、授業、振り返り、予習・復習に役立てることがあります。 【持参物】　記録ファイル
メッセージなど	児童養護施設などで暮らす子どもやその子ども達を支える保育士の職務内容に関心を寄せることを期待します。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 社会的養護とは何か。特に児童養護施設のしくみや家庭養護について説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな間違いのない説明ができる。	最低限の説明ができる。	説明できない。	課題・レポート（知識・理解）	25%
(2) 子どもたちの支援について保育士の専門性を踏まえた説明を具体的にすることができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな間違いのない説明ができる。	最低限の説明ができる。	説明できない。	課題・レポート（知識・理解）	25%
(3) 子どもの最善の利益を考えたうえで、実際に計画を作成し期限内に提出する。	子どもの最善の利益をよく考えて作成している。	子どもの利益を考えて作成している。	最低限の内容が記入でき期限内に提出する。	提出していない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	30%
(4) 各回の講義や演習に関心をもって参加する。	とても関心をもって参加している。	関心をもって参加している。	参加している。	参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・態度）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
社会的養護演習 Practice of Social Care	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCM2002	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	井原 貴美	○

実務家教員の詳細	児童養護施設の施設職員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	前半は、児童福祉、児童福祉施設の歴史と現状を知り、児童福祉施設等の諸問題と役割について考える。後半は、自分で施設をつくってみることで、児童福祉法について理解し、子どもの生活に視点をおいた、支援を考えていく。	
到達目標	(1) 児童福祉、児童福祉施設の歴史と現状を知り、児童福祉施設等の諸問題と社会的役割について説明することができる。	
	(2) 子どもの生活に視点をおいた支援を考えるために、施設づくりに取り組み、それを説明することができる。	
	(3) 施設づくりは、疑問点を積極的に尋ね、調べる。課題作成は意欲を持ち、丁寧に工夫してつくる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・社会的養護の概要	—		内容をまとめる	1 時間
2	児童福祉の歴史・児童養護の歴史	—		内容をまとめる	1 時間
3	児童福祉法・子どもの権利条約・児童憲章	—		内容をまとめる	1 時間
4	施設養護と家庭養護	—		内容をまとめる	1 時間
5	児童福祉施設の諸問題と社会的役割	—		内容をまとめる	1 時間
6	DVD 視聴	—		レポート作成	1.5 時間
7	施設づくり①　施設の種別、名称、所在地、定員	資料収集	1 時間	—	
8	施設づくり②　児童福祉法、設備及び運営に関する基準	資料収集	1 時間	—	
9	施設づくり③　児童福祉法、設備及び運営に関する基準	資料収集	1 時間	—	

	10	施設づくり④　基本理念、方針	資料収集	1 時間	—	
	11	施設づくり⑤　職員数、勤務表づくり	資料収集	1 時間	—	
	12	施設づくり⑥　一日の生活の流れ、年間スケジュール	資料収集	1 時間	—	
	13	施設づくり⑦　設備	資料収集	1 時間	—	
	14	施設づくり⑧　間取り	資料収集	1 時間	—	
	15	施設づくり⑨　発表	発表準備	1 時間	—	

成　績　評　価	課題・レポート（70%）、発表・プレゼンテーション（30%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	レポート課題や授業の感想は、授業内に返却します。質問は授業内で対応します。
テキストおよび参　考　文　献	講義中に適宜指示 参考文献：児童福祉六法
メッセージなど	社会的養護に興味関心がある学生はぜひ受講してください。一緒に子どもの支援について考えていきましょう。 保育士証：選択科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 児童福祉、児童福祉施設の歴史と現状を知り、児童福祉施設等の諸問題と社会的役割について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・表現力）	30%
(2) 子どもの生活に視点をおいた支援を考えるために、施設づくりに取り組み、それを説明することができる。	意欲をもちほぼ完璧に資料の説明することができる。	意欲をもち資料の説明ができる。	説明することができる。	説明できない。	発表・プレゼンテーション（態度・理解・意欲・思考力・表現力）	30%
(3) 施設づくりは、疑問点を積極的に尋ね、調べる。課題作成は意欲を持ち、丁寧に工夫してつくる。	意欲もちほぼ完璧に丁寧に工夫してつくることができる。	意欲をもち丁寧に工夫してつくることができる。	丁寧に工夫してつくることができる。	説明できない。	課題・レポート（知識・理解・意欲・思考力・表現力）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
子ども家庭支援論 Study on Family Support	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECBE1007	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	今川 晋平	

ディプロマポリシーとの関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	本講義では、子どもが育つ環境としての家族が果たす役割や機能について基礎的な理解を深め、家庭の支援における子ども達の発達段階を理解し、少子高齢化や核家族化などの家庭を取り巻く社会状況と子育てのための支援体制の現状や問題点等、保育に携わる者に求められる基本的知識を学ぶ。
到達目標	(1)-1) 家庭や育児についての支援の必要性について説明できる。
	(1)-2) 家庭支援における様々な諸問題についての現状を説明することができる。
	(1)-3) 支援体制等の現状や問題に対して、自分の考えや意見を述べることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション			授業の振り返りプリント等をまとめる。	2時間
2	家庭の意義と機能：家族とは？家庭とは？世帯とは？	家族とは何か、調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2時間
3	家庭支援の意義と役割ー少子化の意味するものー	少子化の課題は何か調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2時間
4	現代家庭の人間関係　ーいまどきの子どもたちー	子どもの在り方とはどんなものか調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2時間
5	家庭を取り巻く社会的状況	家庭を取り巻く社会的状況は、どうなっているか調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2時間
6	家庭支援の政策と制度と現状	家庭支援の制度はどんなものがあるか調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2時間
7	特別なニーズを持つ家族と援助①育てにくさや障害のある子ども	障害のある子どもの家庭支援は何が必要か調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2時間

	8	特別なニーズを持つ家族と援助②児童虐待	児童虐待に対して調べておく	2 時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2 時間
	9	特別なニーズを持つ家族と援助③	特別なニーズを持つ家族に必要な支援は何か調べておく	2 時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2 時間
	10	保育現場でのソーシャルワーク	ソーシャルワークとは何か調べておく	2 時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2 時間
	11	子どもの食育 －キレル子どもの食生活－	子どもの食育について何が必要か調べておく	2 時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2 時間
	12	子どもの発達段階としつけ －体力･知力は遊びから－	子どもの遊びについて何が必要か調べておく	2 時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2 時間
	13	保育者担う社会福祉援助技術のあり方	保育者の必要な援助の在り方について調べておく	2 時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2 時間
	14	演習ワークショップ①－課題解決のための方策討議－	問題解決の仕方の必要なとらえ方を調べておく	2 時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2 時間
	15	演習ワークショップ②－課題のグループ討議とまとめ－	支援に必要な課題等の問題を調べておく	2 時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（70%）、課題・レポート（30%）
課題（試験･レポート等）に対するフィードバックの方法	試験やレポートは、ルーブリック評価での結果を渡す
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：『コンパクト版保育者養成シリーズ　新版 家庭支援論 』　谷田貝公昭・石橋哲成【監修】中野由美子・佐藤純子【編著】、講義時に資料を配布、参考文献はその都度紹介
メッセージなど	資料を配布予定なので、資料を保管するためのファイル等を用意することが望ましい。講義中の私語､携帯は慎む。保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 家庭や育児についての支援の必要性について説明できる。	問題なくほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いはないが基本的な説明をすることが可能である。	最低限度の説明はできる	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	40%
(1)-2) 家庭支援における様々な諸問題についての現状を説明することができる	問題なくほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いはないが基本的な説明をすることが可能である。	最低限度の説明はできる	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	30%
(1)-3) 支援体制等の現状や問題に対して、自分の考えや意見を述べることができる。	家庭支援を必要とする社会的状況を正しく認識して、ほぼ完璧に自分の考えを述べることができる	家庭支援を必要とする社会的状況を基本的な説明をすることが可能で、自分の考えを述べることができる。	家庭支援を必要とする社会的状況を最低限度の説明はでき、自分の考えを述べることができる。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート（関心・判断力・思考力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
子育て支援 Child Care Support	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCM2003	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	平田 睦美	○

実務家教員の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	子どもの保育に加えて、保護者からの相談を受けて助言することが、保育士の職務に義務付けられました。保育園に通う在園児の保護者だけでなく、地域で子育てする保護者についても同様です。子育てをしている保護者はどのようなことで困っているのか、事例を通して考えていきましょう。	
到達目標	(1) 保育士の行う保育の専門性について説明できる。	
	(2) 保護者に対する相談・助言・行動見本の提示などの展開や具体的方法について説明できる。	
	(3) 様々な場面や対象に即した支援の内容と方法、技術を具体的に理解する。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行う。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	子育て支援とは	「子育て支援と聞いてイメージすること」をまとめる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
2	子育て支援の意義	教科書 Lesson2 を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
3	子育て支援の基本的価値・倫理	教科書 Lesson3 を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
4	子育て支援の基本的姿勢	教科書 Lesson4 を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
5	子育て支援の基本的技術	教科書 Lesson5 を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
6	園内・園外との連携と社会資源	教科書 Lesson6 を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間

	7	支援の実践、記録、評価	教科書 Lesson7 を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	8	日常会話を活用した子育て支援	教科書 Lesson8 を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	9	文書を活用した子育て支援	教科書 Lesson9 を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	10	行事などを利用した子育て支援	教科書 Lesson10 を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	11	環境を活用した子育て支援	教科書 Lesson11 を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	12	地域子育て支援拠点における支援	教科書 Lesson12 を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	13	入所施設における子育て支援	教科書 Lesson13 を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	14	通所施設における子育て支援	教科書 Lesson14 を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	15	まとめと今後の課題	教科書 Lesson15 を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間

成績評価	課題・レポート（70%）、グループワーク・グループ討議（15%）、ロールプレイ（15%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	レポート課題は、次回授業で返却します。質問は授業内で対応します。
テキストおよび参考文献	テキスト：二宮祐子「子育て支援」萌文書林
メッセージなど	子どもの保育に加えて、保護者からの相談を受けて助言することが、保育士の職務に義務付けられました。それは在園児の保護者だけでなく、地域で子育てする保護者についても同様です。子育てをしている保護者はどのようなことで困っているのでしょうか。事例を通して考えていきましょう。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 保育士の行う保育の専門性について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・表現力）	40%
(2) 保護者に対する相談・助言・行動見本の提示などの展開や具体的方法について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・表現力）	30%
(3) 様々な場面や対象に即した支援の内容と方法、技術を具体的に理解する。	自分の考えをしっかりと持ち、積極的に参加している。	考えに大きな間違いがなく、参加している。	考えに間違いがいくつかあるが、参加している。	考えようとせず、参加していない。	グループワーク・グループ討議（思考力・協働性・問題解決力）	15%
(3) 様々な場面や対象に即した支援の内容と方法、技術を具体的に理解する。	自分の考えをしっかりと持ち、積極的に参加している。	考えに大きな間違いがなく、参加している。	考えに間違いがいくつかあるが、参加している。	考えようとせず、参加していない。	ロールプレイ（思考力・判断力・表現力 ）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育実習指導Ⅰ Study of Practical Training of Nursing　Ⅰ	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCP1001	１年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	選択	正長 清志・平田 睦美	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	保育実習生としての基本的態度の形成、実習に必要な事前の準備や学習について、演習形式で行う。
到達目標	(1) 実習生としての基本的態度や心構えを身に付ける。 (2) 保育実習の意義と目的を理解し、実習に必要な準備を行うことができる。 (3) 子どもや利用者の方々の人権とプライバシーの保護及び守秘義務について理解するとともに、保育現場の見学・観察を通して、子どもや利用者の方々への理解を深めることができる。 (4) 保育の計画・実践・観察・記録の方法を理解する。 (5) 実習での学びを通して、今後の課題を明確にすることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保育士の仕事について 正長・平田			保育実習の手引きを読む	2 時間
2	保育実習の意義と目的、実習概要 正長・平田	保育実習の手引きを読んでくる	2 時間	保育実習の手引きを読む	2 時間
3	保育実践の模擬　手遊び・絵本・壁面制作　正長・平田	折り紙の練習をしてくる	2 時間	壁面制作	2 時間
4	保育者に必要な言葉表現 正長・平田	事前資料を読んでくる	2 時間	復習プリント	2 時間
5	保育者としての基本的態度（服装・行動）正長・平田	事前資料を読んでくる	2 時間	復習プリント	2 時間
6	保育者としての基本的態度（子どもへの関わり方）正長・平田	事前資料を読んでくる	2 時間	復習プリント	2 時間
7	プライバシーの保護及び守秘義務　正長・平田	保育実習の手引きを読んでくる	2 時間	復習プリント	2 時間

	8	保育教材の制作①　正長・平田	事前資料を読んでくる	2 時間	保育教材の制作	2 時間
	9	保育教材の制作②　正長・平田	保育教材の制作	2 時間	保育教材の制作	2 時間
	10	制作した保育教材の演じ方 正長・平田	保育教材の制作	2 時間	保育教材の実演の練習	2 時間
	11	制作した保育教材の実演の練習 正長・平田	保育教材の実演の練習	2 時間	保育教材の実演の練習	2 時間
	12	絵本の読み聞かせの仕方 正長・平田	絵本を選んでくる	2 時間	絵本の読み聞かせ練習	2 時間
	13	絵本の読み聞かせ・保育教材の実演の練習　正長・平田	保育教材の実演の練習読み聞かせの練習	2 時間	保育教材の実演の練習読み聞かせの練習	2 時間
	14	絵本の読み聞かせ・保育教材の実演 1 回目　正長・平田	保育教材の実演の練習読み聞かせの練習	2 時間	保育教材の実演の練習読み聞かせの練習	2 時間
	15	絵本の読み聞かせ・保育教材の実演 2 回目　正長・平田	保育教材の実演の練習読み聞かせの練習	2 時間	実演の振り返り	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	実習規定、実習着、実習必要書類の説明　正長・平田	保育実習の手引きを読んでくる	2 時間	保育実習の手引きを読む	2 時間
	17	保育観察①子どもの姿 障害者支援施設の概要と実習生の活動　正長・平田	保育実習の手引きを読んでくる	2 時間	復習プリント	2 時間
	18	保育観察②保育のねらい･保育者の援助 児童養護施設の概要と実習生の活動　正長・平田	保育実習の手引きを読んでくる	2 時間	復習プリント	2 時間
	19	実習日誌配布・実習生プロフィール、証明写真　正長・平田	保育実習の手引きを読んでくる(3 時間)	2 時間	実習日誌の記入	2 時間
	20	保育実習日誌の書き方　①基本的事項 児童発達支援センターの概要と実習生の活動　正長・平田	保育実習の手引きを読んでくる(4 時間)	2 時間	復習プリント	2 時間
	21	実習日誌の書き方　②一日を書くとは 保育所見学観察実習の事前オリエンテーションについて 実習先への電話のかけ方 正長・平田	保育実習の手引きを読んでくる(5 時間)	2 時間	復習プリント	2 時間
	22	部分保育の指導案、保育所実習の先輩の話　正長・平田	保育実習の手引きを読んでくる(6 時間)	2 時間	部分保育の課題レポート	2 時間
	23	実習の心得・見学観察実習の事前指導・守秘義務　正長・平田	事前配布資料を読んでくる(3 時間)	2 時間	復習プリント	2 時間

	24	施設見学観察実習　正長・平田	事前配布資料を読んでくる(4 時間)	2 時間	見学観察レポート	2 時間
	25	保育実習Ⅰ（施設）日誌の記入 実習生調書・誓約書の記入 事前オリエンテーションについて 正長・平田	保育実習の手引きを読んでくる(3 時間)	2 時間	実習生調書･誓約書､実習日誌の記入	2 時間
	26	保育実習日誌の書き方・お礼状の書き方　正長・平田	事前配布資料を読んでくる(3 時間)	2 時間	保育所見学観察実習のお礼状作成	2 時間
	27	保育実習Ⅰ（施設）のねらい 「実習にあたって」の書き方 正長・平田	保育実習の手引きを読んでくる	2 時間	「実習にあたって」下書きの作成	2 時間
	28	保育実習Ⅰ（施設）の心得・日誌指導 「実習にあたって」の記入 正長・平田	保育実習の手引きを読んでくる	2 時間	実習日誌の記入	2 時間
	29	保育実習Ⅰ（施設）の先輩の話 正長・平田	保育実習の手引きを読んでくる	2 時間	先輩の話をきいて考えたことを記述する	2 時間
	30	保育実習Ⅰ（施設）の心得・手続き確認・事前指導 正長・平田	保育実習の手引きを読んでくる	2 時間	レクリエーションの指導案･教材準備	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（25%）、指導案（10%）、授業への取り組み（30%）、その他（35%）
課題（試験･レポート等）に対するフィードバックの方法	レポートはコメントをつけてお返しします。
テキストおよび参　考　文　献	テキストとして配布：「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学
メッセージなど	・保育実習の事前事後指導にあたる科目であり、保育実習を受ける学生は必ず受講しなければならない。12 月中に 2 日間の保育所見学観察実習あり。 ・提出物の期限が守られない場合、実習を受けられなくなるので注意をすること。 ・保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 実習生としての基本的態度や心構えを身に付ける。	実習への意欲があり、あいさつ、礼儀、言葉遣い、服装等が完璧で、他の学生の模範となる。	実習への意欲があり、礼儀、言葉遣い、服装等、実習生に必要な態度を身につけている。	実習への意欲はあり、実習生としての最低限のマナーは身についている。	実習への意欲がなく、実習生にふさわしい言葉遣いや服装、礼儀等が身についていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・知識・理解）	30%
(2) 保育実習の意義と目的を理解し、実習に必要な準備を行うことができる。	保育実習の意義目的を正しく理解し、実習に必要な書類の作成や名札制作を完璧に行う。	保育実習の意義や目的をほぼ理解し、期限内に書類の提出や名札制作ができる。	実習に必要な書類や名札制作はできるが、提出の遅れがみられる。	実習に必要な書類の提出や名札制作ができていない。	その他（理解・技能）	20%
(3) 子どもや利用者の方々の人権とプライバシーの保護及び守秘義務について理解するとともに、保育現場の見学・観察を通して、子どもや利用者の方々への理解を深めることができる。	子どもや利用者に積極的に関わり、子どもや利用者から学び考えを深めたことを記述することができる。	子どもや利用者に関わり、理解したことを書くことができている。	子どもや利用者の姿を日誌に記述しているが、観察のポイントをつかんだ記述にはなっていない。	子どもや利用者をどのように理解したかということが、記述から読み取れない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	15%
	子どもや利用者に積極的に関わり、子どもや利用者から学び考えを深めたことを記述することができる。	子どもや利用者に関わり、理解したことを書くことができている。	子どもや利用者の姿を日誌に記述しているが、観察のポイントをつかんだ記述にはなっていない。	子どもや利用者をどのように理解したかということが、記述から読み取れない。	その他（思考力・判断力・表現力）	15%
(4) 保育の計画・実践・観察・記録の方法を理解する。	部分保育の計画・実践・記録・反省までの過程を詳しく書くことができる。	部分保育の計画・実践・記録・反省までの過程をほぼ抜けなく書くことができる。	部分保育の計画・実践・記録・反省までを書いているが、いくつか抜けた箇所がある。	部分保育の計画・実践・記録・反省までの過程を書いていない。	指導案（思考力・表現力）	10%
(5) 実習での学びを通して、今後の課題を明確にすることができる。	施設実習に関する実習先からの評価や自己評価をもとに、自分で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。	施設実習に関する実習先からの評価や自己評価をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。	今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。	自分の今後の課題が見いだせず、レポートが提出されない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育実習Ⅰ Practical Training in Nursery School　Ⅰ	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCP1002	１年次　・ ２年次	１年次後期集中・ ２年次前期集中

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
実習	4	選択	正長 清志・平田 睦美	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	保育所や社会福祉施設（居住型施設）で実習を行い、子どもや利用者への理解を深めるとともに、施設の役割と機能、保育士の職務内容を理解する。
到達目標	(1) 保育所・施設の役割を理解することができる。
	(2) 観察や関わりを通して子どもや利用者への理解を深めることができる。
	(3) 指導計画・援助計画を理解することができる。
	(4) 子ども・利用者に対する援助・支援について理解することができる。
	(5) 実習日誌の書式に従い、日誌を書くことができる。
	(6) 実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。

	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
授業内容と進め方	○10日間の実習で、次の内容を身につけることができるように実習をすすめていくこと。 ・実習施設について理解する。 ・施設の一日の流れを理解し、援助活動に参加する。 ・観察や関わりを通して子ども・利用者への理解を深める。 ・援助計画を理解する。 ・生活の援助の一部を担当し援助の技術を習得する。	実習が開始するまでに、実習日誌の必要事項（実習生プロフィール、実習園の概要、実習園の環境、実習クラスの概要、デイリープログラム）を書いておく。 施設の役割、どのような方を対象としているのかを調べておく。 保育教材の作成を行い、練習しておく。		毎日、実習日誌を書く。 一日の実習を通して学んだこと、考えたことをまとめる。それをもとに翌日の実習のねらいを考える。 実習日誌は翌朝、必ず施設に提出すること。 レクリエーションや設定保育を実施した後、振り返りを行い、考察を深める。 10 日間が終了した日に「実習を終えて」を	

	・職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 ・記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭、地域社会を理解する。 ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ・保育士の職業倫理を学ぶ。 ・安全対策、健康管理及び疾病予防への配慮を学ぶ。	レクリエーションや設定保育を担当する場合、教材や指導案作成し、実践の練習をしておく。 ※予習時間は 1～2 時間		書く。 ※復習時間は 2～3 時間	
授業内容 と 進め方	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	○10 日間の実習で、次の内容を身につけることができるように実習をすすめていくこと。 ・実習園について理解する。 ・保育の一日の流れを理解し、保育活動に参加する。 ・子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。 ・保育計画、指導計画を理解する。 ・担当クラスで生活や遊びに関する保育活動を実践し、保育技術を習得する。 ・職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 ・記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭、地域社会を理解する。 ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ・保育士の倫理を学ぶ。 ・安全及び疾病予防への配慮について学ぶ。	実習が開始するまでに、実習日誌の必要事項（実習生プロフィール、実習園の概要、実習園の環境、実習クラスの概要、デイリープログラム）を書いておく。 手遊びの練習、ピアノの練習、絵本の読み聞かせの練習をしておく。 パネルシアター等の保育教材の作成を行い、練習しておく。 設定保育及び一日責任実習の指導案を作成し、保育実践の練習をしておく。 ※予習時間は 1～2 時間		毎日、実習日誌を書く。 一日の実習を通して学んだこと、考えたことをまとめる。それをもとに翌日の実習のねらいを考える。 実習日誌は翌朝、必ず園に提出すること。 設定保育や責任実習を実施した後、振り返りを行い、考察を深める。 10 日間が終了した日に「実習を終えて」を書く。 ※復習時間は 2～3 時間	

成　績　評　価	課題・レポート（20%）、その他（80%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	実習先からの評価のフィードバックを行う。実習日誌は返却する。
テキストおよび参　考　文　献	テキストとして配布：「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学
メッセージなど	保育士証：必修科目 ※実習時期　１年次２月・３月:施設　　２年次７月：保育所 ※実習先 施設・保育所、ともに学校が指定する。 ※実習先で事前オリエンテーションを受ける必要がある。 ※検便、インフルエンザ予防接種、麻疹・風疹抗体証明書等が必要である。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 保育所・施設の役割を理解することができる。	たいへんよく理解している。	よく理解している。	最低限の理解はしている。	理解していない。	その他（関心・意欲・知識・理解・思考力）	10%
(2) 観察や関わりを通して子どもや利用者への理解を深めることができる。	たいへんよく理解を深めている。	よく理解を深めている。	理解はしているが、深まってはいない。	理解していない。	その他（関心・意欲・知識・理解・思考力）	10%
(3) 指導計画・援助計画を理解することができる。	たいへんよく理解している。	よく理解している。	最低限の理解はしている。	理解していない。	その他（関心・意欲・知識・理解・思考力）	10%
(4) 子ども・利用者に対する援助・支援について理解することができる。	たいへんよく理解している。	よく理解している。	最低限の理解はしている。	理解していない。	その他（関心・意欲・知識・理解・思考力）	10%
(5) 実習日誌の書式に従い、日誌を書くことができる。	用語の使用や表現の誤りがなく、詳しく丁寧に書いており、他の学生の模範となる。	用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がほぼなく、丁寧に書いている。	用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がいくつかみられるが、必要な箇所の記述はある。	用語の使用や不適切な表現があり、内容が読み取れない。	その他（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	40%
(6) 実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。	事後指導をもとに、自分で新たな課題を見出し、レポートにまとめることができる。	事後指導をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。	今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。	自分の今後の課題が見いだせず、レポートが提出されない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育実習指導Ⅱ Study of Practical Training of Nursing Ⅱ	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCP2003	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	平田 睦美	○

実務家教員の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	保育実習Ⅰでの学びを深め、保育士としての実践力を養うために、子ども理解、指導計画の立案、保育実践について演習形式で授業を行う。	
到達目標	(1)子どもの発達に応じた保育内容を考え、指導計画を作成することができる。	
	(2) 保育の知識、技術をいかした保育実践ができる。	
	(3) 保育観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。	
	(4) 保育士の専門性と職業倫理について説明できる。	
	(5) 事後指導を通して、保育に関する新たな課題を見出すことができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	実習の意義と目的、実習概要の説明、保育所実習の手続き	保育実習の手引きを読んでくる	2 時間	保育実習□の振り返り	2 時間
2	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	保育実習の手引きを読んでくる	2 時間	復習プリント	2 時間
3	子どもの保育と保護者支援、実習日誌の書き方、実習生調書・実習誓約書の記入	保育実習の手引きを読んでくる	2 時間	実習生調書、実習誓約書の記入	2 時間
4	子どもの状態に応じた適切な関わり	保育実習の手引きを読んでくる	2 時間	実習生プロフィールの記入	2 時間
5	保育の知識・技術を活かした保育実践	保育実習の手引きを読んでくる	2 時間	指導案作成	2 時間
6	保育の全体計画に基づく具体的なねらいと内容の設定・指導計画の立案	指導案作成	2 時間	指導案作成	2 時間

	7	環境構成、保育教材の作成	教材作成	2 時間	教材作成	2 時間
	8	模擬保育の実践 －集団と個に応じた保育者の援助の検討－	模擬保育の練習	2 時間	模擬保育の練習	2 時間
	9	模擬保育の実践 －導入、展開、まとめの工夫－	模擬保育の練習	2 時間	模擬保育の実践後レポート	2 時間
	10	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善、実習に関する連絡・手続き	保育実践自己評価	2 時間	指導案の修正	2 時間
	11	実習先に提出する書類の確認・日誌の確認	実習日誌の記入	2 時間	実習日誌の記入	2 時間
	12	実習にあたって（各自のねらいの明確化）、実習に関する諸連絡	実習課題を考えてくる	2 時間	実習にあたっての記入	2 時間
	13	実習事前調査、実習の手続き確認	実習日誌の記入	2 時間	実習事前準備	2 時間
	14	保育士の専門性と職業倫理	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	15	保育実習Ⅱを終えて（実習の総括・自己評価・新たな課題の明確化）	実習の振り返り	2 時間	実習事後レポート	2 時間
成績評価		課題・レポート（40%）、指導案（30%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		模擬保育の指導案と実践後のレポートは、コメントを記入して返却する。				
テキストおよび参考文献		テキストとして配布：「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学				
メッセージなど		・保育実習の事前事後指導にあたる科目であり、2022 年 8 月に保育実習Ⅱを受ける学生は必ず受講しなければならない。 ・提出物の期限が守られない場合、実習を受けられなくなるので注意をすること ・保育士証：選択必修科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)子どもの発達に応じた保育内容を考え、指導計画を作成することができる。	子どもの発達に応じた保育内容を自分で考え、指導案を作成することができる。	ほぼ子どもの発達に沿った保育内容を考え、指導案を作成することができる。	指導案の作成方法は理解できているが、作成した指導案は、子どもの発達に即していない。	子どもの発達に応じた保育内容を自分で考えることができず、指導案が作成できない。	指導案（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	30%
(2) 保育の知識、技術をいかした保育実践ができる。	保育の知識・技術を活かした模擬保育が実践できる。	保育の知識、技術の基本をほぼ踏まえた模擬保育が実践できる。	保育の知識、技術には不足しているところがあるが、模擬保育は実践した。	模擬保育を実践していない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（判断力・表現力・創造性・協働性・問題解決力）	30%
(3) 保育観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。	保育観察、記録、自己評価をもとに保育の改善点を見出し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育観察、記録、自己評価を総合し、改善点を見出そうと努力したことを述べることができる。	保育観察、記録、自己評価をもとに、部分的には改善点を見出すことができ、それを述べることができる。	保育観察、記録、自己評価をもとに改善点を見出すことができず、レポートが提出されない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(4) 保育士の専門性と職業倫理について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(5) 事後指導を通して、保育に関する新たな課題を見出すことができる。	事後指導をもとに、自分で新たな課題を見出し、レポートにまとめることができる。	事後指導をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。	今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。	自分の今後の課題が見いだせず、レポートが提出されない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育実習Ⅱ Practical Training in Nursery School Ⅱ	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCP2004	２年次	前期 集中

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
実習	2	選択	平田 睦美	○

実務家教員の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	保育実習Ⅰでの学びをさらに深め、保育士としての実践力を高めるため保育所で10日間の実習を行う。指導計画の作成と保育実践、記録と省察、自己評価及び計画の改善までの過程を実践的に学ぶ。	
到達目標	(1) 保育所の役割を理解することができる。	
	(2) 子どもへの理解を深めることができる。	
	(3) 指導計画を作成することができる。	
	(4) 子どもに対する指導・援助の技術を身に付けている。	
	(5) 実習日誌の書式に従い、日誌を書くことができる。	
	(6) 実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。	
授業内容と進め方	授業内容	
	○10日間の実習で、次の内容を身につけることができるように実習をすすめていくこと。 ・保育全般に参加し、保育技術を習得する。 ・子どもの個人差について理解し、対応方法を理解する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 ・指導計画を立案し、実際に保育活動を行い、子どもへのかかわりや保育技術を高める。 ・子どもと家族とのコミュニケーションの方法を具体的に修得する。 ・地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。 ・子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。 ・保育士としての職業倫理を理解する。 ・保育所の保育士に求められる資質、能力、技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。	

成　績　評　価	課題・レポート（20%）、その他（80%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	実習先からの評価のフィードバックを行う。実習日誌は返却する。

テキストおよび参考文献	テキストとして配布：「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学
メッセージなど	・保育実習Ⅱの前に、保育実習Ⅰ（施設・保育所）を受けなければならない。 ・保育士証：選択必修科目 ※実習時期及び日数　２年次８月　10 日間 ※実習先　各自が依頼した保育所 ※実習前に事前オリエンテーションを受ける必要がある。 ※実習先に、検便、麻疹・風疹抗体検査証明書の提出が必要である。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 保育所の役割を理解することができる。	保育所の役割を十分に理解することができる。	保育所の役割を概ね理解することができる。	保育所の役割を最低限、理解することができる。	保育所の役割を理解することができない。	その他（関心･意欲･知識･理解･思考力）	10%
(2) 子どもへの理解を深めることができる。	子どもへの理解を十分に深めることができる。	子どもへの理解を概ね深めることができる。	子どもへの理解を最低限、深めることができる。	子どもへの理解を深めることができない。	その他（関心･意欲･知識･理解･思考力）	10%
(3) 指導計画を作成することができる。	指導計画を十分に作成することできる。	指導計画を概ね作成することできる。	指導計画を最低限、作成することできる。	指導計画を作成することできない。	その他（関心･意欲･知識･理解･思考力）	10%
(4) 子どもに対する指導・援助の技術を身に付けている。	子どもに対する指導･援助の技術を十分に身に付けている。	子どもに対する指導･援助の技術を概ね身に付けている。	子どもに対する指導･援助の技術を最低限、身に付けている。	子どもに対する指導･援助の技術を身に付けていない。	その他（関心･意欲･知識･理解･思考力）	10%
(5) 実習日誌の書式に従い、日誌を書くことができる。	用語の使用や表現の誤りがなく、詳しく丁寧に書いており、他の学生の模範となる。	用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がほぼなく、丁寧に書いている。	用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がいくつかみられるが、必要な箇所の記述はある。	用語の使用や不適切な表現があり、内容が読み取れない。	その他（関心･意欲･思考力・判断力・表現力）	40%
(6) 実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。	職務内容や職業倫理を十分に理解し、保育が実践できる。	職務内容や職業倫理をほぼ理解し、保育が実践できる。	職務内容や職業倫理の最低限の知識をもとに保育を実践できる。	職務内容や職業倫理を理解していない。	課題・レポート（思考力・判断力･表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育実習指導Ⅲ Study of Practical Training of Nursing Ⅲ	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCP2005	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	中津 愛子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	保育実習Ｉでの学びをさらに深め、保育士としての実践力を養い、施設実習に向けた事前学習や実習後の反省について、演習形式で行う。
到達目標	(1)子どもや利用者の特性に応じた保育内容を考え、援助計画を作成することができる。 (2) 保育の知識、技術をいかした保育実践ができる。 (3) 保育観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。 (4) 保育士の職業倫理について説明できる。 (5) 事後指導を通して、保育に関する新たな課題を見出すことができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	実習の意義と目的、実習概要の説明、実習の手続きについて			保育実習□のふりかえり	2 時間
2	子どもの最善の利益を考慮した施設保育の具体的理解	保育実習の手引きを読む	2 時間	保育実習の手引きをもう一度読む	2 時間
3	実習日誌の書き方、実習生プロフィール、実習誓約書の記入	保育実習の手引きを読む	2 時間	実習生プロフィール、実習誓約書の記入	2 時間
4	実習施設の理解	実習先施設の種別を調べまとめる	2 時間	配布資料を読む	2 時間
5	施設における支援の具体的内容	保育実習の手引きを読む	2 時間	配布資料を読む	2 時間
6	保育士とソーシャルワーク	配布資料を読む	2 時間	もう一度配布資料を読む	2 時間

	7	施設における保育実践	指導案作成	2 時間	指導案作成	2 時間
	8	施設における保育実践	教材作成	2 時間	教材作成	2 時間
	9	施設における保育実践	模擬保育の練習	2 時間	模擬保育の練習	2 時間
	10	実習に関する連絡・手続き	保育実践自己評価	2 時間	指導案の修正	2 時間
	11	実習先に提出する書類の確認・日誌の確認	実習日誌の記入	2 時間	実習日誌の記入	2 時間
	12	保育実習Ⅲの事前指導（実習課題の明確化）、実習に関する諸連絡	実習課題を考える	2 時間	実習にあたっての記入	2 時間
	13	実習事前調査、保育実習Ⅲの手続き確認	実習日誌の記入	2 時間	実習日誌の記入	2 時間
	14	保育実習Ⅲ事前面談	実習事前準備	2 時間	課題レポート	2 時間
	15	保育実習Ⅲの事後指導（実習後の反省・考察）	実習のふりかえり	2 時間	実習事後レポート	2 時間

成績評価	課題・レポート（40%）、指導案（30%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	模擬保育の指導案とレポートは、コメントを記入して返却する。
テキストおよび参考文献	テキスト：「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学
メッセージなど	・保育実習Ⅲ（施設）の事前事後指導にあたる科目であり、保育実習Ⅲを受ける学生は必ず受講しなければならない。 ・提出物の期限が守られない場合、実習を受けられなくなるので注意をすること。 ・保育士証：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもや利用者の特性に応じた保育内容を考え、援助計画を作成することができる。	ほぼ完璧な指導案を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導案を作成できる。	誤字・脱字があるが、最低限の基本を踏まえた指導案を作成できる。	作成できていない。	指導案（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	30%
(2) 保育の知識、技術をいかした保育実践ができる。	保育の知識・技術を活かした模擬保育が実践できる。	保育の知識、技術の基本をほぼ踏まえた模擬保育が実践できる。	保育の知識、技術には不足しているところがあるが、模擬保育は実践した。	模擬保育を実践していない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（思考力・判断力・表現力・創造性・協働性）	30%
(3) 保育観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。	保育観察、記録、自己評価をもとに保育の改善点を見出し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育観察、記録、自己評価を総合し、改善点を見出そうと努力したことを述べることができる。	保育観察、記録、自己評価をもとに、部分的には改善点を見出すことができ、それを述べることができる。	保育観察、記録、自己評価をもとに改善点を見出すことができず、レポートが提出されない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(4) 保育士の職業倫理について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(5) 事後指導を通して、保育に関する新たな課題を見出すことができる。	事後指導をもとに、自分で新たな課題を見出し、レポートにまとめることができる。	事後指導をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。	今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。	自分の今後の課題が見いだせず、レポートが提出されない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育実習Ⅲ Practical Training in Nursery School Ⅲ	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCP2006	２年次	前期 (集中)

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
実習	2	選択	中津 愛子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	保育実習での学びをさらに深め、保育士としての実践力を高めるために、児童福祉施設等で 10 日間の実習を行う。
到達目標	(1) 施設の役割を理解することができる。 (2) 子どもや利用者への理解を深めることができる。 (3) 指導計画・援助計画を作成することできる。 (4) 子ども・利用者に対する援助・支援の技術を身に付けている。 (5) 実習日誌の書式に従い、日誌を書くことができる。 (6) 実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。
授業内容と進め方	授業内容 ・養護全般に参加し、養護技術を学ぶ。 ・子どもの発達の個人差に応じた援助や生活環境にともなう子どものニーズに即した援助の実際を学ぶ。 ・援助計画を立案し、実践する。 ・子どもの家族とのコミュニケーションの方法を学ぶ。 ・地域における他の施設の役割を理解し、連携の方法について学ぶ。 ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ・保育士の職業倫理を理解する。 ・児童福祉施設等の保育士に求められる資質や知識、技能に照らし合わせて自己の課題を明確にする。 ※実習時期　２年次８月に社会福祉施設での実習を 10 日間（通勤の場合は 12 日間）行う。 ※実習先 各自が依頼した施設。 居住型施設のほかに、社会福祉施設諸法令に基づき設置される施設も含まれる。 ※その他 実習先で事前オリエンテーションを受ける必要がある。事前準備として、検便、麻疹・風疹抗体検査が必要である。

成　績　評　価	課題・レポート（20%）、その他（80%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	レポートはコメントを記入し返却します。 実践はその都度コメントします。 準備段階での質問等には、その都度相談に応じます。
テキストおよび参　考　文　献	「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学

メッセージなど	・保育実習Ⅰ（施設・保育所）を終えた後に施設での実習を希望する学生が受講する。 ・保育士証：選択必修科目 ※実習時期及び日数　２年次８月　10 日間　※実習先　　各自が依頼した保育所 ※実習前に事前オリエンテーションを受ける必要がある。 ※実習先に、検便、麻疹・風疹抗体検査証明書の提出が必要である。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 施設の役割を理解することができる。	施設の役割を十分に理解することができる。	施設の役割を概ね理解することができる。	施設の役割を最低限、理解することができる	施設の役割を理解することができない。	その他（関心･意欲･知識･理解･思考力）	10%
(2) 子どもや利用者への理解を深めることができる。	子どもや利用者への理解を十分に深めることができる。	子どもや利用者への理解を概ね深めることができる。	子どもや利用者への理解を最低限、深めることができる。	子どもや利用者への理解を深めることができない。	その他（関心･意欲･知識･理解･思考力）	10%
(3) 指導計画・援助計画を作成することできる。	指導計画・援助計画を十分に作成することできる。	指導計画・援助計画を概ね作成することできる。	指導計画・援助計画を最低限、作成することできる。	指導計画・援助計画を作成することできない。	その他（関心･意欲･知識･理解･思考力）	10%
(4) 子ども・利用者に対する援助・支援の技術を身に付けている。	対象にあわせた援助・支援の技術を十分に身に付けている。	対象にあわせた援助・支援の技術を概ね身に付けている。	対象にあわせた最低限の援助・支援の技術を身に付けている。	対象にあわせた援助・支援の技術を身に付けていない。	その他（関心･意欲･知識･理解･思考力）	10%
(5) 実習日誌の書式に従い、日誌を書くことができる。	用語の使用や表現の誤りがなく、詳しく丁寧に書いており、他の学生の模範となる。	用語の使用や表現の誤り、誤字・脱字がほぼなく、丁寧に書いている。	用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がいくつかみられるが、必要な箇所の記述はある。	用語の使用や不適切な表現があり、内容が読み取れない。	その他（関心･意欲･思考力・判断力・表現力）	40%
(6) 実習を振り返り、自分の課題を明確にすることができる。	事後指導をもとに、自分で新たな課題を見出し、レポートにまとめることができる。	事後指導をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。	今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。	自分の今後の課題が見いだせず、レポートが提出されない。	課題・レポート（思考力・判断力･表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
子どもの保健 Child　Health	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECUI1001	１年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	瀧 伸子	○

実務家教員の詳細	看護師としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	専門職として子どもに関わるには、保健に関する知識と実践が必要であり、子どもの健康を守り、健康を増進する積極的な活動が、求められる。その為には、各発達段階における子どもの健全な心身の発育、発達過程を習得することが必須となる。また、今日の子どもを取り巻く環境を踏まえ、健康問題や課題について学ぶと共に、家庭、専門機関、地域との連携についても学ぶ。	
到達目標	(1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について述べることが出来る。	
	(2) 子どもの身体発育、生理機能、運動機能、及び精神機能の発達について具体的に述べることが出来る。	
	(3) 子どもの健康状態について気付く視点を学び、その対応と対策、予防について述べることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション（学習の目的・意義について） １．子どもの健康と保健の意義 １－１．子どもの健康と子どもを取巻く環境	テキストの 1－1 を読む	1 時間	1－1 の学びの振り返り	1.5 時間
2	１－２．子どもの健康と健康指標、	テキストの 2 を読む	1 時間	1－2 の学びの振り返り	1.5 時間
3	１－３．子どもを取巻く環境.地域社会と保育所	テキストの 3 を読む	1 時間	1－3 の学びの振り返り	1.5 時間
4	２－１．身体の発育	テキストの 2－1 を読む	1.5 時間	2－1 の学びの振り返り	1.5 時間
5	２－２．子どもの発達	テキストの 2－2 を読む	1.5 時間	2－2 の学びの振り返り	1.5 時間
6	２－３．生理機能の特徴（体温、睡眠、消化、歯）	テキストの 2－3 を読む	1.5 時間	2－3 の学びの振り返り	1.5 時間
7	３－１．子どもの健康状態の把握（子どもの健康状態の見方）	テキストの 3－1 を読む	1.5 時間	3－1 の学びの振り返り	1.5 時間

	8	３－２．体調の良くない子どもへの対応	テキストの 3－2 を読む	1.5 時間	3－2 の学びの振り返り	1.5 時間
	9	３－３．発育と発達の評価とその診断基準	テキストの 3－3 を読む	1.5 時間	3－3 の学びの振り返り	1.5 時間
	10	３－４．保護者との情報共有とその方法	テキストの 3－4 を読む	1.5 時間	3－4 の学びの振り返り	1.5 時間
	11	４－１．子どもの病気の予防と適切な対応（主な病気の特徴と対応、予防について）	テキストの 4－1 を読む	1.5 時間	4－1 の学びの振り返り	1.5 時間
	12	４－２．保育所でよく見かける病気（呼吸器、耳鼻科、眼科、皮膚科、泌尿器科、整形外科等）	テキストの 4－2 を読む	1.5 時間	4－2 の学びの振り返り	1.5 時間
	13	４－２．保育所でよく見かける病気（感染症）	テキストの 4－2 を読む	1.5 時間	4－2 の学びの振り返り	1.5 時間
	14	４－３．　予防できる疾患に対する対策（予防接種、ワクチン等）	テキストの 4－3 を読む	1.5 時間	4－3 の学びの振り返り	1.5 時間
	15	まとめ	テキストを一通り見直す	2 時間	学び全体のの振り返り	2 時間

成　績　評　価	定期試験（60%）、課題・レポート（40%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	定期試験・課題レポートは、返却時解説をする。 毎回のミニレポートは、翌週返却時解説する。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：「保育者のためのわかりやすい 子どもの保健」飯島一誠監修 総合医学社 参考文献：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 配布資料
メッセージなど	子どもの心と体の健康を育むことは、保育の原点です。なるべくニュース、統計等に目を向け、子どもを取り巻く環境や子どもの命について向き合っていきましょう。必ず、復習をして、知識の確認をしていきましょう。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について述べることが出来る。	ほぼ完璧に述べることが出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本的なことは、述べている。	殆ど述べていない。	定期試験（知識・理解）	30%
	ほぼ完璧に述べることが出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本的なことは、述べている。	殆ど述べていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	10%
(2) 子どもの身体発育、生理機能、運動機能、及び精神機能の発達について具体的に述べることが出来る。	ほぼ完璧に述べることが出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本的なことは、述べている。	殆ど述べていない。	定期試験（知識・理解）	30%
	ほぼ完璧に述べることが出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本的なことは、述べている。	殆ど述べていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	10%
(3) 子どもの健康状態について気付く視点を学び、その対応と対策、予防について述べることができる。	幅広い視点から総合的に考えられ、ほぼ完璧に述べることが出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本的なことは、述べている。	殆ど述べていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
子どもの健康と安全 Child Health and Safety	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCM1004	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	瀧 伸子	○

実務家教員の詳細	看護師としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	「子どもの保健」で学んだことを基礎に、保育現場で出会う子どもの病気や事故について理解し、予防や対策について学ぶ。また、子どもに関連する法律を踏まえ、健康障害の有無に拘わらず、その子どもに合った保健的対応について学ぶと共に、保育者としての責任や役割を学ぶ。	
到達目標	(1) 子どもによくみられる病気や感染症について理解し、その予防や対策、適切な対応について述べることができる。	
	(2) 子どもに起こりうる事故やその原因を理解し、その予防や対策、適切な対応について述べることが出来る。	
	(3) 保育現場における子どもの心身の健康や衛生管理、安全管理について理解し、説明することが出来る。	
	(4) 子どもの成長に関する法律と、その関連性について述べることが出来る。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション （子どもの健康と安全） 保育環境 等	テキスト 1 を読む	1.5 時間	1 の学びの振り返り	1.5 時間
2	保育における健康安全管理の実際 （保育現場での衛生管理、事故防止と安全対策 等）	テキスト 2 を読む	1.5 時間	2 の学びの振り返り	1.5 時間
3	保育における健康安全管理の実際 （災害への備えと危機管理）	テキスト 3 を読む	1.5 時間	3 の学びの振り返り	1.5 時間
4	子どもの体調不良などへの対応 （子どもの主な症状への対応、応急処置）	テキスト 4 を読む	1.5 時間	4 の学びの振り返り	1.5 時間
5	子どもの体調不良などへの対応 （救急処置および救急蘇生法、子どもと薬）	テキスト 5 を読む	1.5 時間	5 の学びの振り返り	1.5 時間

	6	感染症の予防と対策 （感染症の集団発生の予防、感染症対策）	テキスト 6 を読む	1.5 時間	6 の学びの振り返り	1.5 時間
	7	保育所における保健的対応 （3 歳未満児への対応）	テキスト 7 を読む	1.5 時間	7 の学びの振り返り	1.5 時間
	8	保育所における保健的対応 （個別な配慮を必要とする子どもへの対応）	テキスト 8 を読む	1.5 時間	8 の学びの振り返り	1.5 時間
	9	保育所における保健的対応 （障害がある子どもへの対応）	テキスト 9 を読む	1.5 時間	9 の学びの振り返り	1.5 時間
	10	健康、安全への取り組み （職員の連携と組織的取組、子どもの健康づくりへの取り組み）	テキスト 10 を読む	1.5 時間	10 の学びの振り返り	1.5 時間
	11	母子に関する法律 （母子保健法、児童福祉法、児童虐待の防止等に関する法律）	テキスト 11 を読む	1.5 時間	11 の学びの振り返り	1.5 時間
	12	法律に関する事業の実際 （母子保健福祉事業の実、21 世紀の母子保健福祉）	テキスト 12 を読む	1.5 時間	12 の学びの振り返り	1.5 時間
	13	法律に関する事業の実際 （児童虐待防止法の実際）	テキスト 13 を読む	1.5 時間	13 の学びの振り返り	1.5 時間
	14	子育て支援のためのネットワーク （施設を中心とした地域活動と住民による子育て支援活動）	テキスト 14 を読む	1.5 時間	14 学びの振り返り	1.5 時間
	15	まとめ	テキスト全体を見直す	2 時間	学び全体の振り返り	2 時間

成　績　評　価	定期試験（60%）、課題・レポート（40%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	定期試験・課題レポートは、返却時に解説する。 毎回のミニレポートは、翌週返却時に解説する。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：「保護者のためのわかりやすい子どもの保健」飯島一誠監修　総合医学社 参考文献：「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」 配布資料
メッセージなど	前期「子どもの保健Ⅰ」で習ったことをよく復習し、授業に臨んで下さい。 子どもに関わるニュース等から、現状を考える姿勢を養っていきましょう。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもによくみられる病気や感染症について理解し、その予防や対策、適切な対応について述べることができる。	ほぼ完璧に述べることが出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。	殆ど述べていない。	定期試験（知識・理解）	25%
	ほぼ完璧に述べることが出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。	殆ど述べていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	5%
(2) 子どもに起こりうる事故やその原因を理解し、その予防や対策、適切な対応について述べることが出来る。	ほぼ完璧に述べることが出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。	殆ど述べていない。	定期試験（知識・理解）	25%
	ほぼ完璧に述べることが出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。	殆ど述べていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	5%
(3) 保育現場における子どもの心身の健康や衛生管理、安全管理について理解し、説明することが出来る。	ほぼ完璧に説明することが出来る	大きな間違いがなく、基本的なことは説明出来ている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は説明出来ている。	殆ど説明出来ていない。	定期試験（知識・理解）	20%
	ほぼ完璧に説明することが出来る	大きな間違いがなく、基本的なことは説明出来ている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は説明出来ている。	殆ど説明出来ていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	5%
(4) 子どもの成長に関する法律と、その関連性について述べることが出来る。	ほぼ完璧に述べることが出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。	殆ど述べていない。	定期試験（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に述べることが出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。	殆ど述べていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
子どもの疾病と保健 Child Disease and Health	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECUI2002	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	瀧 伸子	○

実務家教員の詳細	看護師としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	子どもを健康で安全に保育するという保育所保育指針を踏まえて、子どもの発育・発達状況や健康状態を把握し、積極的に健康の保持増進を図り、疾病や事故の予防・対処に向けての視点を養う。 その為には、「子どもの保健」で習得した知識を基礎に、保育実践に必要な保健活動について学び、子どもの疾病と保健についての基本的な援助能力を養うことを目的とする。	
到達目標	(1) 子どもと健康の意義を理解し、地域及び保育の場における保健活動の内容について述べることが出来る。	
	(2) 子どもを取り巻く環境、子どもの心とからだの健康課題を考察し、発達段階に応じた保健活動が展開できる為の基本について述べることが出来る。	
	(3) 子どもの健康について、その個別性を理解し、疾病の適切な対応・事故防止など健康安全教育と管理のあり方や方法について自分の考えを述べることが出来る。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保健活動の計画と評価 （保育における保健活動）	テキスト 1 を読む	1.5 時間	1 の学びの振り返り	1.5 時間
2	保健計画の作成と活用、保健活動の記録と自己評価	テキスト 2 を読む	1.5 時間	2 の学びの振り返り	1.5 時間
3	子どもの保健に関する個別対応と子どもの集団全体の健康と安全・衛生管理	テキスト 3 を読む	1.5 時間	3 の学びの振り返り	1.5 時間
4	子どもの保健と環境 （保健における養護と教育の一体性）	テキスト 4 を読む	1.5 時間	4 の学びの振り返り	1.5 時間
5	子どもの健康増進と保育の環境、子どもの生活習慣と心身の健康	テキスト 5 を読む	1.5 時間	5 の学びの振り返り	1.5 時間
6	子どもの発達援助と保健活動	テキスト 6 を読む	1.5 時間	6 の学びの振り返り	1.5 時間

	7	子どもの疾病と適切な対応（感染症の予防と対策）	テキスト 7 を読む	1.5 時間	7 の学びの振り返り	1.5 時間
	8	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応（熱性痙攣、てんかん他）	テキスト 8 を読む	1.5 時間	8 の学びの振り返り	1.5 時間
	9	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応（乳児の病気、障害のある子どもへの対応）	テキスト 9 を読む	1.5 時間	9 の学びの振り返り	1.5 時間
	10	事故防止および健康管理・安全管理（組織的取り組み）	テキスト 10 を読む	1.5 時間	10 の学びの振り返り	1.5 時間
	11	けがや急な病気への対応の基本	テキスト 11 を読む	1.5 時間	11 の学びの振り返り	1.5 時間
	12	子どもに起きやすい事故の応急処置	テキスト 12 を読む	1.5 時間	12 の学びの振り返り	1.5 時間
	13	子どもに起こりやすい症状とケア	テキスト 13 を読む	1.5 時間	13 の学びの振り返り	1.5 時間
	14	災害への備えと危機管理（危機管理、非常災害などへの取り組みの実際等）	テキスト 14 を読む	1.5 時間	14 の学びの振り返り	1.5 時間
	15	心とからだの健康問題と地域保健活動（子どもの養育環境と心の健康問題、心とからだの健康づくりと地域保健活動）	テキスト 15 を読む	2 時間	15 の学びの振り返り	2 時間

成績評価	定期試験（50%）、発表・プレゼンテーション（20%）、グループワーク・グループ討議（20%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（10%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	定期試験、ミニレポートは返却時解説する。 グループワーク・プレゼンテーションは、発表時解説する。
テキストおよび参考文献	テキスト：「子どもの保健Ⅱ」佐藤益子/中根淳子編著　ななみ書房 参考文献：「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 １年時使用のテキスト「子どもの保健」「保育所保育指針」 配布資料
メッセージなど	子どもの保健の成果は実践を通して得られるものである。健康という視点から子どもを取り巻く環境や現状の課題について関心を持つことが重要である。授業前にテキストの該当箇所を予習して臨んで下さい。 保育士証：選択科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもと健康の意義を理解し、地域及び保育の場における保健活動の内容について述べることが出来る。	ほぼ完璧に述べている。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて述べている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて述べている。	内容について、述べていない。	定期試験 （知識・理解）	30%
	ほぼ完璧に述べている。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて述べている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて述べている。	内容について、述べていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	10%
(2) 子どもを取り巻く環境、子どもの心とからだの健康課題を考察し、発達段階に応じた保健活動が展開できる為の基本について述べることが出来る。	ほぼ完璧に述べている。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて述べている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて述べている。	基本について、述べていない。	定期試験 （知識・理解）	30%
	ほぼ完璧に述べている。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて述べている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて述べている。	基本について、述べていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	10%
(3) 子どもの健康について、その個別性を理解し、疾病の適切な対応・事故防止など健康安全教育と管理のあり方や方法について自分の考えを述べることが出来る。	子どもを取巻く現状や課題を見据えて、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	子どもを取巻く現状認識や課題の捉え方について、倫理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	子どもを取巻く現状認識や課題の捉え方に間違いや誤字脱字等がいくつかあるが、最低限、自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	発表・プレゼンテーション （関心・意欲・思考力・協働性・問題解決力）	10%
	子どもを取巻く現状や課題を見据えて、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	子どもを取巻く現状認識や課題の捉え方について、倫理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	子どもを取巻く現状認識や課題の捉え方に間違いや誤字脱字等がいくつかあるが、最低限、自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	グループワーク・グループ討議 （関心・意欲・思考力・協働性・問題解決力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
子どもの食と栄養 Child Dietary Life and Nutrition	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECUI2003	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	必修	髙橋 育代	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	栄養に関する基礎知識をもとに、子どもの発育・発達と栄養や食生活、疾患への対応食に関して理解する。調乳・離乳食・幼児食の調理演習を実施する。子どもの食生活全般への働きかけや、栄養教育などについて　演習を通して学ぶ。
到達目標	(1) 子どもの発育・発達に適切な栄養を説明できる。
	(2) 調乳・離乳食・幼児食にふさわしい食品と調理形態を学び、実際に活用することができる。
	(3) 幼児期食生活上での問題と対応が認識でき、健康な食生活を工夫することができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	子どもの栄養の特徴・重要性	シラバスをみて内容を確認する	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
2	栄養に関する基礎知識① －食品群の理解－	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
3	栄養に関する基礎知識② －栄養バランスガイド－	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
4	栄養に関する基礎知識③ －栄養素の機能－	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
5	栄養に関する基礎知識④ －食事摂取基準の理解－	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
6	栄養に関する基礎知識⑤ ―消化･吸収･食品の衛生―	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
7	妊娠・授乳期の栄養	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間

	8	母乳栄養・乳汁栄養	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	9	調乳の演習	演習プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	10	離乳の意義と基本	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	11	調理演習―離乳食	演習プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	12	乳児期の発達と離乳の進め方	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	13	調理実習―幼児と一緒につくる「おやつ」	演習プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	14	食育と子育て支援	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	15	児童福祉施設における食生活	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	幼児期の食生活	シラバスをみて内容を確認する	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	17	幼児期食生活上での問題と対応	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	18	調理実習　－幼児食 －	演習プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	19	演習　ー子ども達に栄養･食べ物を教えるー	演習プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	20	問題と対応－虫歯と間食－	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	21	咀嚼と消化機能－箸の正しい持ち方演習－	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	22	骨の発達・体の発育	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	23	子どもの疾病の特徴と食生活①－発熱と食生活－	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	24	子どもの疾病の特徴と食生活②－下痢・便秘等と食生活－	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間

	25	子どもの疾病の特徴と食生活③－食物アレルギーと食生活－	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	26	子どもの疾病の特徴と食生活④－糖尿病や生活習慣病と食生活－	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	27	感染症と食中毒	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	28	学童期の食生活	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	29	栄養教育の実践	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間
	30	献立作成　食生活の問題点	前時プリントを読む	1 時間	配布プリントの内容を確認しまとめる	1 時間

成　績　評　価	定期試験（40%）、小テスト（20%）、発表・プレゼンテーション（10%）、グループワーク・グループ討議（30%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	提出プリント・課題は、評価等を書いて、次時に返却する。 試験は、評価結果を示す。
テキストおよび参　考　文　献	参考文献：堤ちはる・土井正子編著「子どもの食と栄養（萌文書林）」他、 「八訂食品成分表 2020 年版」他を資料として配布
メッセージなど	子どもの食を知ることにより自分の食生活や健康に役立つ科目です。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもの発育・発達に適切な栄養を説明できる。	ほぼ完璧に説明ができる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	20%
	ほぼ完璧に説明ができる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	小テスト（知識・理解）	20%
(2) 調乳・離乳食・幼児食にふさわしい食品と調理形態を学び、実際に活用することができる。	ほぼ完璧に説明ができ、活用することができる。	大きな間違いがなく、基本を説明でき、活用できる	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・意欲・理解）	20%
	ほぼ完璧に説明ができ、活用することができる。	大きな間違いがなく、基本を説明でき、活用できる	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議（知識・意欲・理解）	20%
(3) 幼児期食生活上での問題と対応が認識でき、健康な食生活を工夫することができる。	幼児期の食生活についての問題と対応が認識でき、自身の食生活において実践することができる。	幼児期の食生活についての問題と対応が認識でき、自身の食生活において実践しようとすることができる。	幼児期の食生活についての問題と対応の認識の間違いはいくつかあるが、自身の食生活において実践しようとする姿勢は持つことができる。	自身の食生活において実践しようとする姿勢ができていない。	発表・プレゼンテーション（意欲・表現力・創造性・技能）	10%
	幼児期の食生活についての問題と対応が認識でき、自身の食生活において実践することができる。	幼児期の食生活についての問題と対応が認識でき、自身の食生活において実践しようとすることができる。	幼児期の食生活についての問題と対応の認識の間違いはいくつかあるが、自身の食生活において実践しようとする姿勢は持つことができる。	自身の食生活において実践しようとする姿勢ができていない。	グループワーク・グループ討議（意欲・表現力・創造性・技能）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
乳児保育Ⅰ Early Childhood Care　Ⅰ	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCM1005	１年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	中安 妙子	○

実務家教員の詳細	保育士としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	
概　　要	乳児保育の変遷現状を学ぶとともに、現代における乳児保育の意義や課題を学ぶ。 ３歳未満児の健全な発達を保障していくには、どのような援助が必要か、３歳未満児の発達を理解し、３歳未満児を主体とした保育について学ぶ。	
到達目標	(1) 乳児保育の意義・目的・役割等について説明できる。	
	(2) 保育所、乳児院等多様な保育における乳児保育の現状について説明できる。	
	(3) ３歳未満児の発育、発達を理解し、その上で保育内容について説明することができる。	
	(4) 乳児保育における職員間の連携・協働、保護者・地域との連携について説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	オリエンテーションに臨んでから	2 時間	乳児保育で学ぶ３歳未満児の確認	2 時間
2	乳児保育の意義、目的、乳幼児の発達全般の基礎知識を得る	テキスト:乳児の発達	2 時間	乳児の発達を知る	2 時間
3	乳児保育の意義、目的、現状、課題	保育所 子ども園について調べる	2 時間	保育に関する現況理解	2 時間
4	乳児保育における養護及び教育	多様な保育の場について調べる	2 時間	保育の場での問題は何か考える	2 時間
5	保育所、乳児院等における乳児保育と子育て支援	保育所 乳児院等の現況を知る (テキスト参照)	2 時間	現況について理解	2 時間
6	３歳未満の発達 生活遊びと環境（０歳）	乳児について知る (テキスト参照)	2 時間	乳児の発達について理解	2 時間
7	３歳未満の発達 生活遊びと環境（０歳）	乳児について知る (テキスト参照)	2 時間	乳児の生活について理解	2 時間

	8	３歳未満の発達 生活遊びと環境（０歳）	乳児について知る (テキスト参照)	2 時間	乳児の遊びについて理解	2 時間
	9	３歳未満の発達 生活遊びと環境（１歳）	１歳児の発達について知る (テキスト参照)	2 時間	１歳児の発達について理解	2 時間
	10	３歳未満の発達 生活遊びと環境（１歳）	１歳児の生活遊びについて知る (テキスト参照)	2 時間	１歳児の生活遊びについて理解	2 時間
	11	３歳未満の発達 生活遊びと環境（２歳）	２歳児の発達について知る (テキスト参照)	2 時間	２歳児の発達について理解	2 時間
	12	３歳未満の発達 生活遊びと環境（２歳）	２歳児の生活遊びについて知る (テキスト参照)	2 時間	２歳児の生活遊びについて理解	2 時間
	13	３歳未満児の発達を踏まえた保育士による援助、関わり	３歳未満児への関わりについて考える	2 時間	関わりについての理解	2 時間
	14	乳児保育における連携、協働	保護者との連携について考える	2 時間	連携について理解	2 時間
	15	全体のまとめ	疑問点の把握	2 時間	全体のまとめ	2 時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、小テスト（20%）、課題・レポート（30%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	毎回いろいろな方のエッセィ、保育関連の資料、新聞記事を読み、それに対し適時コメントを書き返却する。 毎回の折り紙も折れなかったら再度折り、自分のものにしましょう。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：講義で学ぶ乳児保育（わかば社）、保育所保育指針（平成２９年３月告示、厚生労働省） 資料プリントは適時配布
メッセージなど	保育者としての基本的知識を学び、自分なりの保育者像を一緒に考えていきましょう。 積極的な発言・発表を望む。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 乳児保育の意義・目的・役割等について説明できる。	乳児保育の意義等説明できる。	大きな間違いがなく説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の説明できる	説明できない	定期試験（知識・理解）	10%
	乳児保育の意義等説明できる。	大きな間違いがなく説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の説明できる	説明できない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(2) 保育所、乳児院等多様な保育における乳児保育の現状について説明できる。	乳児保育の現状について説明できる。	大きな間違いがなく説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の説明できる	説明できない	定期試験（知識・理解・思考力）	10%
	乳児保育の現状について説明できる。	大きな間違いがなく説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の説明できる	説明できない	課題・レポート（知識・理解・思考力）	10%
(3) ３歳未満児の発育、発達を理解し、その上で保育内容について説明することができる。	３歳未満児の発育、発達保育内容について説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の基本を説明できる	説明できていない	定期試験（知識･理解･思考力・判断力）	20%
	３歳未満児の発育、発達保育内容について説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の基本を説明できる	説明できていない	小テスト（思考力・判断力･表現力･理解）	20%
(4) 乳児保育における職員間の連携・協働、保護者・地域との連携について説明できる。	職員、保護者地域との連携について説明できる	大きな間違いがなく説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の説明できる	説明できない	定期試験（知識・理解）	10%
	職員、保護者地域との連携について説明できる	大きな間違いがなく説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の説明できる	説明できない	課題・レポート（知識･理解･思考力・判断力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
乳児保育Ⅱ Early Childhood Care Ⅱ	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCM2006	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1	選択	中安 妙子	○

実務家教員の詳細	保育士としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	急激な少子化の進行にもかかわらず乳児保育を必要とする家庭が増加し、乳児保育の需要は増大している。本授業では乳児保育Ⅰにおいて修得した知識に基づき、乳児保育における具体的配慮、計画の方法を学ぶ。	
到達目標	(1) ３歳未満の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を説明する。	
	(2) ３歳未満児の子どもの生活や遊び、保育の方法及び環境構成について説明できる。	
	(3) 乳児保育における配慮の実際について説明できる。	
	(4) 乳児保育における計画の作成について説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	１年次の振り返りと２年次の授業の内容を知る	0、1、2歳児の発達についてテキストを見ておく	2 時間	0，1、2歳児の保育内容について確認まとめ	2 時間
2	保育所の１日・生活の流れ、保育環境・配慮の実際　０、１、２歳の発育、発達	1日の園生活の流れを理解し保育者の関わりを考えてくる	2 時間	具体的にどう子どもに声掛けをする事がよいのかを考える	2 時間
3	乳児保育の内容と方法－０歳児保育と生活	0歳児の発達　保育内容の確認	2 時間	具体的関わりについて復習	2 時間
4	乳児保育の内容と方法－０歳児保育と生活	0、1、2歳児の遊びについて考える	2 時間	月齢別発達についての遊具を考える 自分の作る遊具製作	2 時間
5	乳児保育の内容と方法－遊び玩具作品発表　０、１、２歳の遊び、おもちゃ	どの月齢年齢についての遊具か遊び方を考える	2 時間	自分製作玩具の良い点改良点を考える	2 時間
6	乳児保育の内容と方法－０、１歳児の保育と生活	1歳児の発達　保育内容の確認	2 時間	具体的な関わりについて自分なりに考える	2 時間
7	各グループによる課題研究発表	所属するグループでの発表準備	2 時間	他の班の発表を知り、学んだ事をまとめてみる	2 時間

	8	各グループによる課題研究発表	所属するグループでの発表準備	2 時間	他の班の発表を知り、学んだ事をまとめてみる	2 時間
	9	乳児保育の内容と方法－０、１歳児の保育と生活	1歳児の精神的発達の特色の再確認	2 時間	具体的関わりについて自分なりに考えてみる	2 時間
	10	乳児保育の内容と方法－１、２歳児の保育と生活	2歳児の発達　保育内容の確認	2 時間	具体的関わりについて自分なりに考えてみる	2 時間
	11	乳児保育の内容と方法－１、２歳児の保育と生活	2歳児の精神的発達の再確認	2 時間	具体的関わりについて自分なりに考えてみる	2 時間
	12	乳児保育における計画－長短期計画　個別的集団的計画	3歳未満児における長短期計画について調べてみる	2 時間	自分で個別計画を立ててみる	2 時間
	13	乳児保育における保護者との連携	保護者との連携について調べてみる	2 時間	参観日、個別指導、登下園時での保護者との会話について考えてみる	2 時間
	14	乳児保育を支える連携　保育者の役割援助（ワーク）	保育者の役割について考えてみる	2 時間	子どもたちへの語りかけワークを通して自分の五感を使って保育を行う事を考えてみる	2 時間
	15	本授業のまとめ　乳児保育のこれからと保育者に望まれるもの	自分なりの保育者像を考える	2 時間	どんな保育をめざしたいのかを自分なりに書いてみる	2 時間

成　績　評　価	定期試験（26%）、課題・レポート（25%）、作品（12%）、指導案（13%）、教材作成（12%）、グループワーク・グループ討議（12%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	現場における０、１、２歳の保育事例を読み、又、短期計画・設定案を書き、それに対し適時コメントを書き返却する。 ０、１、２歳児の遊具を手作りし、個々が発表する中で、他の使い方、このような遊具もいいのではと実物・書籍等で紹介をする。
テキストおよび参　考　文　献	１年次のテキスト：保育所保育指針 授業の中で適宜本紹介。 資料プリント適時配布
メッセージなど	保育者としての基本的知識技術を学ぶことはもちろんですが、子どもたちに寄り添える保育士とはどういうことか、自分なりの保育者像を考えられるよう一緒に考えていきたい。積極的な発言発表で全員参加型の授業をつくっていくことを望む。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) ３歳未満の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を説明する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	13%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	12%
(2) ３歳未満児の子どもの生活や遊び、保育の方法及び環境構成について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	13%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	作品（意欲・創造性・作品の完成度）	12%
(3) 乳児保育における配慮の実際について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	課題・レポート（知識・理解・判断力・表現力・思考力）	13%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	グループワーク・グループ討議（問題解決力・協働性・表現力・判断力・思考力）	12%
(4) 乳児保育における計画の作成について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	指導案（思考力・創造性・表現力・知識）	13%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	教材作成（表現力・創造性）	12%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
障害児保育 Care and Education for Disable Children	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCM2007	１年次・ ２年次	1 年後期 2 年前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	選択	中津 愛子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	障害のある子どもの保育の基本と、障害特性、一人一人の子どもに対する理解、保育における発達援助の方法を学ぶ。
到達目標	(1) 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について説明できる。
	(2) 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について具体的に述べることができる。
	(3) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について説明できる。
	(4) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について考えを述べることができる。
	(5) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について具体的に述べることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	障害の概念と障害児保育の歴史			復習プリント	2 時間
2	障害のある子どもに対する保育の基本	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
3	障害児等の理解と保育における発達の援助	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
4	肢体不自由児への理解	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
5	肢体不自由児の発達援助	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
6	知的障害児への理解	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
7	知的障害児の発達援助	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
8	発達障害とは	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
9	発達障害児への理解 ①自閉症スペクトラム障害	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
10	発達障害児の発達援助 ①自閉症スペクトラム障害	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間

	11	発達障害児への理解 ②注意欠如・多動症	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	12	発達障害児の発達援助 ②注意欠如・多動症	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	13	発達障害児への理解 ③学習障害	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	14	発達障害児の発達援助 ③学習障害	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	15	発達の遅れや発達に偏りのある子どもの保育	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	視覚に障害のある子どもへの理解	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	17	視覚に障害のある子どもの発達援助	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	18	聴覚に障害のある子どもへの理解	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	19	聴覚に障害のある子どもの発達援助	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	20	重複障害児への理解と発達援助	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	21	重症心身障害児への理解と発達援助	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	22	医療的ケア児への理解と発達援助	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	23	その他の特別な配慮を要する児への理解と援助	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	24	子ども理解に基づいた保育の計画	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	25	個別の指導計画・支援計画の作成	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	26	個々の発達を促す生活や遊びの環境	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	27	家庭との連携及び家族への支援	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	28	障害児支援の制度の理解と地域における関係機関（保育所、児童発達支援 センター等）との連携・協働	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	29	障害のある子どもの早期発見と療育	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	30	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題	テキストを読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間

成　績　評　価	定期試験（40%）、課題・レポート（60%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業の復習プリントはコメントを書いて返却する。ルーブリックによる成績評価を配布する。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：中山智哉・深田尚志・末成妙子　編著「障がいのある子どもの保育・教育の実践」学文社 参考文献：前田泰弘　編著「実践に生かす障害児保育」萌文書林
メッセージなど	DVD 視聴やグループワークを取り入れた、実践的な授業を行います。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	20%
(2) 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について具体的に述べることができる。	たいへん具体的に述べることができる。	おおよその内容について具体的に述べることができる。	部分的には具体的に述べることができる。	具体的に述べることができない。	定期試験（知識・理解）	20%
(3) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%
(4) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について考えを述べることができる。	子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働についての認識に誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働についての認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%
(5) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について具体的に述べることができる。	たいへん具体的に述べることができる。	おおよその内容について具体的に述べることができる。	部分的には具体的に述べることができる。	具体的に述べることができない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
障害児・者の支援 Care and Support for Disable Child and Adult	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCM2008	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	中津 愛子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	障害のある人の生涯発達を視野に入れ、本人とその周囲の人々に対しどのような支援を行うのか、医療、教育、福祉の各機関の役割と連携による支援の現状を学ぶ。	
到達目標	(1) 障害の早期発見、早期療育の現状を概説できる。	
	(2) 乳児期から学童期の発達支援に関わる医療、教育、福祉の各機関の役割を説明できる。	
	(3) 青年期から成人期の生活支援の実態について説明することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	障害のある子どもに対する理解			復習プリント	2 時間
2	障害の早期発見と療育、障害児の発達援助	事前資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
3	知的発達に遅れのある子どもに対する理解	事前資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
4	発達障害のある子どもに対する理解	事前資料を読んでおく	2 時間	遊びの計画準備	2 時間
5	発達を促す遊び	事前資料を読んでおく	2 時間	遊びの計画準備	2 時間
6	障害のある子どもへの関わり方	事前資料を読んでおく	2 時間	遊びの計画準備	2 時間
7	指導計画の作成	事前資料を読んでおく	2 時間	指導案の作成	2 時間
8	記録と評価	事前資料を読んでおく	2 時間	遊びの実践記録	2 時間
9	障害のある子どもの家族に対する理解	事前資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
10	家族の障害受容と保護者支援	事前資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
11	乳幼児期における地域の専門機関との連携	事前資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間

	12	就学に向けての支援	事前資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	13	学童期の発達支援・専門機関との連携	事前資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	14	青年期から成人期の生活支援の現状	事前資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	15	生涯発達を視野に入れた支援の課題	事前資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（100%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業の復習プリント、課題レポートはコメントを書いて返却する。ルーブリックによる成績評価を配布する。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：授業事前配布資料 参考文献：中山智哉・深田尚志・末成妙子　編著「障がいのある子どもの保育・教育の実践」学文社　前田泰弘　編著「実践に生かす障害児保育」萌文書林、エデュマムコミュニケーション MOOK「発達障害あんしん子育てガイド　幼児期から思春期まで」小学館
メッセージなど	授業の中で障害のある子どもたちに触れあう時間があります。障害児保育について学びを深めたい人の受講をすすめます。 保育士証：選択科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 障害の早期発見、早期療育の現状を概説できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（関心・意欲・表現力）	25%
(2) 乳児期から学童期の発達支援に関わる医療、教育、福祉の各機関の役割を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	50%
(3) 青年期から成人期の生活支援の実態について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（思考力・判断力）	25%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
特別講義 Special Lecture	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECSL1001	1 年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	平田 睦美・木橋 奏子・正長 清志・中津 愛子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	教育者・保育者になるためのコミュニケーション能力や表現力を養う。また、社会のニーズを考慮しつつ、地域に貢献できる教育者・保育者になるための基本的な知識と技術を習得する。
到達目標	(1) 保育者に必要とされる基本的な知識や技能とは何かを説明できる。
	(2) 地域子育て支援ボランティア活動の意義を理解し、具体的な活動内容について主体的に考えることができる。
	(3) 他者と協働し、グループ討議や地域子育て支援ボランティア活動に取り組むことができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	地域子育て支援ボランティアの概要 平田･木橋･正長･中津			振り返りシート	2 時間
2	地域子育て支援ボランティアでの遊びの紹介 平田･木橋･正長･中津	配布資料を読む	2 時間	振り返りシート	2 時間
3	地域子育て支援ボランティアでの遊びの紹介 平田･木橋･正長･中津	配布資料を読む	2 時間	振り返りシート	2 時間
4	絵本と音楽表現の活動 中津・木橋	配布資料を読む	2 時間	振り返りシート	2 時間
5	手遊びを楽しもう 平田・木橋	配布資料を読む	2 時間	振り返りシート	2 時間
6	絵本を楽しもう 平田・木橋	配布資料を読む	2 時間	振り返りシート	2 時間
7	パネルシアターを楽しもう 平田・木橋	配布資料を読む	2 時間	振り返りシート	2 時間
8	伝承遊びを楽しもう 正長・平田	配布資料を読む	2 時間	振り返りシート	2 時間
9	地域子育て支援ボランティア活動の準備から実践の計画　平田	配布資料を読む	2 時間	活動の準備をする	2 時間
10	地域子育て支援ボランティア活動の準備①　平田・木橋	活動の準備をする	2 時間	振り返りシート	2 時間
11	地域子育て支援ボランティア活動の準備②　平田・木橋	活動の準備をする	2 時間	振り返りシート	2 時間

	12	地域子育て支援ボランティア活動の実践① 平田・木橋	活動の準備をする	2 時間	振り返りシート	2 時間
	13	地域子育て支援ボランティア活動の実践② 平田・木橋	活動を振り返る	2 時間	実践終了感想レポート	2 時間
	14	地域子育て支援ボランティア活動の振り返り 平田・木橋	活動を振り返る	2 時間	実践報告会資料作成	2 時間
	15	地域子育て支援ボランティア活動の実践報告 平田・木橋	実践報告会準備をする	2 時間	報告会から学んだこと課題レポート	2 時間

成績評価	課題・レポート（60%）、グループワーク・グループ討議（20%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（20%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートは、コメントを添えて返却する。
テキストおよび参考文献	テキスト：なし。プリントを配布する。
メッセージなど	保育者を目指す学生は全員受講することが望ましい。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 保育者に必要とされる基本的な知識や技能とは何かを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・表現力）	30%
(2) 地域子育て支援ボランティア活動の意義を理解し、具体的な活動内容について主体的に考えることができる。	主体的に考えることが十分にできる。	主体的に考えることが概ね可能である。	部分的ではあるが、主体的に考えることができる。	主体的に考えることができない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・表現力）	30%
(3) 他者と協働し、グループ討議や地域子育て支援ボランティア活動に取り組むことができる。	他者と協働して取り組むことが十分にできる。	他者と協働して取り組むことが概ね可能である。	部分的ではあるが、他者と協働して取り組むことができる。	他者と協働して取り組むことができない。	グループワーク・グループ討議（思考力・協働性・問題解決力）	20%
	他者と協働して取り組むことが十分にできる。	他者と協働して取り組むことが概ね可能である。	部分的ではあるが、他者と協働して取り組むことができる。	他者と協働して取り組むことができない。	ロールプレイ（思考力・協働性・問題解決力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育総合研究 Child Care Synthesis Research	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCR2001	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	必修	正長 清志・木橋 奏子・平田 睦美	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	子どもの教育や保育に関する研究課題を自ら見つけ、その課題を解決するための方法を決定・遂行し、その結果について検討し今後の課題を見つけ出す。研究目的、研究方法から、結果、考察に至るまで、担当教員の指導を受けながらテーマごとに進め、その成果を発表し、報告書にまとめる。
到達目標	(1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。
	(2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。
	(3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。
	(4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。
授業内容と進め方	授業内容
	各研究室で教員に指導を受けながら、各自のテーマに沿って研究活動を進めていく。授業時間外に各自で研究に取り組むこと。そのうえで、週 1 回、決められた時間に教員から指導を受けること。 令和５年度は、下記のような内容で行われた。 保育現場における子どもへの言葉がけ 子どもの気持ちに寄り添う対応の方法 子どもとの関わり　―大切なことは何か― 幼児がすすんで体を動かして遊ぶための環境づくり 特別な支援を必要としている子どもたち　―発達障害児を中心とした冊子制作― 発達が気になる子どもの保護者に対する子育てニーズ 子育てを支える支援場所 子育てひろばの役割 虐待を受けている子どもが安心して過ごせる場所について―施設実習を通して感じたことを中心に― 虐待による精神疾患とケア トラウマと感情を生み出す脳のしくみ いじめについての研究 絵本の物語をつくる　―すごくきれいなもの― 絵本をもとにした保育の実践 はらぺこあおむし　―くだものいっぱい― フェルトを使ったおもちゃ

	フェルトを使った遊べるおもちゃ　―焼肉しようよ― フェルトを使った遊べるおもちゃ　―おすしつくろうよ― 音楽はなぜ人の心を動かすのか 子どもと童謡の関係 世界の童謡 ディズニーの世界へ行こう！　―金管楽器と打楽器によるアンサンブル―
成　績　評　価	課題・レポート（20%）、授業への取り組み（50%）、発表・プレゼンテーション（10%）、その他（20%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	ルーブリック評価を用いた成績評価をお知らせする。
テキストおよび参考文献	自分の研究テーマにあった参考文献を各自で選択、購入すること
メッセージなど	２年間で学んだことの集大成となるよう取り組んで欲しいと思います。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。	研究の目的を明確にし、研究方法を適切に選択できる。研究計画書に必要な内容を記載できる。	テーマを設定し、研究計画書に必要な内容をほぼ記載することができる。	テーマは設定したが、研究計画書の記載には不足している点が認められる。	テーマが設定できず、研究計画書の提出の提出がない。	課題・レポート（知識・理解）	20%
(2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。	意欲を持ち、自ら考え、工夫し、指導教員からの助言・指導を受け入れて、研究を深めることができる。	ほぼ主体的に研究活動に取り組み、指導や助言を受け入れて研究を進めることができる。	研究活動に取り組む意欲はみられるが、自分で進めていこうとする力に欠けるところがある。	研究活動に取り組む姿勢がみられない。	授業への取り組み（思考力・表現力・創造性・協働性・問題解決力）	50%
(3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。	研究の成果を他者にわかりやすい方法で完璧に表現することができる。	ほぼ、わかりやすい方法で表現することができる。	わかりやすく表現するための工夫がやや不足している。	研究の成果を発表会で発表していない。	発表・プレゼンテーション（表現力）	10%
(4) 各自が発表した内容を報告集原稿として文章にまとめることができる。	研究の成果を適切に文章にまとめることができる。	書式に従い、ほぼ必要な内容を文章に記述することができる。	誤字、脱字をいくつか認め、記述内容も不明瞭であり、指導教員からの助言・指導を受ければ、報告集を提出できる。	報告集原稿提出なし。	その他（思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
児童文化財と子どもの遊び Cultural Assets for Children and　Playing	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCM2009	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	玉木 晃子	○

実務家教員の詳細	保育者としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	子どものあそびを通して、児童文化を学ぶ。 「保育」の中でのあそび・児童文化を学び、保育士に必要な資質、能力、技術の習得をはかる。	
到達目標	(1) 子どもの文化、あそびを昔と比較し、現代のあそび、保育の中での文化活動について説明することができる。	
	(2) 児童文化財を取り入れて保育を行うことについて自分の考えをのべることができる。	
	(3) 劇あそびを創ることを通して、子どもの文化に対する自分の考えを述べることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	子どもの文化を考える	自分の考えをまとめてくる	1 時間	話し合った内容をまとめる	1 時間
2	子どものあそびの変遷	自分の子ども時代のあそびをまとめてくる	1 時間	振り返りシートに基づきまとめる。	1 時間
3	現代の子どものあそび	今の子どものあそびを調べてくる	1 時間	振り返りシートに基づきまとめる。	1 時間
4	絵本について考える 絵本の歴史と種類	好きな絵本を１０冊選ぶ	1 時間	グループ毎の選ばれた絵本をまとめる	1 時間
5	絵本について考える 昔話	同じ題材の絵本を３冊選ぶ	1 時間	内容の違いについて比較表を作る。	2 時間
6	絵本について考える 絵本を選ぶ・読み聞かせをする	人前で絵本を読む練習をしてくる	1 時間	見やすい絵本の読み方を練習する。	1 時間
7	保育の中での行事を考える①	どういう行事があるか調べてくる	1 時間	振り返りシートに基づきまとめる。	1 時間

	8	保育の中での行事を考える②	行事に対する自分の考えをまとめてくる	1 時間	話し合った内容をまとめる。	1 時間
	9	「保育を創る」という考え方	配布資料を読んでくる	0.5 時間	振り返りシートに基づきまとめる。	1 時間
	10	あそびを創る① 劇あそびを創る	劇あそびにしたい絵本を選んでくる	1 時間	選んだ絵本を劇あそびにすることを考えて読み込んでくる。	1 時間
	11	あそびを創る② 劇あそびができるまで	配布資料を読んでくる	0.5 時間	振り返りシートに基づきまとめる。	1 時間
	12	あそびを創る③ 絵本から劇あそび	構想を練る	1 時間	自分なりの劇の流れをまとめてくる。	2 時間
	13	あそびを創る④ 台本・音楽・美術	具体的にどうするか考えてくる	1 時間	劇の主題歌になる曲を作ってくる。	2 時間
	14	あそびを創る⑤ 劇あそびのまとめ・発表	グループで必要なものを準備してくる	2 時間	発表した内容をまとめる	2 時間
	15	これからの子どもの文化・あそびについて	自分の考えをまとめてくる	1 時間	振り返りシートに基づきまとめる。	1 時間

成績評価	課題・レポート（50%）、授業への取り組み（35%）、グループワーク・グループ討議（15%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	提出されたものに対し、コメントを書き、返却する。
テキストおよび参考文献	講義資料：その都度配布 参考文献：授業の中で紹介
メッセージなど	絵本・人形劇・劇遊びなど保育の中で取り上げられがちなものについて関心を深められるように、わかりやすく実技を取り入れながら授業をすすめていきます。 保育士証：選択科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもの文化、あそびを昔と比較し、現代のあそび、保育の中での文化活動について説明することができる。	昔と現代のあそび、保育の中での文化活動について正しく認識し、ほぼ完璧に説明できる。	昔と現代のあそび、文化活動について大きな違いを誤りなく説明できる。	昔と現代のあそび、文化活動について最低限の説明ができる。	説明ができない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	20%
	自分の考えを述べることができる。	大きな間違いなく自分の考えを述べることができる。	最低限、自分の考えを述べることができる。	自分の考えをわかるように述べることができない。	課題・レポート（知識・理解）	20%
(2) 児童文化財を取り入れて保育を行うことについて自分の考えをのべることができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	最低限の説明ができる。	説明ができない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	15%
	自分の考えを述べることができる。	大きな間違いなく自分の考えを述べることができる。	最低限、自分の考えを述べることができる。	自分の考えをわかるように述べることができない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	15%
(3) 劇あそびを創ることを通して、子どもの文化に対する自分の考えを述べることができる。	子どもの文化に対する自分の考えを述べることができる。	大きな間違いなく自分の考えを述べることができる。	最低限、自分の考えを述べることができる。	自分の考えをわかるように述べることができない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	15%
	子どもの文化に対する自分の考えを述べることができる。	大きな間違いなく自分の考えを述べることができる。	最低限、自分の考えを述べることができる。	自分の考えをわかるように述べることができない。	グループワーク・グループ討議（創造性・協働性）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
現代教師論 Teaching Modern Teachers	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECBE1008	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	林 和子	○

実務家教員の詳細	保育者としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	子どもを取り巻く環境や家庭のあり方などの変化により、保育者に求められる役割や責務はますます多様化、高度化している。子どもが育つ環境条件や地域社会全体を視座に入れ、未来を担う子どもたちの保育・教育にあたる保育者の役割と倫理、専門性について学ぶ。 保育者としてだけでなく、人間として成長していくことと専門職としての成長について学ぶ。	
到達目標	(1)-1) 保育・幼児教育の目的とその担い手である保育者の存在意義について説明できる。	
	(1)-2) 他の職業と保育・幼稚園等教職である専門職を比較することを通して専門職について説明できる。	
	(2)-1) 子どもたちのおかれている社会の現状について具体的に述べることができる。	
	(2)-2) 保育・幼児教育観の変遷を踏まえ、今日の保育者に求められる役割を説明できる。	
	(2)-3) 現代の保育者に求められる基礎的な資質能力を説明できる。	
	(3)-1) 乳幼児への指導及び地域の子育て家庭への支援等、保育者の職務の全体像を説明できる。	
	(3)-2) 専門職として適切に職務を遂行するため、学び続けることの必要性、重要性を具体的に述べることができる。	
	(3)-3) 保育者に課せられる服務上、身分上の義務を説明できる。	
	(4)-1) 園内の保育者や専門性を持つ人材と連携し、組織的に諸課題に対応することの重要性について説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 現代教師論での学びについて	保育者ついての自分の考えをまとめてくる。	1時間	テキストを振り返る。	1時間
2	「保育者になる」ということ、保育者のイメージ	保育者の現状について考える。	1時間	子どもを取りまく事件等の記事をもとに自分の考えを描く。	1時間
3	「保育者になる」倉橋惣三【育ての心】から学ぶ。	倉橋惣三について調べる。	1時間	魅力的な保育者について自分の考えを描く。	1時間

	4	保育者の仕事内容と求められる役割と資質能力	自分の幼保時代の担任について振り返る。	1 時間	授業振り返り、求められる保育者について再度、考える。	1 時間
	5	「保育者」という仕事	保育者の一日について調べる。	1 時間	授業を振り返り保育者の仕事について整理する。	1 時間
	6	子どもの思いや育ちを理解する	子どもの求める理想の保育者像について自分の考えをまとめてくる。	1 時間	授業を振り返り、子ども理解について考える。	1 時間
	7	子どもと一緒に心と体を動かす仕事	子どもにとっての楽しい手遊びを調べておく。	1 時間	授業を振り返り、子どもの心を揺さぶる楽しい遊びを整理する。	1 時間
	8	０~２歳児の保育の重要性	０~２歳児保育の重要性について考える。	1 時間	保育者の連携・協働について整理する。	1 時間
	9	子どもの豊かな生活を生み出す保育者の在り方	自分の好きな絵本やお話を考えておく。	1 時間	他の人の発表から学んだことをまとめる。	1 時間
	10	子育て支援の重要性	テキストＰ２８～３２を読んでくる。	1 時間	学んだことを整理する。	1 時間
	11	保育者の専門性と省察	保育者の専門性について調べておく。	1 時間	授業を振り返り専門性について自分の考えをまとめる。	1 時間
	12	学び合う保育者:「語り合う」「学び合う」関係づくり	保育者の関係づくりとはどういうこと？を考える。	1 時間	保育者の学び合いの必要性について自分の考えを書く。	1 時間
	13	保育者の研修制度と制度上の位置づけ	これまでの授業を振り返っておく。	0.5 時間	授業内容を整理しておく。	1 時間
	14	まとめにかえて:服務上・身分上の義務及び身分保障	保育者としての義務について考えておく。	0.5 時間	授業内容を整理しておく。	1 時間
	15	まとめにかえて：生涯にわたって学ぶ意味	目指す保育者像について考えておく。	1 時間	目指す保育者像について整理する。	1 時間

成　績　評　価	課題・レポート（50%）、授業への取り組み（50%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対して自分の考えを書き、その都度コメントを伝える。
テキストおよび参　考　文　献	『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月　告示　文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月　告示　厚生労働省）
メッセージなど	教職とはどういうものなのか。人が人を育てることの重さを伝えながら、子どもや保護者と共に育っていける自分を発見できるようすすめていきます。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 保育・幼児教育の目的とその担い手である保育者の存在意義について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
(1)-2) 他の職業と保育・幼稚園等教職である専門職を比較することを通して専門職について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(2)-1) 子どもたちのおかれている社会の現状について具体的に述べることができる。	ほぼ完璧に述べることができる	大きな間違いがなく述べることができる	おおまかな現状については述べることができる	述べることができない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	5%
	ほぼ完璧に述べることができる	大きな間違いがなく述べることができる	おおまかな現状については述べることができる	述べることができない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
(2)-2) 保育・幼児教育観の変遷を踏まえ、今日の保育者に求められる役割を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(2)-3) 現代の保育者に求められる基礎的な資質能力を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
(3)-1) 乳幼児への指導及び地域の子育て家庭への支援等、教員（保育者）の職務の全体像を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(3)-2) 専門職として適切に職務を遂行するため、学び続けることの必要性、重要性を具体的に述べることができる。	ほぼ完璧に述べることができる	大きな間違いがなく述べることができる	おおまかな現状については述べることができる	述べることができない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(3)-3) 保育者に課せられる服務上、身分上の義務を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	5%
(4)-1) 園内の保育者や専門性を持つ人材と連携し、組織的に諸課題に対応することの重要性について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
学校教育の制度と経営 School Education System and School Management	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCM2009	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	正長 清志	

実務家教員の詳細		
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	・教育制度論は教育実践と密接に関連しており、これを深めていくにはさまざまな学問への広い知識も求められる。それは日本国憲法や教育基本法、学校教育法など多数の法規や教育制度を通じて具体化されていくため、法規や制度はいわば教育の現場を下支えする役割を負っている。そこで、現代の教育制度に関するさまざまな状況を取り上げ、日々の学校教育の営みと教育に関する法規などがどのように関わっているのかを理解することで、教員として基礎知識を習得するとともに、教育実習をとおして実践に取り組んできたことをふり返りながら考察していく。また同時に、地域にとって学校がどういう役割を果たすべきかを、学校と地域との連携および学校安全への対応などに関わる時事的な教育問題を視野に入れながら講義を進める。	
到達目標	(1) 教育行政や教育法規の動向から、教育制度に関する基本的な用語を中心に知識を深める。	
	(2) 日々の学校教育の営みから教育に関する法規などと、どのように関わっているのかプレゼンテーションをする。	
	(3) 現在の教育制度に関する具体的な改善案を自らの学習からふり返り、適切な改善が考察できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	社会の状況が学校に及ぼす影響		2 時間	課題レポート	2 時間
2	子どもを取り巻く生活環境の変化とこれに応じた教育政策の動向	第 1 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
3	日本の学校制度・教育制度をめぐる課題、海外の教育政策	第 2 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
4	教育行政と教育関連法規	第 3 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
5	学校組織のマネジメント　－学校評価ガイドラインを基に－	第 4 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
6	学級経営の基本・学級経営のあり方と課題	第 5 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
7	教職員や学校外の関係者との協働と今日的課題 －よりよい学校経営を目指して－	第 6 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
8	地域学校協働活動の推進に関する社会教育法の改正	第 7 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間

	9	地域学校協働活動とコミュニティ・スクール	第 8 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	10	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の理念・役割	第 9 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	11	学校の管理下で発生する事故や自然災害の実情、 学校安全のめざすべき姿・学校安全の目標	第 10 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	12	地域ぐるみの学校安全体制整備の実践事例	第 11 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	13	学校保健安全法に基づく学校安全の推進に関する計画、 学校安全計画及び危機管理マニュアルの策定	第 12 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	14	危機管理と安全教育の取り組み事例、教育委員会とスクールカウンセラーが協働した緊急支援の事例をもとに	第 13 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	15	「地域連携教育と学校安全」に関する現代的課題への対応	第 14 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（80%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（20%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	履修上の注意事項として、テキストを持参し、配付した資料を各自のファイルに整理し課題をふり返り、提出に備えてください。課題のフィードバックについては課題レポート提出後に解説を行います。質問は授業内で対応します。
テキストおよび参　考　文　献	【テキスト】 参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付します。オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。 【持参物】　記録ファイル
メッセージなど	学校は、知識や技術の習得のみならず、友達や教員など同世代・異世代の多様な人々との出会いを通じて、子どもたちに豊かな成長を保障する場でもあるのです。ですから、教育実践としての教育実習をとおして実践に取り組んできたことをふり返りながら、積極的に自分の意見を発表しながら考察していきましょう。 小学校教諭二種免許状：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 現在の教育制度に関する具体的な改善案を自らの学習からふり返り、適切な改善案がプレゼンテーションできる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・知識・理解）	20%
(2)教育行政や教育法規の動向から、教育制度に関する基本的な用語を中心に知識を深める。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	40%
(3) 日々の学校教育の営みから教育に関する法規などと、どのように関わっているのかを考察する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育原論 Principles of Education	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECBE1010	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	必修	中村 浩	○

実務家教員の詳細	教育委員会指導主事としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	教育の基本的概念や教育の理念について学び、教育を成り立たせている諸要因とそれら相互の関係を理解する。また、教育の歴史、思想や制度等を学び、これまでの教育及び学校の営みがどのように変遷してきたのかを理解し、学校を取り巻く今日的な教育課題について自分の考えや意見を述べることができる教師としての資質・能力を養う。	
到達目標	(1)-1) 教育原論とは何かが説明できる。	
	(1)-2) パスカルの言葉をもとに、教育とは何かについて説明できる。	
	(1)-3) 現代の学校制度や幼児教育制度ができた理由を、歴史的背景を踏まえて説明できる。	
	(1)-4) 教育方法の先人たちについて、その特色の概要を説明できる。	
	(2)-1) 古代から現代にいたる日本の教育の歴史を、時代ごとの特色を踏まえて説明できる。	
	(2)-2) 日本の教育の基本的なスタンスについて、学校教育法や教育基本法から説明できる。	
	(2)-3) 学校・園経営や学級経営の重要性を、具体的な事例をもとに説明できる。	
	(2)-4) 生徒指導や学習指導や保育活動について、その概要や考え方の基本を説明できる。	
	(2)-5) 教育評価について、それぞれの考え方の違いや評価方法について説明できる。	
	(2)-6) 社会教育や家庭教育について、その概要や考え方の基本を説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。「教育原論とは何か」が明確になる。	「教育は、何のためにあるのか」の資料を読む。	2時間	教育原論の概要について、内容をまとめる。	2時間
2	パスカルや孔子の言葉をもとに「教育とは何か」を考える。	「教育とは何か」の資料を読む。	2時間	カントや孔子の教育に関する考えについて、内容をまとめる。	2時間
3	古代から現代までの教育の歴史を「学校・園はどのようにしてできたのか」の視点で探ることで理解する。	教育の歴史(欧米)の資料を読む。	2時間	欧米の教育の歴史の概要について、内容をまとめる。	2時間
4	ソクラテスからデューイまで「教育の先人たち」の概要を学ぶことで、教育方法の歴史を理解する。	教育方法の歴史(欧米)の資料を読む。	2時間	教育方法の歴史(欧米)の概要について、内容をまとめる。	2時間

	5	古代から現代の教育基本法に至る「日本の教育」の歴史の概要を学ぶことで、日本の教育の目的を理解する。	日本の教育の歴史の資料を読む。	2 時間	日本の教育の歴史の概要をまとめる。	2 時間
	6	日本の学校教育・幼児教育の法的根拠を、演習問題を解くことで理解する。	学校教育と法規の資料を読む。	2 時間	学校教育に関する諸法規についてまとめる。	2 時間
	7	学校・園制度のあり方について、日本とドイツの違いから考察する。文部科学省と教育委員会、学校・園の関係を理解する。	学校制度と教育行政の資料を読む。	2 時間	学校制度のあり方について、内容をまとめる。	2 時間
	8	学校・園の責任者としての校長・園長の視点を通して、学校・園経営の仕組みや運営のあり方について理解する。	学校経営の資料を読む。	2 時間	学校経営のしくみや学校運営について、内容をまとめる。	2 時間
	9	学級担任になったつもりで「安心安全でいじめのない学級づくり」について、グループ学習で考えをまとめる。	学級経営の資料を読む。	2 時間	いじめのない学級づくりについて考え、内容をまとめる。	2 時間
	10	グループ学習での成果を発表し合うことで、担任としてもつべき「学級経営の基本的な構えと手だて」について理解する。	子どもの学級力の育成の資料を読む。	2 時間	学級経営の基本についてまとめる。	2 時間
	11	生徒指導の原理と方法について生徒指導提要をもとに学び、「生徒指導とは何か」について理解する。	生徒指導提要を読む。	2 時間	生徒指導とは何かについてまとめる。	2 時間
	12	学習指導や保育指導の原理と方法について具体的な授業例から学び、「授業とは何か」について理解する。	授業研究の資料を読む。	2 時間	授業づくりの基本について、内容をまとめる。	2 時間
	13	教育評価にまつわる基礎知識を学び、絶対評価と相対評価の考え方の違いやＰＤＣＡの意味について理解する。	教育評価の資料を読む。	2 時間	教育評価の基本についてまとめる。	2 時間
	14	教育の原点としての家庭教育のあり方について、具体的な事例をもとに考える。	家庭教育のあり方の資料を読む。	2 時間	家庭教育のあり方について、自分のことにあてはめて考え、内容をまとめる。	2 時間
	15	社会教育についての考え方の変遷について学び、生涯学習時代を生き抜く知恵について考える。	社会教育の資料を読む。	2 時間	社会教育についての基本をまとめる。	2 時間

成績評価	定期試験（50%）、授業への取り組み（50%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参考文献	テキスト：『やさしい教育原理』有斐閣アルマ 参考文献：『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月　文部科学省）』東洋館出版、 『幼稚園教育要領解説　（平成 30 年 3 月　文部科学省）』フレーベル館 『問いからはじめる教育学』有斐閣ストゥディア
メッセージなど	教育の根本的な理論について、その概要を学ぶ。授業 教育の未来について、考える楽しみを味わいながら、理解を深める授業 幼稚園教諭二種免許状：必修科目　保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 教育原論とは何かが説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	2%
(1)-2) パスカルの言葉をもとに、教育とは何かについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(1)-3) 現代の学校制度や幼児教育制度ができた理由を、歴史的背景を踏まえて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(1)-4) 教育方法の先人たちについて、その特色の概要を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2)-1) 古代から現代にいたる日本の教育の歴史を、時代ごとの特色を踏まえて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%

(2)-2) 日本の教育の基本的なスタンスについて、学校教育法や教育基本法から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2)-3) 学校･園経営や学級経営の重要性を、具体的な事例をもとに説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	8%
(2)-4) 生徒指導や学習指導や保育活動について、その概要や考え方の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2)-5) 教育評価について、それぞれの考え方の違いや評価方法について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2)-6) 社会教育や家庭教育について、その概要や考え方の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育心理学 Educational　Psychology	児童教育学科 幼児教育学専攻	24 ECUI1004	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	必修	馬場 弓歌	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。	○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。	○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。	○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。	○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。	○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。	○

概　　要	心理学の中でも教育分野に関連する内容を学ぶ。 学習・記憶・発達など教育に関連する基本的な内容を学習する。 学校内の様々事象・問題を心理学的視点から考える。
到達目標	(1)教育心理学の理論および基礎知識について説明できる。
	(2)教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について、説明できる。
	(3)現代社会における教育上の問題について心理学的観点から理解し説明できる。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	教育心理学とは何か概要を知る	—		配布資料の内容をまとめる。	2時間
2	教育心理学の歴史を理解する	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
3	学習理論について理解する	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
4	動機づけの種類と重要性を理解する	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
5	教育と発達（レディスネス）について理解する	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
6	学習方法について学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
7	記憶のメカニズムについて学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
8	教師・児童関係の重要性を理解する	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
9	学童期の発達特徴と課題を学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
10	児童の評価方法を学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
11	基本的な統計法を学び評価を実践する	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
12	教育現場でのカウンセリング的かかわりについて学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
13	学校で起こる様々な問題（不登校・いじめ）について学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間

	14	学校で起こる様々な問題（非行・その他）について学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	15	特別な支援が必要な児童への対応を学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	毎時の課題はコメントを書いて返却する。 試験はルーブリック評価に基づき結果を示す。
テキストおよび参　考　文　献	参考図書 『幼稚園教育要領解説　（平成 30 年 3 月　文部科学省）』フレーベル館 杉本明子・西本絹子・布施光代（2019）理論と実践をつなぐ教育心理学　みらい
メッセージなど	教育や子どもたちの抱える問題を心理学的視点から眺め、把握する力を身につけ理解を深めていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修，保育士証：必修，ピアヘルパー受験資格：必修

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)教育心理学の理論および基礎知識について説明できる。	教育心理学の理論や基礎知識について十分に説明することができる。	教育心理学の理論や基礎知識について概ね説明することができる。	教育心理学の理論や基礎知識について最低限の説明ができる。	教育心理学の理論や基礎知識について説明することができない。	定期試験（知識・理解・思考力）	20%
	内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。	内容について、自分の意見をもち、それを概ね表現することができる。	内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%
(2)教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について、説明できる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について十分に説明することができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について概ね説明することができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について最低限の説明ができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について説明することができない。	定期試験（知識・理解・思考力）	15%
	内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。	内容について、自分の意見をもち、それを概ね表現することができる。	内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(3)現代社会における教育上の問題について心理学的観点から理解し説明できる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から十分に説明することができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から概ね説明することができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から最低限の説明ができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から説明することができない。	定期試験（知識・理解・思考力）	15%
	内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。	内容について、自分の意見をもち、それを概ね表現することができる。	内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
発達心理学 Developmental Psychology	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECUI1005	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	馬場 弓歌	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	乳児期から児童期まで各発達時期における心理的な特徴と課題を理解する。 乳幼児の運動発達・言語発達・認知発達・社会発達について理解する。 それらの背後にある環境の重要性と、相互関係について理解する。 子どもの発達における保育者の役割について理解する。
到達目標	(1) 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 (2) 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 (3) 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション ― 発達心理学で何を学ぶか	配布資料を読む	2時間	配布資料を読み、まとめる	2時間
2	発達のしくみ ― 遺伝と環境、人間発達の特殊性	配布資料を読む	2時間	配布資料を読み、まとめる	2時間
3	知覚の発達 ― 子どもの知覚と記憶	配布資料を読む	2時間	配布資料を読み、まとめる	2時間
4	思考の発達 ― ピアジェの認知発達理論	配布資料を読む	2時間	配布資料を読み、まとめる	2時間
5	愛着 ― 母子相互作用、愛着、愛着障害	配布資料を読む	2時間	配布資料を読み、まとめる	2時間
6	自己の発達 ― 自己意識の発達と自己制御	配布資料を読む	2時間	配布資料を読み、まとめる	2時間
7	情動の発達 ― 情動を構成するものと情動の社会化	配布資料を読む	2時間	配布資料を読み、まとめる	2時間
8	社会的認知の発達① ― 他者理解の発達、愛他行動の発達	配布資料を読む	2時間	配布資料を読み、まとめる	2時間
9	社会的認知の発達② ― 道徳性の発達	配布資料を読む	2時間	配布資料を読み、まとめる	2時間

	10	言語発達① ― 言葉の発達とコミュニケーションの発達	配布資料を読む	2 時間	配布資料を読み、まとめる	2 時間
	11	言語発達② ― 書き言葉の発達	配布資料を読む	2 時間	配布資料を読み、まとめる	2 時間
	12	遊びの発達と友たち関係 ― 子どもの遊びとは、友だち関係の発達	配布資料を読む	2 時間	配布資料を読み、まとめる	2 時間
	13	さまざまな発達の障害① ― 身体的障害、言葉の障害、発達の障害	配布資料を読む	2 時間	配布資料を読み、まとめる	2 時間
	14	さまざまな発達の障害② ― 特別支援	配布資料を読む	2 時間	配布資料を読み、まとめる	2 時間
	15	全体のまとめ	配布資料を読む	2 時間	配布資料を読み、まとめる	2 時間

成　績　評　価	定期試験（70%）、授業への取り組み（15%）、グループワーク・グループ討議（15%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	試験の採点方法（試験の前）と得点（試験の後）について説明する。 クラスルーム上に毎回のワークシートの点数やコメントをフィードバックする。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：杉村伸一郎・山名裕子（編）（2019）保育の心理学　中央法規 ・適宜プリントを配布する 参考文献：向田久美子・石井正子（編）（2011）新乳幼児発達心理学　福村出版
メッセージなど	子どもの発達の特徴や個々の発達段階の課題ついて理解することによって、子どもに関する理解が深まり、子どもの発達についての関心が高まることが期待される。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：選択科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	35%
(2) 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	35%
(3) 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。	ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。	ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。	ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。	2/3 以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・思考力・表現力）	15%
(3) 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。	他者と自発的・積極的に議論や協働を行うことができている。	他者と自分なりに議論や協働を行うことができている。	受動的ではあるものの、他者と議論や協働を行うことができている。	他者と議論や協働を行うことができていない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度・思考力・表現力）	15%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
子ども家庭支援の心理学 Psychology of child and family support	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECUI2006	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	馬場 弓歌	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	生涯発達の視点から人の発達について、それぞれの発達段階の特徴を知ることを目的とする。また発達課題の連続性を考えながら人の一生をながめる視点を解説する。なかでも青年期以降の人の発達についてくわしく学び発達の連続性を知る。
到達目標	(1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を説明することができる。また初期経験の重要性や発達課題について説明することができる。
	(2) 家族・家庭の意義や機能を理解し、親子関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
	(3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明することができる。
	(4) 子どもの精神保健とその課題について説明することができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション			本時の内容をまとめる。	2 時間
2	生涯発達とは何か	第 1 章のエクササイズをまとめる。	2 時間	テキストの演習に取り組む。	2 時間
3	乳幼児期から学童期前期にかけての発達	第 2 章のエクササイズをまとめる。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
4	学童期後期から青年期にかけての発達	第 3 章のエクササイズをまとめる。	2 時間	テキストの演習に取り組む。	2 時間
5	成人期・老年期における発達	第 4 章のエクササイズをまとめる。	2 時間	テキストの演習に取り組む。	2 時間
6	子育てを取り巻く社会的状況	第 5 章のエクササイズをまとめる。	2 時間	テキストの演習に取り組む。	2 時間
7	家族・家庭の意義と機能	第 6 章のエクササイズをまとめる。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間

	8	親子・家族関係の理解	第 6 章を読む。	2 時間	テキストの演習に取り組む。	2 時間
	9	子育ての経験と親としての育ち	第7章のエクササイズをまとめる。	2 時間	テキストの演習に取り組む。	2 時間
	10	多様な家庭形態とその理解	第8章のエクササイズをまとめる。	2 時間	テキストの演習に取り組む。	2 時間
	11	特別な配慮を必要とする家庭	第9章のエクササイズをまとめる。	2 時間	テキストの演習に取り組む。	2 時間
	12	発達支援の必要な子どものいる家庭	第 10 章のエクササイズをまとめる。	2 時間	テキストの演習に取り組む。	2 時間
	13	子どもの精神保健	第 11 章のエクササイズをまとめる。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	14	子どもの精神保健	第 11 章を読む。	2 時間	テキストの演習に取り組む。	2 時間
	15	まとめ	毎時の課題をふりかえる。	2 時間	レポートを作成して提出する。	

成　績　評　価	課題・レポート（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（50%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	クラスルーム上にワークシートの点数やコメントをフィードバックする。 レポートはルーブリック評価に基づいて結果を示す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：青木紀久代（2019）シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学 みらい 適宜プリントを配布する
メッセージなど	これまでの自分、今の自分、これからの自分と照らし合わせながら講義の内容を考えていければと思います。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を説明することができる。また初期経験の重要性や発達課題について説明することができる。	生涯発達に関する基礎的な知識を十分に説明することができる。またその重要性や発達課題を十分に説明することができる。	生涯発達に関する基礎的な知識を十分に説明することができる。またその重要性や発達課題を概ね説明することができる。	生涯発達に関する基礎的な知識を説明することができる。またその重要性や発達課題の基礎的な部分を説明することができる。	生涯発達に関する基礎的な知識が説明できない。また、その重要性や発達課題を説明することができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（知識・理解・思考力）	20%
	生涯発達に関する基礎的な知識を十分に説明することができる。またその重要性や発達課題を十分に説明することができる。	生涯発達に関する基礎的な知識を十分に説明することができる。またその重要性や発達課題を概ね説明することができる。	生涯発達に関する基礎的な知識を説明することができる。またその重要性や発達課題の基礎的な部分を説明することができる。	生涯発達に関する基礎的な知識が説明できない。また、その重要性や発達課題を説明することができない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%

(2) 家族・家庭の意義や機能を理解し、親子関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	家庭の意義や機能を十分に説明することができる。また発達的観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を十分に述べることができる。	家庭の意義や機能を概ね説明することができる。また発達的観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を述べることができる。	家庭の意義や機能の基礎的な部分を説明することができる。また発達的観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を述べることができる。	家庭の意義や機能を説明することができない。また発達的観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を述べることができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（知識・理解・思考力）	10%
	家庭の意義や機能を十分に説明することができる。また発達的観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を十分に述べることができる。	家庭の意義や機能を概ね説明することができる。また発達的観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を述べることができる。	家庭の意義や機能の基礎的な部分を説明することができる。また発達的観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を述べることができる。	家庭の意義や機能を説明することができない。また発達的観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を述べることができない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	10%
(3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明することができる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について十分に説明することができる。また自分の意見を十分に述べることができる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について概ね説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についての基礎を説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明することができない。また自分の意見を述べることができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（知識・理解・思考力）	10%
	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について十分に説明することができる。また自分の意見を十分に述べることができる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について概ね説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についての基礎を説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明することができない。また自分の意見を述べることができない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	10%
(4) 子どもの精神保健とその課題について説明することができる。	子どもの精神保健とその課題について十分に説明することができる。また自分の意見を十分に述べることができる。	子どもの精神保健とその課題について概ね説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子どもの精神保健とその課題についての基礎を説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子どもの精神保健とその課題について説明することができない。また自分の意見を述べることができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（知識・理解・思考力）	10%
	子どもの精神保健とその課題について十分に説明することができる。また自分の意見を十分に述べることができる。	子どもの精神保健とその課題について概ね説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子どもの精神保健とその課題についての基礎を説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子どもの精神保健とその課題について説明することができない。また自分の意見を述べることができない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
子どもの理解と援助 Understanding and support of children	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECUI2007	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	幼児教員	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	保育士の仕事は，子どもを理解し，観察することから始まる。本科目では，子どもを理解する上で必要な視点や方法について学ぶ。また，グループ協議を通して，自分の意見を伝える態度や相手の意見を聴く態度を身につけていく。	
到達目標	(1) 実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義を説明することができる。	
	(2) 子どもの体験や学び過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を説明することができる。	
	(3) 子どもを理解するための具体的な視点や方法を表現することができる。	
	(4) 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について表現することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保育における子ども理解の意義			教科書の該当箇所を読む	2 時間
2	子どもの理解に基づく養護と教育の一体的展開	配布課題に取り組む	2 時間	教科書の該当箇所を読む	2 時間
3	子どもに対する共感的理解と保育	配布課題に取り組む	2 時間	教科書の該当箇所を読む	2 時間
4	子どもの生活と遊び	配布課題に取り組む	2 時間	教科書の該当箇所を読む	2 時間
5	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	配布課題に取り組む	2 時間	教科書の該当箇所を読む	2 時間
6	子どもの集団での育ち	配布課題に取り組む	2 時間	教科書の該当箇所を読む	2 時間
7	葛藤やつまずき	配布課題に取り組む	2 時間	教科書の該当箇所を読む	2 時間
8	保育の環境の理解と構成	配布課題に取り組む	2 時間	教科書の該当箇所を読む	2 時間
9	環境の変化や移行	配布課題に取り組む	2 時間	教科書の該当箇所を読む	2 時間
10	子どもを理解するための観察・記録・省察・評価	配布課題に取り組む	2 時間	教科書の該当箇所を読む	2 時間

	11	職員間の対話	配布課題に取り組む	2 時間	教科書の該当箇所を読む	2 時間
	12	保護者との情報共有	配布課題に取り組む	2 時間	教科書の該当箇所を読む	2 時間
	13	発達の課題に応じた援助と関わり	配布課題に取り組む	2 時間	教科書の該当箇所を読む	2 時間
	14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	配布課題に取り組む	2 時間	教科書の該当箇所を読む	2 時間
	15	発達の連続性と就学への支援	配布課題に取り組む	2 時間	教科書の該当箇所を読む	2 時間

成　績　評　価	グループワーク・グループ討議（30%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（70%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	毎回の課題にコメントをつけて返却する。
テキストおよび参　考　文　献	松本峰雄（監修）　『よくわかる！保育士エクササイズ 8　子どもの理解と援助演習ブック』ミネルヴァ書房
メッセージなど	子ども理解に必要な知識を習得し，さまざまな視点から子どもたちを観察する姿勢を養いましょう。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義を説明することができる。	具体例を挙げて説明することができる。	ポイントを押さえて説明することができる。	何とか説明することができる。	説明することができない。	毎回の授業の感想･振り返り､毎回の授業課題（知識・理解）	10%
(2) 子どもの体験や学び過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を説明することができる。	具体例を挙げて説明することができる。	ポイントを押さえて説明することができる。	何とか説明することができる。	説明することができない。	毎回の授業の感想･振り返り､毎回の授業課題（知識・理解）	10%
(3) 子どもを理解するための具体的な視点や方法を表現することができる。	具体例を挙げて説明することができる。	ポイントを押さえて説明することができる。	何とか説明することができる。	説明することができない。	毎回の授業の感想･振り返り､毎回の授業課題（知識・理解）	40%
(3) 子どもを理解するための具体的な視点や方法を表現することができる。	具体例を挙げて，自分の意見を相手に伝えることができる。	自分の意見を概ね相手に伝えることができる。	自分の意見を何とか相手に伝えることができる。	自分の意見を相手に伝えることができない。	グループワーク･グループ討議（思考力・判断力・表現力）	20%
(4) 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について表現することができる。	具体例を挙げて説明することができる。	ポイントを押さえて説明することができる。	何とか説明することができる。	説明することができない。	毎回の授業の感想･振り返り､毎回の授業課題（知識・理解）	10%
(4) 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について表現することができる。	具体例を挙げて，自分の意見を相手に伝えることができる。	自分の意見を概ね相手に伝えることができる。	自分の意見を何とか相手に伝えることができる。	自分の意見を相手に伝えることができない。	グループワーク･グループ討議（思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
発達心理学Ⅱ（行動観察法） Developmental PsychologyⅡ （Method in behavioral observation）	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECUI2008	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1	選択	馬場 弓歌	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	私たちは相手の表情と行動を見たり解釈したりすることによって、その人の心理状態を推測する。本授業では、観察法という研究方法の基本と、観察によるデータの収集および分析の方法について、演習・ディスカッションをしながら学ぶ。
到達目標	(1) 人間の行動・心理を観察によって測定する方法を理解し、説明することができる。
	(2) 行動観察法の実施、データの収集・分析・報告ができる。
	(3) 行動観察法を用いた調査の結果を他の人にも分かるように発表するとともに、得られたデータに基づいてディスカッションを行うことができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション― 行動観察とは何か		2 時間	もう一度資料を読む	2 時間
2	時間見本法　― 理論、技法の説明	配布資料を読む	2 時間	もう一度資料を読む	2 時間
3	時間見本法　― 記録練習と分析の事例説明	配布資料を読む	2 時間	もう一度資料を読む	2 時間
4	時間見本法　―記録練習と分析の事例説明・演習	配布資料を読む	2 時間	もう一度資料を読む	2 時間
5	時間見本法　―演習	配布資料を読む	2 時間	もう一度資料を読む	2 時間
6	時間見本法　―発表･ディスカッション	配布資料を読む	2 時間	もう一度資料を読む	2 時間
7	事象見本法　― 理論、技法の説明	配布資料を読む	2 時間	もう一度資料を読む	2 時間
8	事象見本法　― 記録練習と分析の事例説明・演習	配布資料を読む	2 時間	もう一度資料を読む	2 時間
9	事象見本法　― 演習	配布資料を読む	2 時間	もう一度資料を読む	2 時間
10	事象見本法　―発表･ディスカッション	配布資料を読む	2 時間	もう一度資料を読む	2 時間

	11	参与観察法　— 理論、技法の説明	配布資料を読む	2 時間	もう一度資料を読む	2 時間
	12	参与観察法　— 記録練習と分析の事例説明・演習	配布資料を読む	2 時間	もう一度資料を読む	2 時間
	13	参与観察法　— 演習	配布資料を読む	2 時間	もう一度資料を読む	2 時間
	14	参与観察法　—発表･ディスカッション	配布資料を読む	2 時間	もう一度資料を読む	2 時間
	15	全体のまとめ	配布資料を読む	2 時間	レポート作成	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（50%）、授業への取り組み（10%）、発表・ディスカッション（30%）、グループワーク・グループ討議（10%）
課題（試験･レポート等）に対する フィードバックの方法	授業の演習に応じてワークシートに取り組む。ワークシートの記載内容に応じて授業中に学生・教員を含めたディスカッションを行う。期末課題として、レポート作成を課す。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：プリントを配布する 参考書： 中澤・大野木・ 南（1997）心理学マニュアル—観察法—　北大路書房
メッセージなど	保育現場での調査や実験を演習として行います（例：令和３年度は ICT を利用した絵本の読み聞かせの実験を実施。調査・実験内容は年度による変更あり）。演習の受け入れ先の予定に応じて授業時間が変更になることがありますのでご注意ください。また、グループワークを中心とした授業があります。 保育士証：選択科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 人間の行動・心理を観察によって測定するとはどういうことかという基本的な考え方を理解し、説明することができる。	ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。	ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。	ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。	2/3 以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
	他者と自発的・積極的に議論や協働を行うことができている。	他者と自分なりに議論や協働を行うことができている。	受動的ではあるものの、他者と議論や協働を行うことができている。	他者と議論や協働を行うことができていない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度）	10%
(2) 行動観察法の実施、データの収集・分析・報告ができる。	十分に調べられて、説得力のある資料である。	調べられて、説得力のある資料である。	調べが不足している、説得力が不足している。	調べが全く不足している、説得力がない	課題・レポート（知識・理解）	50%
(3) 行動観察法を用いた調査の結果を他の人にも分かるように発表するとともに、得られたデータに基づいてディスカッションを行うことができる。	調査結果を十分に伝えることができるとともに、積極的にディスカッションを行うことができる。	調査結果を概ね伝えることができ、ディスカッションを行うことができる。	発表方法やディスカッションの方法を改善する必要がある。	調査結果を聞き手に伝えることができない。	発表･ディスカッション（思考力・判断力・表現力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
臨床心理学 Clinical psychology	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECUI2009	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	馬場 弓歌	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	社会には様々な精神疾患があり、自分自身あるいは身近な人に起こり得ることである。臨床心理学では、心理的な問題をもつ個人の状態を理解し、適切な援助を行うことを目的としている。本講義では、精神疾患の特徴と臨床心理学の理論などについて解説する。一部，ピアヘルパーに関する内容を扱う。
到達目標	(1) 様々な臨床心理学の理論と支援方法について説明することができる。 (2) 精神疾患について理解し、特徴を説明することができる。 (3) 精神疾患についてこれまでの経験と関連づけながら理解し、表現することができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション、臨床心理学とは	—		本時の内容をまとめる。	2 時間
2	ストレスについて	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
3	不安症	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
4	うつ病、双極性障害	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
5	統合失調症	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
6	心的外傷後ストレス障害	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
7	依存症	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
8	パーソナリティ障害	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
9	性別違和	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
10	臨床心理学の理論①：精神分析	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
11	臨床心理学の理論②： 認知行動療法	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
12	臨床心理学の理論③： クライエント中心療法	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間

	13	ピアヘルパー①：カウンセリング概論	ハンドブックを読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	14	ピアヘルパー②：カウンセリングスキル	ハンドブックを読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	15	ピアヘルパー③：青年期の課題と留意点	ハンドブックを読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（20%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（80%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	毎時の課題にはコメントを書いて返却する。 レポートは、ルーブリック評価に基づいて結果を示す。
テキストおよび参　考　文　献	プリントを配布する 参考図書：藤田 哲也・串崎 真志（2016）　絶対役立つ臨床心理学: カウンセラーを目指さないあなたにも　ミネルヴァ書房 ピアヘルパーの受験希望者は，日本教育カウンセラー協会が出版しているハンドブックとワークブックの購入が必要です。
メッセージなど	本講義を通して、自分自身や周りの人のことを考えるきっかけにしてください。 保育士証：選択科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 様々な臨床心理学の理論と支援方法について説明することができる。	様々な臨床心理学の理論と支援方法の知識を十分に獲得し、それぞれの違いを比較しながら説明することができる。	様々な臨床心理学の理論と支援方法の知識を概ね獲得し、それぞれを説明することができる。	様々な臨床心理学の理論と支援方法の基礎的な知識を獲得し、それぞれを説明することができる。	様々な臨床心理学の理論と支援方法を説明することができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（知識・理解・思考力）	30%
(2) 精神疾患について理解し、特徴を説明することができる。	各精神疾患について理解し、特徴を十分に説明することができる。	各精神疾患について理解し、特徴を概ね説明することができる。	各精神疾患について理解し、最低限の特徴を説明することができる。	各精神疾患について理解できず、特徴について説明することができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（知識・理解・思考力）	50%
(3) 精神疾患についてこれまでの経験と関連づけながら理解し、表現することができる。	講義の内容とこれまでの経験を関連づけ、それを十分に表現することができる。	講義の内容とこれまでの経験を関連づけ、それを概ね表現することができる。	講義の内容とこれまでの経験を関連づけているが、それを表現することが不十分である。	講義の内容とこれまでの経験を関連づけることができず、表現することができない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
特別支援教育 Special Support Education	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECUI1010	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	竹内 幹雄	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	発達障害を含む様々な障害や、その他の要因により特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の心身の発達、障害の特性を理解するとともに、学習上、生活上の困難とその背景について理解する。その上で、特別の支援を必要とする幼児児童生徒が、達成感をもちながら学び、生きる力を身につけることができるよう、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用の方法について、事例に基づき実践的に学んでいく。さらに、インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度や法令の内容を理解し、個別の教育的ニーズに対して学校における組織的な支援体制の在り方、関係機関との連携の在り方についても理解を深める。	
到達目標	(1)-1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。	
	(1)-2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を説明できる。	
	(1)-3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について説明できる。	
	(2)-1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する支援の方法について説明できる。	
	(2)-2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を説明できる。	
	(2)-3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を説明できる。	
	(2)-4) 特別支援教育コーディネーター・関係諸機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明できる。	
	(3)-1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上は生活上の困難や組織的な対応の必要性を説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	特別支援教育の歴史について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2時間	疑問点等について調べる	2時間
2	特別支援教育における対象となる幼児児童生徒について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2時間	疑問点等について調べる	2時間
3	障害児の理解（1）　概念と就学基準について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2時間	疑問点等について調べる	2時間
4	障害児の理解（2）　心理と行動特性について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2時間	疑問点等について調べる	2時間

	5	特別支援教育の場について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	6	特別支援教育の教育課程について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	7	障害児の教育支援（1）学習指導要領、指導計画の作成を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	8	障害児の教育支援（2）自立活動、日常生活の指導を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	9	障害児の教育支援（3）各教科、遊びの指導を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	10	個別の教育支援計画をもとにした教育支援について理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	11	特別支援学級における教育の実際について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	12	特別支援学校における教育の実際について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	13	障害児のライフステージと特別支援教育について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	14	障害はないが特別の教育ニーズのある幼児の把握と支援を学ぶとともに、特別支援教育のこれからについて考察する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	15	特別支援教育にかかわる専門性について考察する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間

成　績　評　価	定期試験（知識・理解）（70%）、毎回の授業の感想・振り返り（思考力）（30%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かれた感想や質問について、代表的なものをピックアップし次の授業時にコメントする。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：「障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導」 （令和 5 年 3 月文部科学省厚生労働省内閣府）HP 参考文献：『特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部（平成 30 年 3 月　文部科学省）』
メッセージなど	特別支援教育は、人として生きていくうえで、最も大切な教育の一つです。3 月に出た資料を使って最新の情報を一緒に学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	6%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	11%
(1)-2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
(1)-3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
(2)-1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する支援の方法について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	6%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	11%
(2)-2)「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%

(2)-3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
(2)-4) 特別支援教育コーディネーター・関係諸機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
(3)-1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上は生活上の困難や組織的な対応の必要性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育方法学 Educational Method	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCM1010	１年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	加藤　浩久・平田 睦美	○

実務家教員の詳細	教育委員会指導主事・公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	「学習指導」を念頭に、授業を成立させるための要件を「目標→方法→評価」の観点から学習し、教育方法にかかる理論と実践について学習する。併せて、学校教育の今日的な課題を意識した実践者としての素養と指導力を醸成する。 また、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身につける。子どもの発達や興味・関心に応じて授業・保育の内容を考え、教育者に必要とされる教材の工夫、授業・保育の展開、教師の働きかけと援助について学ぶ。	
到達目標	(1)-1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。	
	(1)-2) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の在り方を理解している。	
	(1)-3) 学級・幼児及び児童、教員、教室・保育室、教材など授業、保育環境を構成するための基礎的な要件を理解している。	
	(1)-4) 育みたい資質・能力と幼児・児童理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。	
	(2)-1) 子どもへの働きかけや援助など、授業・保育を行なう上での基礎的な技術を身に付けている。	
	(2)-2) 子どもの発達に応じて授業・保育のねらいと内容を考え、教材・教具を準備し、授業・保育の展開を考えて指導計画案を作成することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。「教育方法学とは何か」が明確になる。 （加藤・平田）	「今、なぜ教育方法学なのか」を読む。	2 時間	教育方法学の概要についてまとめる。	2 時間
2	これまで多くの実践者が依拠してきた授業の基本原理と、教育方法学に流れるエスプリについて理解する。 （加藤）	自分が受けてきた授業の長所や短所を想起する。	2 時間	三つの精神を確認する。	2 時間
3	現行の学習指導要領によって構築される教育課程の構造について理解する。（加藤）	総則編を読む。	2 時間	教科と領域の関係を振り返る。	2 時間

	4	指導案作成の実際をもとに「授業をデザインすること」の意義について理解する。(加藤)	「第７章」を読む。	2 時間	授業の一般的な構造について振り返る。	2 時間
	5	教材という視点から「授業のデザイン」について理解する。(加藤)	「第８章」を読む。	2 時間	教材という概念の多様性を振り返る。	2 時間
	6	学習評価という視点から「授業のデザイン」について考える。　(加藤)	「第９章」を読む。	2 時間	目標に準拠した評価の理念と方法について振り返る。	2 時間
	7	教科外活動という視点から「授業のデザイン」について考える。(加藤)	「第１０章」を読む。	2 時間	集団を育てることの効果の大きさを振り返る。	2 時間
	8	教師(授業者)の特性という視点から「授業のデザイン」について考える。(加藤)	「第１１章」を読む。	2 時間	教師のスタンスによる効果と弊害についてまとめる。	2 時間
	9	子どもの資質・能力を育むために、幼児教育で何が必要とされているかについて学ぶ。(平田)	幼稚園教育要領総則を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	10	遊びの重要性を理解し、遊びを充実させるための教師の援助や環境構成について理解する。(平田)	配布資料を読む。	2 時間	ペープサート・パネルシアターを作成する。	2 時間
	11	授業・保育を展開するための教材について検討する。　(平田)	配布資料を読む。	2 時間	ペープサート・パネルシアターを作成する。	2 時間
	12	教材を作成し、その使い方や演じ方について学ぶ。(平田)	配布資料を読む。	2 時間	ペープサート・パネルシアターの練習をする。	2 時間
	13	子どもの実態に応じたねらいや内容を考え、指導案を立案し、模擬保育を行う。(平田)	配布資料を読む。	2 時間	模擬保育の振り返りをまとめる。	2 時間
	14	実践を通し、反省・評価・改善を反映させた指導計画の立案について理解する。(平田)	配布資料を読む。	2 時間	指導計画についての考え方をまとめる。	2 時間
	15	子どもに育みたい資質・能力に基づいた評価について学ぶ。また、全15回の学習内容を振り返り、教育方法についての理解を深める。 (加藤・平田)	これまでの授業資料を読み直す。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験(40%)、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ(30%)、課題・レポート(30%)、
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。 レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ、幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省） 参考文献：『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省)』東洋館出版 文部科学省『幼稚園教育指導資料第５集』チャイルド本社
メッセージなど	教壇に立って役に立つ理論や方法を模擬授業的に学習する授業です。グループ討議やグループでの教材作成、模擬保育などの保育実践を行い、学生の主体的な学びを重視します。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-2) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の在り方を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-3) 学級・幼児及び児童、教員、教室・保育室、教材など授業、保育環境を構成するための基礎的な要件を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-4) 育みたい資質・能力と幼児・児童理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-1) 子どもへの働きかけや援助など、授業・保育を行なう上での基礎的な技術を身に付けている。	ほぼ完璧に身につけている	大きな間違いがなく、基本を身につけている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	身についていない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（技能・判断力・表現力）	30%
(2)-2) 子どもの発達に応じて授業・保育のねらいと内容を考え、教材・教具を準備し、授業・保育の展開を考えて指導計画案を作成することができる。	ほぼ完璧に作成できる。	子どもの発達にほぼ即した内容の指導案が作成できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本をおさえて作成できる。	作成できていない。	指導案（思考力・表現力）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 Theory and method of education utilizing information and communication technology	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCM1011	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1	選択	寺本　公思	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	日々進化するICT機器を活用した授業実践は児童の情報活用能力の育成には不可欠である。そのため、教師を目指す学生はICT機器について十分理解する必要がある。この授業では情報通信機器を効果的に活用した学習指導や校務の推進と児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。	
到達目標	(1) 様々なICT機器について理解する。	
	(2) 授業の目標実現に最適なICTを活用した授業計画を立てることができる。	
	(3) 授業においてICT機器を活用できる実践力を養う。	

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を開始した。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、情報通信技術の活用について学ぶ	ICT機器の活用について調べる	2時間	ICT機器の活用についてまとめる	2時間
2	情報通信技術を効果的に活用した指導の実践例について学ぶ	ICT機器を活用した指導例について調べる	2時間	ICT機器を活用した指導例についてまとめる	2時間
3	情報通信技術を効果的に活用した教材の作成について学ぶ	ICT機器を活用した教材について調べる	2時間	ICT機器を活用した教材についてまとめる	2時間
4	ICT機器を使った授業での情報モラルについて理解する	ICT機器を使った情報モラルについて調べる	2時間	ICT機器を使った情報モラルについてまとめる	2時間
5	教育情報セキュリティの重要性について学ぶ	教育での情報セキュリティについて調べる	2時間	情報セキュリティについてまとめる	2時間
6	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践（国語・社会）	ICT活用の指導実践について調べる(国語・社会)	2時間	ICT機器活用の指導実践についてまとめる	2時間

	7	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践（算数・理科）	ICT 活用の指導実践について調べる(算数・理科)	2 時間	ICT機器活用の指導実践についてまとめる	2 時間
	8	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践（外国語・総合的な学習の時間)	ICT 活用の指導実践について調べる(外国語・総合学習)	2 時間	ICT機器活用の指導実践についてまとめる	2 時間
	9	児童に情報通信機器の基本的な操作を身に付けさせるための指導法について学ぶ	ICT機器の基本操作の指導法について調べる	2 時間	ICT機器の基本操作の指導法についてまとめる	2 時間
	10	特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用について学ぶ	特別の支援を必要とする児童に対するICT機器の活用について調べる	2 時間	特別の支援を必要とする児童に対するICT機器の活用についてまとめる	2 時間
	11	遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を学ぶ	遠隔授業やオンライン教育について調べる	2 時間	遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムについてまとめる	2 時間
	12	学習履歴（スタディ・ログ）など教育データの活用法について学ぶ	教育データの活用について調べる	2 時間	教育データの活用についてまとめる	2 時間
	13	情報通信技術を活用した統合型校務支援システムについて学ぶ	ICTを活用した校務支援システムについて調べる	2 時間	ICTを活用した校務支援システムについてまとめる	2 時間
	14	学校における情報通信技術環境の整備における外部人材や外部機関との連携について学ぶ	ICT環境の整備における外部人材等の活用について調べる	2 時間	ICT環境の整備における外部人材等の活用についてまとめる	2 時間
	15	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進についてのまとめ	ICT機器を効果的に活用した事例について調べる	2 時間	ICT機器を効果的に活用した事例についてまとめる	2 時間
	第 6 回、7 回、8 回に、幼児との体験との関連を考慮し、情報通信機器を活用して効果的に教材等を作成、提示する方法を学ぶ内容を取り入れる。					

成　績　評　価	授業への取り組み（30%）、プレゼンテーション(40%)、提出物（30%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	調査レポートなどの返却によるフィードバック。レポートなどは、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：自作プリント、幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
メッセージなど	ICT 機器の活用はこれからの教育にとって必須であり、様々な機器についての理解を深めてほしい。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)様々なICT機器について理解する。	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	課題・レポート（知識・理解）	10%
	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	授業への取り組み（知識・理解）	15%
(2)授業の目標実現に最適なICTを活用した授業計画を立てることができる	ICT機器について十分に理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT機器についてについて概ね理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT機器について概ね理解ができているが、事業計画を十分に実践することができない。	ICT機器について理解が不十分であり、授業計画実践することが出来ない。	課題・レポート（関心・意欲・理解・思考力）	10%
	ICT機器について十分に理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT機器についてについて概ね理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT機器について概ね理解ができているが、事業計画を十分に実践することができない。	ICT機器について理解が不十分であり、授業計画実践することが出来ない。	授業への取り組み（関心・意欲・理解・思考力）	15%
(3)授業においてICT機器を活用できる実践力を養う。	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	課題・レポート（関心・意欲・理解・思考力）	10%
	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができているが、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	発表・プレゼンテーション等（関心・意欲・理解・思考力）	40%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
情報処理実習Ⅰ Information Processing Practice　Ⅰ	児童教育学科 幼児教育学専攻	24EPIE1001	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
実習	1	選択	中谷　滋	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	日常生活や諸活動における情報活用の基本的な知識について理解するとともに、ワープロソフトウェアを利用した基本的・応用的文書の作成及び表計算ソフトウェアを利用した基本的な表や各種機能を利用した表の作成を学ぶ。
到達目標	(1) 基本的・応用的文書の作成ができる。
	(2) 基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和３年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス、情報の活用	テキスト 4 ページから 31 ページを読んでおく。	1 時間	文字入力の基本操作を復習する。	1 時間
2	文書の作成①　－基本的文書－	テキスト 32 ページから 52 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。	1 時間
3	文書の作成②　－文字の修飾－	テキスト 53 ページから 62 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。	1 時間
4	文書の作成③　－表の活用－	テキスト 63 ページから 76 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。	1 時間
5	文書の作成④　－図形の活用－	テキスト 77 ページから 84 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。	1 時間
6	文書の作成⑤　－画像の活用－	テキスト 85 ページから 91 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。	1 時間

	7	文書の作成⑥ －総合問題①－	ビジネス文書の作成①から⑤の復習をしておく。	1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。	1 時間
	8	文書の作成⑦ －総合問題②－	ビジネス文書の作成①から⑤の復習をしておく。	1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。	1 時間
	9	表の作成① －データ入力－	テキスト 96 ページから 111 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1 時間
	10	表の作成② －基本的なワークシート編集－	テキスト 112 ページから 117 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1 時間
	11	表の作成③ －関数・ｾﾙ参照・罫線・行の挿入－	テキスト 120 ページから 137 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1 時間
	12	表の作成④ －グラフ－	テキスト 142 ページから 148 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1 時間
	13	表の作成⑤ －条件判定と順位付け・検索関数－	テキスト 152 ページから 166 ページを読んでおく。	1 時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1 時間
	14	表の作成⑥ －総合問題①－	表の作成①から⑤の復習をしておく。	1 時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1 時間
	15	表の作成⑦ －総合問題②－	表の作成①から⑤の復習をしておく。	1 時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1 時間

成　績　評　価	定期試験（40%）、授業への取り組み（60%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	演習課題の達成度から学生の知識・理解度を確認し、演習内容を検討し、目標達成を目指す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：「30 時間でマスター　Office2016」　実教出版企画開発部 編　実教出版
メッセージなど	小学校教諭二種免許状：必修科目 「人生 100 年時代の社会人基礎力」を身に着けていきましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 基本的・応用的文書の作成ができる。	ほぼ完璧に基本的・応用的文書の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的・応用的文書の作成ができる。	基本的文書の作成はできるが、応用的文書の作成ができていない。	基本的・応用的文書の作成ができていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・技能・思考力）	30%
	ほぼ完璧に基本的・応用的文書の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的・応用的文書の作成ができる。	基本的文書の作成はできるが、応用的文書の作成ができていない。	基本的・応用的文書の作成ができていない。	定期試験（知識・理解・技能）	20%
(2) 基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	ほぼ完璧に基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	基本的な表の作成はできるが、各種機能を利用した表の作成ができていない。	基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・技能・思考力）	30%
	ほぼ完璧に基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	基本的な表の作成はできるが、各種機能を利用した表の作成ができていない。	基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができていない。	定期試験（知識・理解・技能）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
情報処理実習Ⅱ Information Processing Practice Ⅱ	児童教育学科 幼児教育学専攻	24EPIE1002	1年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
実習	1	選択	中谷　滋	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	プレゼンテーションの重要性や基礎的な知識と技術について理解するとともに、プレゼンテーションソフトウェアを活用した資料作成方法や効果的なプレゼンテーション技法について理解する。 各自がテーマ設定を行い、プレゼンテーションソフトウェアを活用して資料の作成と発表を行う。
到達目標	(1) プレゼンテーションソフトウェアを活用して分かりやすい資料の作成ができる。
	(2) 発表に係るレジュメの作成ができる。
	(3) 作成した資料を用いて正確で分かりやすい発表ができる。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和３年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	ガイダンス スライドの作成①　－文字修飾と図形の活用－	テキスト194ページから209ページを読んでおく。	1時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1時間
2	スライドの作成②　－グラフの活用－ スライドの作成③　－SmartArt の活用とアニメーション効果－	テキスト210ページから217ページを読んでおく。	1時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1時間
3	スライドの作成④　－表の活用と画像の挿入－ スライドの作成⑤　－ワードアートの挿入－	テキスト218ページから225ページを読んでおく。	1時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1時間
4	スライドの作成⑥　－その他の機能－ スライドの作成⑦　－総合演習①－	テキスト226ページから231ページを読んでおく。	1時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1時間
5	スライドの作成⑧　－総合演習②－	スライドの作成①から⑥の復習をしておく。	1時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1時間
6	スライドの作成⑨　－総合演習③－	スライドの作成①から⑥の復習をしておく。	1時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1時間

	7	スライドショーと資料作成	テキスト 232 ページから 239 ページを読んでおく。	1 時間	スライドショーと資料作成について復習する。	1 時間
	8	発表テーマの検討	発表テーマに関する情報を収集しておく。	1 時間	発表テーマ決定のために収集した情報を整理する。	1 時間
	9	発表テーマの決定	発表テーマに関するストーリーを考えておく。	1 時間	プレゼンテーションストーリーシートを完成させる。	1 時間
	10	発表用スライドの作成①	スライドの作成条件を確認し、構成を考えておく。	1 時間	発表の意図が伝わるスライドになっているか確認する。	1 時間
	11	発表用スライドの作成②	スライドの作成条件を確認し、構成を考えておく。	1 時間	発表の意図が伝わるスライドになっているか確認する。	1 時間
	12	レジュメと発表用原稿の作成	レジュメと発表用原稿の作成について準備しておく。	1 時間	発表のリハーサルを行う。	1 時間
	13	発表①	発表のリハーサルをしておく。	1 時間	発表の評価を整理する。	1 時間
	14	発表②	発表のリハーサルをしておく。	1 時間	発表の評価を整理する。	1 時間
	15	まとめ	発表の成果と課題をまとめておく。	1 時間	発表の成果と課題を整理する。	1 時間

成　績　評　価	課題・レポート（10%）、授業への取り組み（60%）、発表・プレゼンテーション（30%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	演習課題の達成度から学生の知識・理解度を確認し、演習内容を検討し、目標達成を目指す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：「30 時間でマスター　Office2016」　実教出版企画開発部 編　実教出版
メッセージなど	小学校教諭二種免許状：必修科目 「人生 100 年時代の社会人基礎力」を身に着けていきましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) プレゼンテーションソフトウェアを活用して分かりやすい資料の作成ができる。	とても分かりやすい資料の作成ができる。	分かりやすい資料の作成ができる。	最低限の資料作成ができる。	資料の作成ができていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・技能・思考力）	60%
(2) 発表に係るレジュメの作成ができる。	とても分かりやすいレジュメの作成ができる。	分かりやすいレジュメの作成ができる。	最低限のレジュメ作成ができる。	レジュメの作成ができていない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(3) 作成した資料を用いて正確で分かりやすい発表ができる。	とても正確で分かりやすい発表ができる。	正確で分かりやすい発表ができる。	最低限の発表ができる。	発表ができていない。	発表・プレゼンテーション（意欲・態度・技能・表現力・創造性）	30%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児教育課程論 Curriculum Theory for kindergarten	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECBE1011	１年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2		中原 久子	○

実務家教員の詳細	幼稚園教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	乳幼児の保育は、生涯にわたる「生きる力」の基礎となる資質・能力の“３つの柱”を培う大切な時期である。保育の目標を達成するためには、保育の基本となる、「教育課程」「保育課程」を編成するとともに、具体化した「指導計画」を作成しなければならないことへの理解を深める。なお、各年齢別の発達過程を踏まえ、計画、実践、省察、評価、改善を図る重要性を学ぶ。	
到達目標	(1)-1) 幼稚園教育に示された５領域のねらい・内容及び内容の取扱いを理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。	
	(1)-2) 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。	
	(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本の説明ができる。	
	(2)-2) 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。	
	(2)-3) 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。	
	(2)-4) 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。	
	(3)-1) 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。	
	(3)-2) “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼稚園教育の基本・目標及び今日の幼児教育の在り方について	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
2	幼稚園教育要領に示された「生きる力」の基礎となる資質・能力の“３つの柱”について	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
3	幼稚園教育の各領域のねらい・内容・内容の取扱いについて	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
4	「教育課程」「保育課程」について理解する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間

	5	「教育課程」「保育課程」から「指導計画」作成の基本とその方法を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	6	乳児の特徴と指導計画について学ぶ(０～1・２歳児)	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	7	３歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	8	３歳時の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	9	４歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまめノートを作る	0.75時間
	10	４歳児の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	11	５歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	12	５歳児の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	13	幼稚園教育におけるカリキュラム･マネジメントとＰＤＣＡサイクルについて理解する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	14	指導計画と教育課程･保育課程の評価について理解する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間
	15	生活と発達の連続性を踏まえた幼稚園･保育所の要録について学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75時間

成績評価	定期試験（21%）、課題・レポート（17%）、指導案（12%）、教材作成（7%）、授業への取り組み（12%）、グループワーク・グループ討議（12%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（19%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	提出課題にコメントを添えて返却する
テキストおよび参考文献	テキスト: ・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省） 参考文献: 『保育課程論』加藤敏子・岡田耕一　編著　(萌文書林)
メッセージなど	幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育所における教育課程、全体的な計画の意義やその成り立ちを理解し、年間の指導計画や、月や週の指導計画、年齢ごとの子どもの発達や様子などに触れながら、“保育の連続性”について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目　　保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び内容の取扱いを理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（関心・意欲・知識・理解・思考力）	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（判断力・表現力・問題解決力）	7%
(1)-2) 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	課題への認識の大きな誤りはなく、自分の考えを述べている。	課題に対する認識の間違いはあるが自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・思考力・表現力）	5%
	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	課題への認識の大きな誤りはなく、自分の考えを述べている。	課題に対する認識の間違いはあるが自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度・思考力・表現力）	5%
(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本の説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（関心・意欲・知識・理解・表現力）	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・知識・理解・表現力）	7%
(2)-2) 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。	ほぼ完璧な指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート（関心・意欲・態度・知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・態度・知識・理解）	5%
(2)-3) 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	指導案（関心・意欲・態度・知識・理解）	7%
	ほぼ完璧な教材を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた教材を作成できる。	最低限の基本を踏まえた教材を作成できる。	作成できていない。	教材作成（思考力・判断力・表現力・創造性）	7%
(2)-4) 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・態度・知識・理解）	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（関心・意欲・態度・知識・理解）	7%

(3)-1) 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・理解・表現力・創造性）	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・理解・表現力・創造性）	7%
(3)-2) “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。	ほぼ完璧に指導計を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート（関心・意欲・理解・思考力・表現力）	5%
	ほぼ完璧に指導計を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	指導案（関心・意欲・理解・思考力・表現力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児指導法 Infant Teaching Method	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC1012	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
講義	2	選択	中津 愛子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	保育内容の指導法（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の基本を学び、5領域のねらいが総合的に達成されるために 幼児の自発的な活動としての遊びを通して総合的に指導するという幼稚園教育の基本について学ぶ。 子どもの興味・関心や発達段階に応じて指導するための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。
到達目標	(1)-1) 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。
	(1)-2) 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。
	(1)-3) 幼児理解に基づく評価について説明できる。
	(1)-4) 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。
	(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。
	(2)-2) 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。
	(2)-3) 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。
	(2)-4) 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。
	(3)-1) 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。
	(3)-2) 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。
	(3)-3) 模擬保育を実践し、導入－展開－まとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。

授業内容と進め方

山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児期の特性を踏まえ、遊びを通して指導するという幼児教育の基本となる考え方を学ぶ。			復習プリント	2時間
2	子どもが身近な環境に関わり、発達に関わる経験をどのように行っているのか、保育現場の映像を観て理解する。	事前配布資料を読んでおく	2時間	復習プリント	2時間

	3	子どもの主体的な活動が発展するための環境構成の意義について、保育場面の映像を通して理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	4	環境を構成する人、物、自然等の要素と教材の工夫について、グループ討議を行ない、理解を深める。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	5	子どもの育ちと５つの領域の「ねらいと内容」のつながりを学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	6	遊びの展開を考慮した援助の基本について、保育場面の映像を通して理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	7	幼稚園の教諭にインタビューを行い、子どもの生活・遊びに関わる教師の役割、クラス運営の実際を理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	8	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と活動のつながりを理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	9	幼稚園と小学校が連携して行っている活動実践を観察し、小学校への接続が円滑に行われるための重要事項について学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	10	保育現場の映像を通して幼児教育における教育課程・指導計画の基本を学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	11	長期の指導計画と短期の指導計画を理解し、子どもの発達に応じて指導計画を立案し教材を活用するための基本を学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	指導計画の課題レポート	2 時間
	12	指導計画の作成における環境の構成と教材の工夫について理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の教材作成	2 時間
	13	模擬保育の実践の準備を行ない、子どもの活動を見通した具体的な援助方法についてグループ討議をし、教材の作成や選択を行なう。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の練習	2 時間
	14	グループで模擬保育を実践する（ビデオ録画の方法を身につける）。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の実践後の感想レポート	2 時間
	15	録画映像を再生して模擬保育の振り返りと評価を行ない、改善点を話し合う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の指導計画の修正	2 時間

成　績　評　価	定期試験（40%）、課題・レポート（30%）、授業への取り組み（16%）、グループワーク・グループ討議（14%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	復習プリントは添削して返却します。成績はルーブリック評価を行い、配布します。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、 幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、 文部科学省『幼稚園教育要領解説』チャイルド本社 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省） 参考文献：文部科学省『幼稚園教育指導資料第５集』チャイルド本社
メッセージなど	グループ討議や模擬保育を取りいれたアクティブラーニング型の授業です。遊びを通して指導するとは何かを考えていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(1)-2) 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(1)-3) 幼児理解に基づく評価について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(1)-4) 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%

(2)-2) 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(2)-3) 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(2)-4) 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(3)-1) 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	環境を構成する力をほぼ完璧に身につけ、工夫もできる。	環境構成の基本は身につけ、教材の工夫もできる。	工夫する力は努力を要すが、環境構成の基本は身につけた。	身につけていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	8%
	環境を構成する力をほぼ完璧に身につけ、工夫もできる。	環境構成の基本は身につけ、教材の工夫もできる。	工夫する力は努力を要すが、環境構成の基本は身につけた。	身につけていない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度）	7%
(3)-2) 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。	ほぼ完璧な指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	30%
(3)-3) 模擬保育を実践し、導入－展開－まとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。	導入からまとめまで、集団と個に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	集団と個に対応する力は、部分的には身に付けている。	模擬保育は実践したが、集団と個への対応は努力を要す。	模擬保育を実践していない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	8%
	導入からまとめまで、集団と個に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	集団と個に対応する力は、部分的には身に付けている。	模擬保育は実践したが、集団と個への対応は努力を要す。	模擬保育を実践していない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度）	7%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容総論 Foundations of Contents of Child Care	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCM2011	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	中津 愛子・平田 睦美	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	養護と教育が一体となって展開される保育の基本について学び、幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿を意識して、具体的な保育のねらいと内容を考えるための基礎的な力を養う。子どもの発達や興味・関心に応じた指導案作成、環境構成を行う。指導計画に基づき、グループで模擬保育を実践し、実践後の評価を行なうことで、計画の改善を図るまでの過程を学ぶ。
到達目標	(1) 保育所保育指針に示されている「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」を関連付けて説明できる。
	(2) 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体構造を説明できる。
	(3) 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景と保育内容の歴史的変遷について述べることができる。
	(4) 養護と教育が一体となった保育を展開するために、子どもの自発的な活動の基盤となる環境構成、教材準備、保育者の援助の基本を理解し、保育実践に応用することができる。
	(5) 保育の多様な展開について具体的に述べることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解する　中津	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
2	保育内容の歴史的変遷とその社会的背景を学ぶ　中津	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
3	子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本を学ぶ 平田	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
4	養護と教育が一体となって展開する保育について学ぶ 平田	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
5	保育場面の観察を通し、子どもの主体性を尊重する保育の展開を学ぶ　平田	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
6	子どもの発達や生活の連続性を踏まえた保育の展開を考え、指導計画を作成する 中津・平田	保育の計画	2 時間	指導案の作成	2 時間

	7	養護と教育が一体となった保育を展開するための環境構成、教材作成を行う　中津・平田	保育の計画	2 時間	教材作成	2 時間
	8	子どもの自発的な活動を支えるための保育者の援助についてグループで検討する 中津・平田	保育実践の準備	2 時間	指導案の作成	2 時間
	9	子どもの活動を予想しながら、遊びを通して総合的に保育する際の留意点を考える 中津・平田	保育実践の準備	2 時間	教材作成	2 時間
	10	学生同士で模擬保育を行ない、個と集の発達を踏まえた保育について実践的に学ぶ 中津・平田	保育実践の準備	2 時間	実践の振り返りレポート	2 時間
	11	模擬保育を振り返り、グループ内で自己評価を行い、改善点を話しあう　中津・平田	保育実践の反省	2 時間	実践の振り返りレポート	2 時間
	12	保育実践を振り返り、改善点をもとに新たな指導計画を作成する　中津・平田	事前配布資料を読んでおく	2 時間	修正した指導案の作成	2 時間
	13	保育の多様な展開　－長時間の保育、病児保育、保護者のニーズに即した保育とは－ 中津	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	14	保育の多様な展開　－多文化共生の保育・特別な配慮を必要とする子どもの保育－　中津	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	15	家庭や地域、小学校との連携を踏まえた保育の実践の DVD を視聴し、具体的に学ぶ　　平田	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間

成　績　評　価	定期試験（45%）、課題・レポート（20%）、指導案（20%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（15%）
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法	授業の復習プリントはコメントを書いて返却する。ルーブリックによる成績評価を配布する。
テキストおよび 参　考　文　献	テキスト：授業の事前配布資料。 参考文献：開仁志 編著「保育指導案 大百科事典」一藝社 森上史朗・大豆生田啓友 編「よくわかる保育原理」ミネルヴァ書房 出雲美枝子著「実習おまかせ Book」ひかりのくに
メッセージ な　　ど	指導案の作成、教材作成、保育実践は、少人数グループでの演習としますので、それぞれの学生が積極的にアイデアを出し実践するようにしてください。 保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 保育所保育指針に示されている「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」を関連付けて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	15%
(2) 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体構造を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	15%
(3) 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景と保育内容の歴史的変遷について述べることができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	15%
(4) 養護と教育が一体となった保育を展開するために、子どもの自発的な活動の基盤となる環境構成、教材準備、保育者の援助の基本を理解し、保育実践に応用することができる。	環境構成、教材準備、保育者の援助の基本を十分に生かした模擬保育が実践できる。	環境構成、教材準備、保育者の援助の基本をほぼ理解して模擬保育が実践できる。	環境構成、教材準備、保育者の援助についていくつか不足するところがあるが、模擬保育が実践は実践した。	模擬保育を実践していない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（技能・表現力・判断力）	15%
					指導案（思考力・表現力）	20%
(5) 保育の多様な展開について具体的に述べることができる。	保育の多様な展開について現状を正しく理解したうえで、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育の多様な展開の現状についてほぼ誤りなく認識し、大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	保育の多様な展開についての認識にいくつか誤りがあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法（健康） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Health)	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC2011	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	選択	佐伯 里英子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	幼児期の子どもの発達のあり方を、幼稚園教育要領に示されている健康領域のねらい及び内容を基本に深く考察する資質・能力を身に付ける。同時に、今日の幼児教育において求められている対話的保育のあり方、あそびを軸にした保育のあり方を、健康領域の面から実践的に考察する資質・能力を身に付ける。
到達目標	(1)-1) 「健康領域」のねらいと内容を理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。
	(1)-2) 「健康領域」のねらいと内容を理解し、保育者の役割について説明できる。
	(2)-1) 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解し、具体的に述べることができる。
	(2)-2) 対話的な保育のあり方の重要性を理解し、実践できる。
	(3)-1) 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を説明できる。
	(3)-2) 幼児期の運動あそびの指導上の留意点を理解し、指導案に反映できる。
	(3)-3) 「おにごっこ」あそびの段階的指導法を理解し、説明できる。
	(3)-4) 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を述べることができる。
	(3)-5) 運動あそびと「幼児教育のキーワード」１０項目の内容との関連性を述べることができる。
	(4)-1) 幼児期から児童期にかけての発達の違いについて述べることができる。
	(4)-2) 健康に関連する領域で、小学校教育の学習や生活について、子どもの姿や課題を予測し、述べることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼稚園教育要領「健康領域」の今日的意義			健康領域についてわからない用語を調べる。	2 時間
2	幼稚園教育要領のねらいについて	保育指針幼稚園教育要領「健康領域」ねらいを読む。	2 時間	保育指針幼稚園教育要領のねらいをまとめる。	2 時間
3	幼稚園教育要領の内容等について	指針要領「健康領域」3 歳児未満の内容を読む。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間

	4	健康領域における幼児期の発達的特徴　―保育場面の映像をもとに子どもの発達や状況の分析をする―	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	5	乳幼児期の安全（リスクとハザードについて）	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	6	自身の生活習慣と子どもの生活習慣をつなぐ	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	7	幼児の生活習慣（睡眠を中心に）とそれを支える保育者のあり方について	健康領域の内容(1)～(5)を読んでおく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	8	保育場面の画像をもとに、生活習慣（食事・排泄を中心に）とそれを支える保育者の役割について	健康領域の内容(6)～(10)を読んでおく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	9	生活習慣の自立に向かう保育のあり方について	健康領域の内容(7)を読んでおく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	10	幼児期における運動あそびの重要性　―保育場面の映像をもとに保育方法・環境を分析する①―	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	11	幼児期における運動あそびの重要性　―保育場面の映像をもとに保育方法・環境を分析する②―	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	12	保育実践報告から学び、保育の今日的意義を考える①	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	13	保育実践報告から学び、保育の今日的意義を考える②	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	14	対話的保育の今日的意義と運動あそびへの応用	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	発表資料を作成する。	2 時間
	15	運動場面での指導方法と安全管理について	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	災害時の保育について考える	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	17	運動や運動あそびにおける「楽しさの質」の発達段階	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	18	発達段階に応じた運動あそびを理解する（乳児期前半を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	19	発達段階に応じた運動あそびを理解する（乳児期後半を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	20	発達段階に応じた運動あそびを理解する（2 歳児から 3 歳児への移行の時期を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	21	発達段階に応じた運動あそびを理解する（3 歳児の時期を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間

	22	保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそびを理解する（4 歳児の時期を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	23	保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび（5 歳児の時期を中心に）を理解する	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	24	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の教材作成と指導案作成	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	指導案の修正または作成。	2 時間
	25	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の実践の準備	指導案の作成。	2 時間	指導案の修正または作成。	2 時間
	26	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の実践と考察	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	27	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方を考える（段階Ⅰの取り組みを中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	28	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方を考える（段階Ⅱ・Ⅲの取り組みを中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	29	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方（段階Ⅳ・Ⅴの取り組みを中心に）を考える	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間
	30	幼稚園教育から小学校教育への「接続」を考える	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	全範囲の資料を振り返る。	2 時間

成　績　評　価	授業への取り組み（30%）、課題・レポート（20%）、定期試験（50%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	レポートは翌週にコメントを書いて返却する。試験については必要に応じて次回に解説を行う。
テキストおよび参　考　文　献	・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省） ・吉田伊津子・砂上史子・松嵜洋子『乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 健康』光生館
メッセージなど	乳幼児期の健康に関する知識や考え方などを学び、具体的な場面で子どもの主体性や自立を支援することのできる基礎的な力をつけていきましょう。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 「健康領域」のねらいと内容を理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。	ほぼ完ぺきに理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。	大きな間違いなく理解し、説明できる。	最低限の基本は理解し、説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（知識・理解・思考力）	5%
(1)-2) 「健康領域」のねらいと内容を理解し、保育者の役割について説明できる。	ほぼ完ぺきに理解し、説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	最低限の基本を理解し、説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（知識・理解・思考力）	10%
(2)-1) 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解し、具体的に述べることができる。	ほぼ完ぺきに理解し、具体的に述べることができる。	大きな間違いがなく基本を理解し、述べられる。	最低限の基本を理解し、述べることができる。	述べることができていない。	定期試験（知識・理解・思考力）	10%
(2)-2) 対話的な保育のあり方の重要性を理解し、実践できる。	幼児と教師との温かい触れ合いを構築する保育のあり方を理解し実践できる。	基本的な触れ合いの中での保育のあり方を理解し、実践できる。	対話的な保育の意味を自分なりに理解し、実践できる。	実践できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(3)-1) 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を説明できる。	評価の考え方を説明することができる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	最低限の基本を理解し、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(3)-2) 幼児期の運動あそびの指導上の留意点を理解し、指導案に反映できる。	ほぼ完ぺきに留意点が示され、指導案を作成できる。	ある程度の留意点を理解し、指導案が作成できる。	留意点をいくつかあげて、指導案を作成できる。	指導案に留意点が反映できていない。	授業への取り組み（知識・思考力・判断力・創造性）	10%
(3)-3) 「おにごっこ」あそびの段階的指導法を理解し、説明できる。	ほぼ完ぺきに説明できる。	ある程度、説明できる。	段階的な指導があることは説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・判断力）	10%
(3)-4) 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を述べることができる。	自分の問いを出し、他者と協議し、発表できる。	他者と問いを出し合い、発表できる。	他者の意見を聞き、自分の考えと比較できる。	他者との意見交換・検討ができない。	授業への取り組み（意欲・思考力・表現力・協働性）	5%
(3)-5) 運動あそびと「幼児教育のキーワード」１０項目の内容との関連性を述べることができる。	ほぼ完ぺきに関連性を述べることができる。	ある程度関連性を述べることができる。	「幼児教育のキーワード」の項目について列挙できる。	「幼児教育のキーワード」を列挙できていない。	定期試験（知識・思考力・判断力・表現力）	10%
(4)-1) 幼児期から児童期にかけての発達の違いについて述べることができる。	ほぼ完ぺきに述べることができる。	大きな間違いがなく、述べることができる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は述べられる。	述べることができていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(4)-2) 健康に関連する領域で、小学校教育の学習や生活について、子どもの姿や課題を予測し、述べることができる。	子どもの姿や課題について、いくつも述べることができる。	大きな間違いなく、述べることができる。	1 点か 2 点は述べることができる。	述べられていない。	課題・レポート（関心・知識・思考力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法（人間関係） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education （Human Relations）	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC2012	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	平田 睦美	○

実務家教員の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	人間関係が人としてこの社会を生きていく上で避けて通る事のできないことであることを理解し、乳幼児からの発達にどのような環境や人とのかかわりが求められるのかを探るとともに、育ちを支える保育・教育の在り方を学ぶ。	
到達目標	(1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。	
	(1)-2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。	
	(2)-1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳幼児期からのかかわりの重要性について説明できる。	
	2)-2) 自立心を育み、人との関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。	
	(2)-3) 子どもの発達にとってどのような環境や人とのかかわりが重要なのか具体的に説明できる。	
	(3)-1) 領域「人間関係」について理解し、指導案の構成を理解した上で、指導案を立案し、保育の構想について説明できる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	乳児期を取り巻く人間関係の現状と課題にについて理解する。	現代の子どものおかれている状況を調べておく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
2	保育の基本と領域「人間関係」について学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
3	0歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	2 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	2 時間
4	1，2歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間

	5	3歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	6	4歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	7	5歳児の集団生活の中での姿と人間関係の育ちについて実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	8	子どもたちの豊かな人間関係を育む学級経営や集団づくりについて実践時事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	9	園生活の中で人とのかかわりの難しい子どもへの支援の仕方について学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	10	園生活の中での異年齢のかかわりや地域の人々とのかかわりと援助について学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	2 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	2 時間
	11	人間関係の育ちを支える保護者と保育者の望ましい関係について、事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	12	「人間関係」の育ちを支える保育の構想① 人間関係を育む指導案を作成する。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	13	「人間関係」の育ちを支える保育の構想② 作成した保育案をもとに、指導と援助ポイントについて考え合う。	配テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	2 時間
	14	「人間関係」の育ちを支える保育の構想③ 指導案に基づいた保育について発表し、保育者の援助と環境構成についてディスカッションする。	指導案を読んで、自分の考えをまとめておく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	15	「人間関係」の育ちを支える保育の構想④ 指導案に基づいた保育について発表し、保育者の援助と環境構成についてディスカッションする。	指導案を読んでで、自分の考えをまとめておく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間

成績評価	定期試験（50%）、 課題・レポート（20%）、授業への取り組み（30%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	課題はコメントを書き、返却する。 レポートや試験はルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参考文献	参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）
メッセージなど	人として生きていく上で欠かすことのできない人とのかかわりが乳幼児期からどのように育っていくのかを具体的に学ぶ中で、保育・教育にたずさわる者としてどのように子ども、親とのコミュニケーションをとっていくか演習を交えながらすすめていきます。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・問題解決力）	10%
(1)-2)「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（知識・理解）	20%
(2)-1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳幼児期からのかかわりの重要性について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-2) 自立心を育み、人との関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（知識・理解）	20%
(2)-3) 子どもの発達にとってどのような環境や人とのかかわりが重要なのか具体的に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	授業への取り組み（関心・意欲・態度・表現力）	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験（関心・知識・理解）	20%
(3)-1) 領域「人間関係」について理解し、指導案の構成を理解した上で、指導案を立案し、保育の構想について説明きる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法（環境） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Environment)	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC2013	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	1	選択	玉木 晃子	○

実務家教員の詳細	保育者としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。	
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	幼児教育と環境、幼児の発達と環境、幼児と環境とのかかわりについて学ぶ。 自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にかかわる力を育てるための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。	
到達目標	(1)-1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。	
	(1)-2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。	
	(1)-3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。	
	(1)-4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。	
	(2)-1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。	
	(2)-2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。	
	(2)-3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。	
	(3)-1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	
	(3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	
	(3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。	
	(3)-4) 子どもの行う活動が、個人、クループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。	
	(3)-5) 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。	

授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	環境を通して行う保育の基本を理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

	2	子どもが生活や遊びのなかで身近な環境とどのようにかかわりながらどんな発達をしていくか、保育映像を通して理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	3	子どもが身近な環境とかかわるなかで「環境とかかわる力」の発達を支えているものについて理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	4	環境を構成する人や物など、身近な動植物とのかかわりについて実際の経験を通して具体的に理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	5	環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する。－身近な素材の収集とおもちゃ製作－	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	6	環境を構成する身近な自然とのかかわりについて理解する。－生物の飼育、植物の栽培－	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	7	幼児期の終わりまで、発達の過程に寄り添いながら、長期的な視点をもって環境を構成していくことを保育映像から理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	8	地域の施設やさまざまな情報、行事などに興味や関心を持ち、種類やいぎについて理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	9	環境を通して行う幼児教育の教育課程・指導計画について学ぶ。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	10	短期の指導計画と長期の指導計画を理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	11	指導計画の作成における環境の構成と情報機器・教材の活用について理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	12	幼児の周りにある環境について、その特性や価値を知り、実際の保育のなかで適切に活用できるよう教材研究をする。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	13	数量や図形、標識や文字などに関心をもつための教材とその活用方法を理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	14	環境とのかかわりを促すアイディアを保育活動に活かした指導案を作成する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	15	身近な自然に関わる模擬保育を行い、保育環境を改善するための反省と評価を行う。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

成　績　評　価	定期試験（60%）、課題・レポート（20%）、教材作成（11%）、授業への取り組み（9%）
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法	授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月　告示） 参考文献： 酒井幸子・ 守　功 『保育内容 環境』　萌文書林
メッセージなど	子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで、その活動が充実するように、興味や関心、発達の実情などに応じた適切な指導・援助のあり方について学んでいきましょう。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。	指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。	指導計画作成の基本を身に付けている。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	身に付けていない。	教材作成（関心・意欲・態度）	5%
	指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。	指導計画作成の基本を身に付けている。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%

(2)-2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(3)-1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もでる。	環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本は身につけたが、工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	教材作成（関心・意欲・態度）	3%
	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もでる。	環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本は身につけたが、工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	2%
(3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。	探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。	適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。	身に付けていない。	教材作成（関心・意欲・態度）	3%
	探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。	適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。	身に付けていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	2%
(3)-4) 子どもの行う活動が、個人、クループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。	個と集団に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	個と集団に対応する力は部分的に身に付けている。	多様な活動は調整できるが、個と集団への対応は努力を要す。	身に付けていない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(3)-5) 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。	保育のデザインを工夫する力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違がなく、保育のデザインを工夫する力を身に付けている。	環境構成の基本は身につけたが、保育のデザインを工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法（言葉） Teaching Methods of Child Care and Education （Language）	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECCC2014	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2		竹内 幹雄	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	幼稚園教育要領「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて、発達段階に応じて指導するための基礎知識を学ぶ。 理論と実践を結び付け、遊びを通して総合的に指導する上での適切な言葉かけや対応について学ぶ。 言葉の獲得に関わる環境構成の基本について学ぶ。 言葉の重要性を理解し、保護者や学校・地域社会との連携を深めるための基礎知識を身に着ける。
到達目標	(1)-1) 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。
	(1)-2) 子どもの心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。
	(1)-3) 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。
	(2)-1) 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。
	(2)-2) 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。
	(2)-3) 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。
	(3)-1) 実社会における言葉に関する課題について理解できる。
	(3)-2) 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。
	(3)-3) 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを、事例をあげて説明できる。
	(4)-1) 領域「言葉」について特別な配慮や支援を理解し、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。
	(4)-2) 海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。

	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
授業内容と進め方	1	乳幼児期にふさわしい「生活」の保障について理解する。	教科書 P1～5 を読み、考えをテキストにまとめる。	2 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	1 時間
	2	領域「言葉」の位置づけ、ねらい・内容・内容の取扱いについて、理解するとともに、図表にしてまとめる。	教科書 P6～17 を読み、考えをテキストにまとめる。	2 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	1 時間

	3	ヒトのコミュニケーションの特徴・非言語から言語への視点から、誕生から 3 歳ころまでの言葉の発達について理解し、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P20～29 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	4	要領・指針で大切にされていることを基に、乳児期の言葉の発達と保育における配慮について理解し、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P30～36 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	5	伝え合う言葉、考える言葉の発達、読み・書きの発達の理解を基に、乳幼児期から幼児期への言葉の発達過程をつかみ、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P37～41 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	6	集団保育への参加、クラスの一員としての役割や意識を理解の基に、個と集団との関係のなかで幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P42～43 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	7	仲間関係と言葉、言葉と思考・表現についての理解を基に、幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P43～47 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	8	言葉の楽しさや美しさの理解を基に、幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P48～50 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	9	幼児期と児童文化財について理解を深め、幼児期の言葉の発達過程についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P51～55 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	10	幼児期から児童期の言葉、接続期と言葉についての理解を基に、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P56～58 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	11	記号や文字との出会い、絵本ともに環境、文字で伝える、を理解の基に、文字環境についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P59～62 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	12	幼児期の読み書き、言葉による伝え合い、を理解の基に、幼児期から児童期の言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P63～66 を読み、テキスにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	13	保・小・こ・小の接続で大切にしたいこと、言葉に関する家庭との連携、を理解の基に、幼児期から児童期の言葉や小学校「国語」との関連性についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。また「おてて絵本」で遊ぶ。	教科書 P67～70 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	14	子どもの言葉と保育者の役割、子どもの遊びや学びを支える保育者の援助、を理解の基に、保育者の専門性と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P71～77 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
	15	子どもの言葉と保育者の役割、子どもの遊びや学びを支える保育者の援助、を理解の基に、保育者の専門性と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P78～85 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間

	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	伝え合う言葉を育むための保育環境、文字との出会いと文字環境、を理解の基に、保育環境と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P86～94 を読み、テキストに記述する。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	17	保育おける絵本との出会い、発達に応じた絵本との出会い、を理解の基に、保育と児童文化財について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。また、読み聞かせのポイントをつかむ。	教科書 P95～96 を読み、テキストにまとめる。	3 時間	グループの発表、読み聞かせのポイント、をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	18	伝え合う言葉を育む環境構成と指導計画、評価と改善、を理解の基に、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。また、紙芝居のポイントをつかむ。	教科書 P97～104 を読み、テキストの図にまとめる。	3 時間	グループの発表、紙芝居のポイント、をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	19	遊びや生活に必要な言葉、自分の思いを伝える言葉、出来事を他者に伝える言葉、を理解の基に、乳幼児期の遊びと生活のなかの言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P105～109 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストをまとめ直す。	2 時間
	20	遊びを支える言葉、ごっこ遊びをめぐる言葉のやりとり、ルールのある遊びと言葉、を理解の基に、様々な遊びと言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P62～66 を読み、テキスト P5～7 にまとめる。	2 時間	グループ発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	21	言葉のリズムや響きを感じる・楽しむ、様々な言葉遊びを楽しむ、を理解の基に、言葉のリズムや響き・言葉遊びについて、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P114～116 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	22	自分なりの言葉、言葉に対する感受性、を理解の基に、子どもの発達にふまえた遊びや生活と指導援助の実際について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P117～121 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	23	一人一人の特性に応じるために、発達障害（自閉症スペクトラム障害等）について、を理解の基に、領域「言葉」についての特別な配慮や支援を、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P122～125 を読み、テキストにまとめる	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	24	障害のある子どもの保育で大切な考え方について、行為を言葉でなぞる、生活の見通しを示す工夫―登園してからすること、を理解の基に、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や支援について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P126～130 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	25	はじめに、個別の教育支援計画と個別の指導計画について、個別の指導計画の一例、を理解の基に、個別の教育支援計画と個別の指導計画について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P131～132 を読み、テキストにまとめる。	3 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	2 時間

	26	海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や支援、家庭や地域・関係機関（医療や福祉、保健等）との連携、を理解の基に、言葉の問題や援助について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P133～138 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	27	言葉の環境と活動、全体的な計画、カリキュラムマネージメント、主体的・対話的で深い学び、を理解の基に、保育計画と評価について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P139～156 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	2 時間
	28	情報革命と社会の変化、グローバル化と英語教育、育つことが期待される姿「言葉による伝え合い」、を理解の基に、子どもが育つ社会の変化と子どもの「言葉」について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P107～114 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	29	言わずにはいられない言葉、みんなの前で話す体験、形だけ整っている言葉、謝ると言う行為と言葉、を理解の基に、実践のなかで考えるべき課題について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P159～164 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	30	聞き手としての保育者、話し手としての保育者、やりとりする保育者、集団生活と言葉、を理解の基に、保育者の関わりについて、ICT を活用して発表し合う。グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P123～129 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間

成績評価	定期試験（21%）、課題・レポート（20%）、授業への取り組み（14%）、発表・プレゼンテーション（32%）、グループワーク・グループ討議（13%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートや試験にコメントを書き、次の授業時に返却する。
テキストおよび参考文献	テキスト：『保育内容　言葉　』　秋田喜代美・野口隆子　編著　光生館 、『幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）』、『保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）、『幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）』
メッセージなど	乳幼児の言葉獲得過程と保育者の適切な対応・言葉かけをテキストや実習体験からともに考えていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目、保育士証：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%
(1)-2) 子どもの心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・技能・思考力・判断力・表現力）	7%
(1)-3) 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	3%
	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・技能・思考力・判断力・表現力）	2%
(2)-1) 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2)-2) 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	5%
(2)-3) 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。	ほぼ完璧に理解し、利用できる。	理解に偏りがあるが、利用できる。	理解への偏りが大きいが、何とか利用できる。	理解できず、利用できない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	15%
	ほぼ完璧に理解し、利用できる。	理解に偏りがあるが、利用できる。	理解への偏りが大きいが、何とか利用できる。	理解できず、利用できない。	発表・プレゼンテーション（技能・表現力）	15%
(3)-1) 実社会における言葉に関する課題について理解できる。	ほぼ完璧に広く、深く捉えている。	課題の捉え方が、やや限定的である。	課題の捉え方が限定的である。	理解できていない。	発表・プレゼンテーション（思考力・判断力・表現力）	8%
	ほぼ完璧に広く、深く捉えている。	課題の捉え方が、やや限定的である。	課題の捉え方が限定的である。	理解できていない。	グループワーク・グループ討議（関心・態度・思考力・判断力・協働性）	7%
(3)-2) 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	5%

(3)-3) 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを事例をあげて説明できる。	多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。	いくつかの事例をあげ、説明できる。	事例が限定的であるが、何とか説明できる。	説明できていない。	発表・プレゼンテーション（思考力・判断力・表現力）	3%
	多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。	いくつかの事例をあげ、説明できる。	事例が限定的であるが、何とか説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議（関心・態度・思考力・判断力・協働性）	2%
(4)-1) 領域「言葉」について特別な配慮や支援を理解し、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	発表・プレゼンテーション（思考力・判断力・表現力）	3%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	グループワーク・グループ討議（関心・態度・思考力・判断力・協働性）	2%
(4)-2) 海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	発表・プレゼンテーション（思考力・判断力・表現力）	3%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	グループワーク・グループ討議（関心・態度・思考力・判断力・協働性）	2%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育内容の指導法 （表現Ⅰ（音楽・造形）） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Expression I)	児童教育学科 幼児育学専攻	24ECCC2015	２年次	通年

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
演習	2	選択	木橋 奏子・吉本 宏之	

実務家教員の詳細		
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	【音楽】豊かな感性はどのようにして生まれるのか。 授業で様々な表現活動を通し、子どもたちが創造性を深められるような援助の仕方を学ぶ。 またその状況に適した応用などを学ぶ。	
到達目標	(1)-1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	
	(1)-2）表現を生成する過程について理解している。	
	(1)-3）幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。	
	(2)-1）様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。	
	(2)-2）身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。	
	(2)-3）表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。	
	(2)-4）協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	
	(2)-5）様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児と表現、音楽表現について理解する　（オリエンテーション）	テキスト 3P、4P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
2	音楽を中心とした音楽劇について DVD を視聴して具体的に理解する	テキスト 5P から 7P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
3	「表現あそび」を体験し、幼児の感性と表現について学ぶ。「表現遊び」における ICT の活用法について保育場面の映像から学び、保育構想に活用するアイデアを考える	テキスト 8P、9P、14P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
4	「音あそび」を体験し、イメージ活動の基礎を学ぶ。自分たちで作った音を録音し、音の教材を作成する	テキスト 15P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間

	5	「音楽とイメージ」について考え、感情と音楽の関係について学び、ICT を用いて音楽のイメージを映像化した教材を作成する	テキスト 16P、23P、24P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	6	「即興演奏」や「表現あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで言葉と動きの関連性を学ぶ	テキスト 10P、11P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	7	「即興演奏」や「音あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで音とイメージの関係を学ぶ	テキスト 12P、13P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	8	グループ練習。絵本からイメージする音づくりを通し想像力を高める。	テキスト 17P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	9	グループで創作活動について指導計画を立案する。	テキスト 18P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	10	グループによる創作活動の練習①練習場面を録画し、その映像をもとに改善していく。	テキスト 19P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	11	中間発表を行い、各グループ評価しあう。発表の様子を録画し、その映像を観て自己評価と反省を行い、指導計画案を練り直す。	テキスト 20P、21P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	12	グループによる創作活動の練習②録画映像をもとに最終確認	テキスト 22P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	13	模擬保育①音楽（演奏）を中心とした活動	テキスト 25P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	14	模擬保育②表現（演劇）を中心とした活動	テキスト 26P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	15	模擬保育の反省を行なう。保育者として必要な表現力や想像力について、また、保育現場での理想的な表現活動について話し合う。	テキスト 29P、30P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（41%）、授業への取り組み（50%）、グループワーク・グループ討議（9%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	音楽：振り返りシートに毎回コメントを記入し提出する。
テキストおよび参　考　文　献	参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『幼児の音楽教育』神原雅之　鈴木恵津子他 教育芸芸術社、『うたっておどっておもちゃ箱２』鈴木 恵津子　教育芸芸術社
メッセージなど	この授業は、受講者自身が豊かな表現力、コミュニケーション能力、を獲得するための内容です。表現力豊かな子どもを育てるには、接する保育者の想像力や表現力を磨くことが必須です。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力）	2%
(1)-2） 表現を生成する過程について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。	理解していない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。	理解していない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力）	2%
(1)-3） 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。	表現の基本を受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することが最低限できる。	表現を受け止め、共感することができない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	5%
	表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。	表現の基本を受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することが最低限できる。	表現を受け止め、共感することができない。	グループワーク・グループ討議（思考力・判断力）	5%
(2)-1） 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。	課題・レポート（知識・思考力）	5%
	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	5%
(2)-2） 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を表現できる。	基礎を表現できるが努力を要す。	表現できない。	課題・レポート（知識・思考力）	8%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を表現できる。	基礎を表現できるが努力を要す。	表現できない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	7%
(2)-3） 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。	ほぼ完璧に分析することができる。	大きな間違いがなく、基本を分析できる。	分析することは最低限できるが、努力を要す。	分析できない。	課題・レポート（知識・思考力）	8%
	ほぼ完璧に分析することができる。	大きな間違いがなく、基本を分析できる。	分析することは最低限できるが、努力を要す。	分析できない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	7%

(2)-4） 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことが最低限できる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。	課題・レポート（知識・思考力）	10%
	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことが最低限できる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	10%
(2)-5） 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することが最低限できる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。	課題・レポート（知識・思考力）	10%
	知識技能を生かし、表現活動に展開することがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することが最低限できる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。	授業への取り組み（表現力・判断力）	10%

概　　要	【造形】保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の発達段階に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。形、色、手触りなど様々な表現方法を使って表現活動の特徴や面白さを確認し応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身につける。
到達目標	(1)-1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。 (1)-2）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 (1)-3）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 (1)-4）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教育とのつながりを理解している。 (2)-1）幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。 (2)-2）幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。 (2)-3）幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。 (2)-4）幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。 (2)-5）幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	表現とは何か、その中の領域「造形表現」の意義を理解する	授業前に配付したプリントを読んでおく	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
17	表出と表現の違いを、実際の幼児作品の観察と映像を通して理解する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
18	遊びの中の幼児の様々な表現活動を捉え、造形表現の可能性を考える。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	「授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
19	０歳～６歳までの幼児画を観察観し、各年齢の発達と表現の特徴を理解する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
20	身近な素材を用いた表現活動と保育者の援助について実践例を通して学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	描画材料を理解したかどうか復習し感想を書く	2 時間
21	教材や用具・材料等の特性や発達に応じた使い方の実際について、実践例を通して学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
22	年齢による発達や幼児の実態、季節を踏まえた教材や指導法を検討する①	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
23	年齢による発達や幼児の実態、季節を踏まえた教材や指導法を検討する②	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	「授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

	24	映像視聴を通して乳幼児の表出、表現の背景や要因を考察し、表現における情報機器・活用法について検討する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	25	小学校の「図画工作」や様々な教科と幼児期の表現・造形教育の関連性や学びの連続性について学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	26	授業から題材を選び、豊かな感性と心を育てる「指導案」を立案する。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	27	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるとともに、ディスカッションにより振り返る①	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	28	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるとともに、ディスカッションにより振り返る②	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	29	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるとともに、ディスカッションにより振り返る③	模擬保育が出来るよう準備する	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	30	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるとともに、ディスカッションにより振り返る④	模擬保育が出来るよう準備する	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

成　績　評　価	小テスト（8%）、課題・レポート（19%）、作品（18%）、指導案（32%）、教材作成（5%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（10%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（8%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	造形:毎回授業後に振り返りシートに記入。作品ファイルを作成し、授業後に返却し、実習にいかす。
テキストおよび参　考　文　献	テキスト：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省 参考文献：林建造他『領域「表現」』国文書院
メッセージなど	造形教育は、子どもの豊かな感性と表現を育てるものです。子どもの心を育てる造形指導法を学びましょう。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-2）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-3）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-4） 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教育とのつながりを理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(2)-1） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける：幼児の表現活動の特性を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、完璧に説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きな間違いがなく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違いが少しあるが理解し、ある程度説明できる	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを説明できない。	小テスト（知識・理解・思考力）	8%
	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、完璧に説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きな間違いがなく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違いが少しあるが理解し、ある程度説明できる	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを説明できない。	課題・レポート（知識・理解・思考力）	7%

(2)-2） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける:幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。	ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる	間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	理解していない。活用できない。	作品（技能・表現力・創造性・作品の完成度）	18%
	ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる	間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	理解していない。活用できない。	指導案（技能・表現力・創造性・作品の完成度）	17%
(2)-3） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける:幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し設定保育を想定した指導案を作成できる。	理解していない。指導案を作成できない。	指導案 （知識・理解）	10%
(2)-4） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける:幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。	ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる	計画を練ることができない	指導案（技能・判断力・問題解決力）	5%
	ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる	計画を練ることができない	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ （技能・判断力・問題解決力）	5%
(2)-5） 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける:幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。	ほぼ完璧に知識、技能、指導法を身に付けている。	大きな間違いがなく、知識、技能、指導法を身に付けている	間違いは少しあるが、最低限の知識、技能、指導法を身に付けている。	知識、技能、指導法を身に付けていない。	教材作成 （技能・表現力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
幼児理解と教育相談 Infant Comprehension and Educational Counseling	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECUI2011	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
講義	2	選択	馬場 弓歌	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	幼児の生活や遊びの実態に即して幼児の発達を理解する。 子どもの臨床的問題について考えつまずきの要因、親子の支援について学ぶ。 発達上の問題の把握、介入方法の仕方などについて学ぶ。
到達目標	(1)幼児理解についての基本的な知識を身につける。
	(2)幼児の理解、保護者を含めた関係者について理解する。
	(3)幼児教育現場での教育相談のありかたについて学ぶ。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児理解とは何か概要を知る			幼児理解の概要をまとめる。	2 時間
2	幼児理解の必要性・意義について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
3	幼児の生活状況について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
4	幼児を取り巻く環境について知り、その影響について理解する	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
5	親子関係を中心に重要な他者との関係性が幼児に与える影響を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
6	保育者との関係を中心に重要な他者との関係性が幼児に与える影響を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
7	教育相談の意義と関連するカウンセリングの基礎を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
8	カウンセリング技術（受容・傾聴・共感）に基づく子どもとの関わりについて学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
9	発達のつまずきとは何か学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
10	発達障害の基本について知り、気づき、対応について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
11	発達の問題への支援方法について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
12	保護者支援の実践を知りその方法を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間

	13	社会的資源について知り活用方法を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
	14	カウンセラーとの協働について実例を元に学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
	15	幼児を取り巻く環境の今後について考える	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間

成　績　評　価	定期試験（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（50%）
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法	授業内での課題は、コメントを記入し返却する。 試験の採点方法と点数をルーブリック評価に基づき示す。
テキストおよび参　考　文　献	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省・内閣府・厚生労働省）、 小田豊・秋田喜代美（2021）新時代の保育双書　子どもの理解と保育・教育相談[第 2 版]みらい （参考文献）松本峰雄（監修）　『よくわかる！保育士エクササイズ 8　子どもの理解と援助演習ブック』ミネルヴァ書房
メッセージなど	幼児理解の必要性を知り子どもたちを取り巻く環境が子どもの成長にどのように影響しているのか教育、支援の実践について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)幼児理解についての基本的な知識を身につける。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 （知識・理解・思考力）	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(2)幼児の理解、保護者を含めた関係者について理解する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 （知識・理解・思考力）	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(3)幼児教育現場での教育相談のありかたについて学ぶ。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 （知識・理解・思考力）	20%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育実習指導 Study of Practical Teaching	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECTP2002	２年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	1	選択	木橋 奏子・平田 睦美・中津 愛子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	教育実習を行うに当たり、基本的態度の形成、事前学習や準備について演習形式で進めていく。	
到達目標	(1) 教育実習の意義と目的を解釈し、実習に必要な基本的な態度や素養を身に付けるとともに、事前準備を進めることができる。	
	(2) 設定保育の準備、指導案作成、保育実践を系統立てて行うことができる。	
	(3) 保育観察や実践、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション　幼稚園実習の意義・目的・幼稚園教育要領について木橋・平田・中津			教育実習の手引きを読んでくる	2時間
2	年齢別保育の考え 木橋・平田・中津	事前配布資料を読んでくる	2時間	授業の振返りレポート	
3	３歳児の集団あそび 平田	事前配布資料を読んでくる	2時間	授業の振返りレポート	2時間
4	４歳児の集団あそび 平田	事前配布資料を読んでくる	2時間	授業の振返りレポート	2時間
5	５歳児の集団あそび 平田	事前配布資料を読んでくる	2時間	授業の振返りレポート	2時間
6	手あそびについて　練習と発表 木橋・平田・中津	手あそびの練習	2時間	課題レポート	2時間
7	年齢別リトミックの準備 木橋	事前配布資料を読んでくる	2時間	授業の振返りと保育計画の立案	2時間
8	リトミックの指導計画 木橋	保育計画の立案と練習	2時間	課題レポート	2時間

	9	模擬保育の実践① 木橋・平田・中津	保育計画の立案と練習	2時間	保育実践の振り返りレポート	2時間
	10	模擬保育の実践② 木橋・平田・中津	保育計画の立案と練習	2時間	保育実践の振り返りレポート	2時間
	11	模擬保育の振り返りと指導案の再計画　木橋・平田・中津	保育計画の振り返り	2時間	指導案の再作成	2時間
	12	人権教育　木橋・平田・中津	事前配布資料を読んでくる	2時間	課題レポート	2時間
	13	教育実習の誓約書記入 幼稚園の１日について木橋	事前配布資料を読んでくる	2時間	授業の振返りレポート	2時間
	14	教育実習の基本的な在り方 実習日誌等、必要書類の作成 木橋・平田・中津	教育実習の手引きを読んでくる	2時間	必要書類の作成	2時間
	15	振返りとまとめ 木橋・平田・中津	授業プリントファイルのまとめ	2時間	授業プリントファイルのまとめ	2時間

成績評価	課題・レポート（55%）、指導案（10%）、授業への取り組み（15%）、発表・プレゼンテーション（10%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（10%）
課題(試験･レポート等)に対するフィードバックの方法	レポートや配布資料はファイルにとじ、次の時間の復習や授業の振返りに使用します。
テキストおよび参考文献	「教育実習の手引き」山口短期大学
メッセージなど	幼稚園教諭二種免許：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教育実習の意義と目的を解釈し、実習に必要な基本的な態度や素養を身に付けるとともに、事前準備を進めることができる。	実習に必要な基本的な態度や素養を身に付け、事前準備ができている	実習に必要な基本的な態度や素養をある程度身に付けることができている	実習に必要な最低限の態度や素養を身に付けることができている	実習に必要な基本的な態度や素養を身に付けることができていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・知識・理解）	15%
	実習に必要な基本的な態度や素養を身に付け、事前準備ができている	実習に必要な基本的な態度や素養をある程度身に付けることができている	実習に必要な最低限の態度や素養を身に付けることができている	実習に必要な基本的な態度や素養を身に付けることができていない。	課題・レポート（関心・意欲・態度・知識・理解）	15%
(2) 設定保育の準備、指導案作成、保育実践を系統立てて行うことができる。	設定保育の準備から実践が系統立ててできる。	設定保育の準備から実践が大きな間違いなく系統立ててできる。	設定保育の準備から実践が最低限系統立ててできる。	設定保育の準備から実践が系統立ててできない。	指導案（知識・理解・技能・判断力・表現力）	10%
					課題・レポート（知識・理解・技能・判断力・表現力）	20%
	設定保育の準備から実践が系統立ててできる。	設定保育の準備から実践が大きな間違いなく系統立ててできる。	設定保育の準備から実践が最低限系統立ててできる。	設定保育の準備から実践が系統立ててできない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（知識・理解・技能・判断力・協働性）	10%
(3) 保育観察や実践、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに保育の改善点を見出し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育観察や実践、記録、自己評価を総合し、改善点を見出そうと努力したことを述べることができる。	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに、部分的には改善点を見出すことができ、それを述べることができる。	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに改善点を見出すことができず、レポートが提出されない。	課題・レポート（知識・理解・技能・判断力・表現力）	20%
	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに保育の改善点を見出し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育観察や実践、記録、自己評価を総合し、改善点を見出そうと努力したことを述べることができる。	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに、部分的には改善点を見出すことができ、それを述べることができる。	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに改善点を見出すことができず、レポートが提出されない。	発表・プレゼンテーション（知識・技能・判断力・協働性・表現力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
教育実習 Practical Teaching	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECTP2003	２年次	後期 (集中)

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
実習	4	選択	木橋　奏子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	教育実習は、幼稚園教諭として幼稚園の現場で実際に勤務できるようにするための様々な力を実践的に身につけるためのものである。幼稚園教諭としての資質・能力について反省洞察しながら、それをより一層高めていけるように幼稚園の現場において実習を行う。
到達目標	(1) 幼稚園教諭としての責務を自覚し、自分の修得した理論や知識を実践できる。
	(2) 実習日誌の書式に従い、実習日誌を書くことができる。
	(3) 実習の事後指導を通して、今後の課題を明確にすることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	教育実習では以下のことを学ぶことができるように実習に臨む。 １　教育理論と教育実践の統合 ２　幼児の発達と園生活の実態の把握 ３　保育内容の研究と実践 ４　クラス経営について理解を深める ５　色々な園務について、保護者会、地域社会への理解を深める ６　幼稚園教諭としての自覚 ※実習時期　２年次９月から１０月に行い４週間の期間とする。 ※実習先　各自が希望する幼稚園に依頼する。（依頼についての説明は、前年の 11 月～12 月に行う）	実習が開始するまでに、実習日誌の必要事項（実習生プロフィール、実習園の概要、配属クラスの環境、デイリープログラム）を書いておく。（実習が開始してからしか記入することができない場合は実習開始後に記入） 保育教材の作成を行い、練習しておく。 設定保育を行うために、教材や指導案を作成し、実践の練習をしておく。 ※予習時間は 1～2 時間		毎日、実習日誌を書く。 一日の実習を通して学んだこと、考えたことをまとめる。それをもとに翌日の実習のねらいを考える。 実習日誌は翌朝、必ず実習園の担当教諭に提出すること。 設定保育を実施した後、振り返りを行い、考察を深める。実習担当の先生（もしくは設定保育実施クラスの先生等）と振り返りを行うことが望ましい。 20 日間が終了した日に「実習を終えて」を書く。 ※復習時間は 2～3 時間	

		※その他 実習前に各園でのオリエンテーションを必ず行うこと。		
成　績　評　価	課題・レポート（30%）、その他（70%）			
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	実習先からの評価のフィードバックを行う。実習日誌は返却する。			
テキストおよび参　考　文　献	「教育実習の手引き」山口短期大学			
メッセージなど	幼稚園教諭二種免許：必修科目			

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼稚園教諭としての責務を自覚し、自分の修得した理論や知識を実践できる。	幼稚園教諭としての自覚をしっかり持ち、習得した理論や知識を正しく実践できる。	幼稚園教諭として自覚を持ち、習得した理論や知識を大きな間違いがなく実践できる。	幼稚園教諭としてさらに自覚が必要だが、習得した理論や知識を最低限実践できる。	幼稚園教諭としての適性が見られない。	その他（知識・理解・意欲・関心・態度）	60%
(2) 実習日誌の書式に従い、実習日誌を書くことができる。	用語の使用や表現の誤りがなく、詳しく丁寧に書いており、他の学生の模範となる。	用語の使用や表現の誤り。誤字。脱字がほぼなく、丁寧に書いている。	用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がいくつかみられるが、必要な箇所の記述はある。	用語の使用や不適切な表現があり、内容が読み取れない。	課題・レポート（意欲・知識・思考力・表現力・問題解決力）	20%
(3) 実習の事後指導を通して、今後の課題を明確にすることができる。	教育実習に関する実習先からの評価や自己評価をもとに、自分で今後の課題を見い出し、レポートにまとめることができる。	実習に関する実習先からの評価や自己評価をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見い出し、レポートにまとめることができる。	今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。	自分の今後の課題が見い出せず、レポートが提出されない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	10%
					その他（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	10%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
学校体験活動 School Internship	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECTP1001	1年次	前期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	実務家教員
実習	1	選択	木橋　奏子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○

概　　要	学校体験活動は、幼稚園教諭を目指す学生が、幼稚園で生活する幼児の姿や幼稚園の環境を観察するとともに、園の実務に対する補助的な役割を担うことを通して、幼児の実態と、幼稚園の教育活動の特色を理解することを目的とする。
到達目標	(1) 幼稚園の運営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制についての基礎を理解している。
	(2) クラス担任の補助的な役割を担うことができる。
	(3) クラス担任の役割と職務内容についての基礎を理解している。
	(4) 様々な活動の場面で積極的に幼児と関わることができる。

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション 学校体験活動とは	事前配布資料を読んでくる	2時間	授業の振り返りと課題レポート	2時間
2	事前指導①学校体験活動実施園について	事前配布資料を読んでくる	2時間	学校体験活動実施園についての確認	2時間
3	事前指導②学校体験活動実施について	学校体験実施園での行事について確認しておく	2時間	実施園での受入れ行事についての確認	2時間
4	事前指導③学校体験活動受入れ参加手続き	学校体験活動の目的等の確認	2時間	必要書類の完成	2時間
5	学校体験活動①の振り返りとまとめ	学校体験活動の報告書を作成する	2時間	学校体験活動の振り返りとまとめ	2時間

学校体験活動内諾園での活動
　クラス活動に参加し子どもと関わる、先生方の指示のもと園務の補助を行う、掃除・整理整頓や教材作成等の環境整備を行う等の内容が体験できるように行う。（1年次9月に5日間の活動を行う）
※学校体験活動は教育実習と異なり、担任の先生の業務の補助や行事参加を通して、幼稚園の様々な業務を体験することが主な内容である。

成　績　評　価	課題・レポート（20%）、授業への取り組み（20%）、その他（60%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	レポートや配布資料はファイルにとじ、次の時間の復習や授業の振返りに使用します。
テキストおよび参考文献	授業時に資料配布
メッセージなど	幼稚園教諭二種免許：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼稚園の運営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制についての基礎を理解している。	事前指導の内容をほぼ完璧に理解している	事前指導内容をある程度理解している	事前指導の内容を最低限理解している	理解できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・知識・理解）	20%
	事前指導の内容をほぼ完璧に理解している	事前指導内容をある程度理解している	事前指導の内容を最低限理解している	理解できていない。	課題・レポート（関心・意欲・態度・知識・理解）	5%
(2) クラス担任の補助的な役割を担うことができる。	場面に応じた補助的な役割を積極的に担うことができる。	場面に応じた補助的な役割を担う姿勢がみられる。	最低限指示された役割を担うことができる。	役割を担うことができない。	その他（思考力・理解・判断力・表現力）	20%
	場面に応じた補助的な役割を積極的に担うことができる。	場面に応じた補助的な役割を担う姿勢がみられる。	最低限指示された役割を担うことができる。	役割を担うことができない。	課題・レポート（思考力・理解・判断力・表現力）	5%
(3) クラス担任の役割と職務内容についての基礎を理解している。	クラス担任の役割と職務内容についての基礎を十分に理解している。	クラス担任の役割と職務内容についての基礎をある程度理解している。	クラス担任の役割と職務内容についての基礎を最低限理解している。	クラス担任の役割と職務内容についての基礎を理解していない	その他（知識・理解・思考力・判断力・協働性）	20%
	クラス担任の役割と職務内容についての基礎を十分に理解している。	クラス担任の役割と職務内容についての基礎をある程度理解している。	クラス担任の役割と職務内容についての基礎を最低限理解している。	クラス担任の役割と職務内容についての基礎を理解していない	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・協働性）	5%
(4) 様々な活動の場面で積極的に幼児と関わることができる。	様々な活動の場面で役割を十分に把握し、積極的に幼児と関わることができる。	様々な活動の場面で役割を十分に把握し、ある程度積極的に幼児と関わることができる。	様々な活動の場面で役割を十分に把握し、最低限幼児と関わることができる。	様々な活動の場面で関わることができない。	その他（思考力・表現力・創造性・協働性・問題解決力）	20%
	様々な活動の場面で役割を十分に把握し、積極的に幼児と関わることができる。	様々な活動の場面で役割を十分に把握し、ある程度積極的に幼児と関わることができる。	様々な活動の場面で役割を十分に把握し、最低限幼児と関わることができる。	様々な活動の場面で関わることができない。	課題・レポート（思考力・表現力・創造性・協働性・問題解決力）	5%

授業科目	対象学科・専攻	ナンバリング	年　次	期　別
保育・教職実践演習（幼稚園） Practice of Teaching Profession(Kindergarten)	児童教育学科 幼児教育学専攻	24ECTP2004	２年次	後期

講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員	実務家教員
演習	2	選択	木橋　奏子・平田 睦美・中津 愛子	

ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。	○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。	○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。	○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。	○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。	○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。	○
概　　要	教育実習と教職に関する既習の科目の知識と技術の統合をはかり、幼稚園教諭として資質能力を高めることを目的に、グループ活動やロールプレイ、地域子育て支援行事への参加などの実践を組み入れ演習形式で授業を行う。	
到達目標	(1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。	
	(2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。	
	(3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育の実践を通して表現することができる。	

授業内容と進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション・教育実習の振り返り（自己評価）・教職履修ファイルの記入木橋	教育実習日誌をまとめてくる	2 時間	授業の振返りとファイルのまとめ	2 時間
2	１年生に対する実習についての話（観察実習）準備① 木橋	事前配布資料を読んでくる	2 時間	模擬保育の準備	2 時間
3	１年生に対する実習についての話（観察実習）②	グループ企画の立案	2 時間	課題レポート	2 時間
4	１年生に「観察実習」のことを伝える　木橋・平田・中津	グループ企画の立案	2 時間	グループ課題	2 時間
5	模擬保育準備①意義・目的・内容　木橋・平田・中津	グループ企画の立案と教材作成	2 時間	グループ企画の立案と確認	2 時間
6	模擬保育準備②グループ分け ICT 機器を使用した保育についての説明　木橋・平田・中津	グループ企画の教材作成	2 時間	グループ企画の教材作成と確認	2 時間
7	模擬保育①1 グループ目 木橋・平田・中津	模擬保育の準備	2 時間	模擬保育の準備	2 時間
8	模擬保育②2 グループ目 木橋・平田・中津	模擬保育の準備	2 時間	模擬保育の準備	2 時間

	9	模擬保育③3 グループ目 木橋・平田・中津	模擬保育の準備	2 時間	模擬保育の準備	2 時間
	10	模擬保育④4 グループ目 木橋・平田・中津	模擬保育の準備	2 時間	模擬保育の準備	2 時間
	11	１年生に対する実習についての準備（施設実習） 木橋・平田・中津	事前配布レポート	2 時間	課題レポート	2 時間
	12	１年生に「施設実習」の事を伝える 木橋・平田・中津	グループ企画の立案	2 時間	課題レポート	2 時間
	13	模擬保育の振り返り 教育実習評価表に基づく事後指導と今後の課題の明確化① ドキュメンテーション制作① 木橋・平田・中津	グループでの話のまとめ	2 時間	課題レポート	2 時間
	14	教育実習評価表に基づく事後指導と今後の課題の明確化② ドキュメンテーション制作② 木橋・平田・中津	事前配布資料を読む	2 時間	各自の課題への取り組み	2 時間
	15	保育実践及び授業の振り返り 教職履修ファイル整理 木橋・平田・中津	各自の課題への確認とまとめ	2 時間	課題レポート	2 時間

成　績　評　価	課題・レポート（30%）、指導案（10%）、授業への取り組み（15%）、発表・プレゼンテーション（30%）、毎回の授業の感想・振り返り（15%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	レポートや配布資料はファイルにとじ、次の時間の復習や授業の振返りに使用します。
テキストおよび参　考　文　献	参考文献：幼稚園教育要領
メッセージなど	幼稚園教諭二種免許：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。	幼稚園教諭としての資質･能力が磨かれている。	幼稚園教諭としての基本的な資質･能力が見られる。	幼稚園教諭としての資質･能力の最低限の基本が見られる。	幼稚園教諭としての適性が見られない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・協働性・表現力）	15%
	幼稚園教諭としての資質･能力が磨かれている。	幼稚園教諭としての基本的な資質･能力が見られる。	幼稚園教諭としての資質･能力の最低限の基本が見られる。	幼稚園教諭としての適性が見られない。	毎回の授業の感想･振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・態度・協働性・表現力）	15%
(2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識･理解･思考力･判断力･問題解決力）	30%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	発表・プレゼンテーション（知識･理解･思考力･判断力･問題解決力）	10%
(3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育の実践を通して表現することができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	表現することができない。	指導案（知識・理解・技能・判断力・表現力）	10%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	表現することができない。	発表・プレゼンテーション（知識･理解･思考力･判断力･問題解決力）	20%

学校法人 第二麻生学園

YJC 山 口 短 期 大 学

〒747-1232　山口県防府市大字台道字大繁枝 11346 番の２
TEL　0835-32-0138
FAX　0835-32-0149
URL　https://www.yamaguchi-jc.ac.jp/
E-mail　info@yamaguchi-jc.ac.jp

山口短期大学 博多キャンパス

〒812-0013　福岡県福岡市博多区博多駅東１丁目 19 番 18 号
TEL　092-483-1900
FAX　092-483-1905